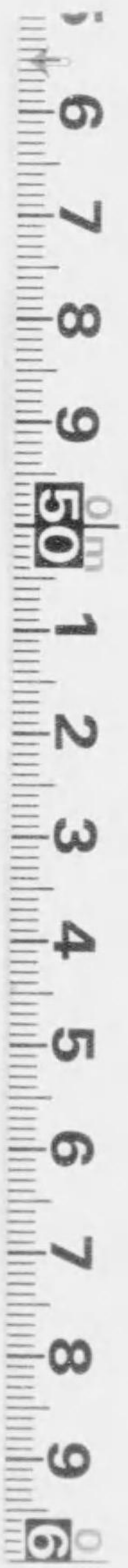




338
240



始

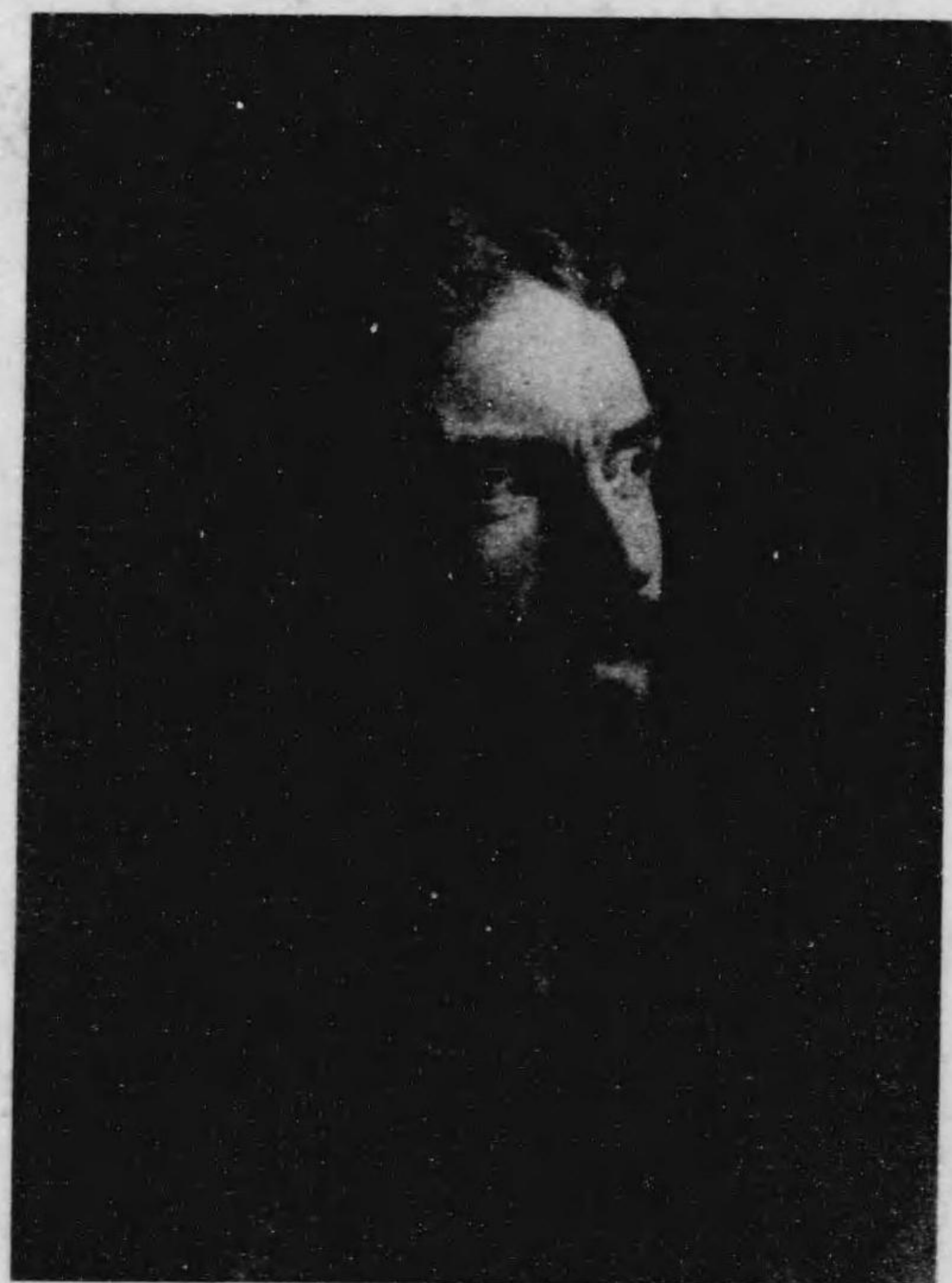


338-240

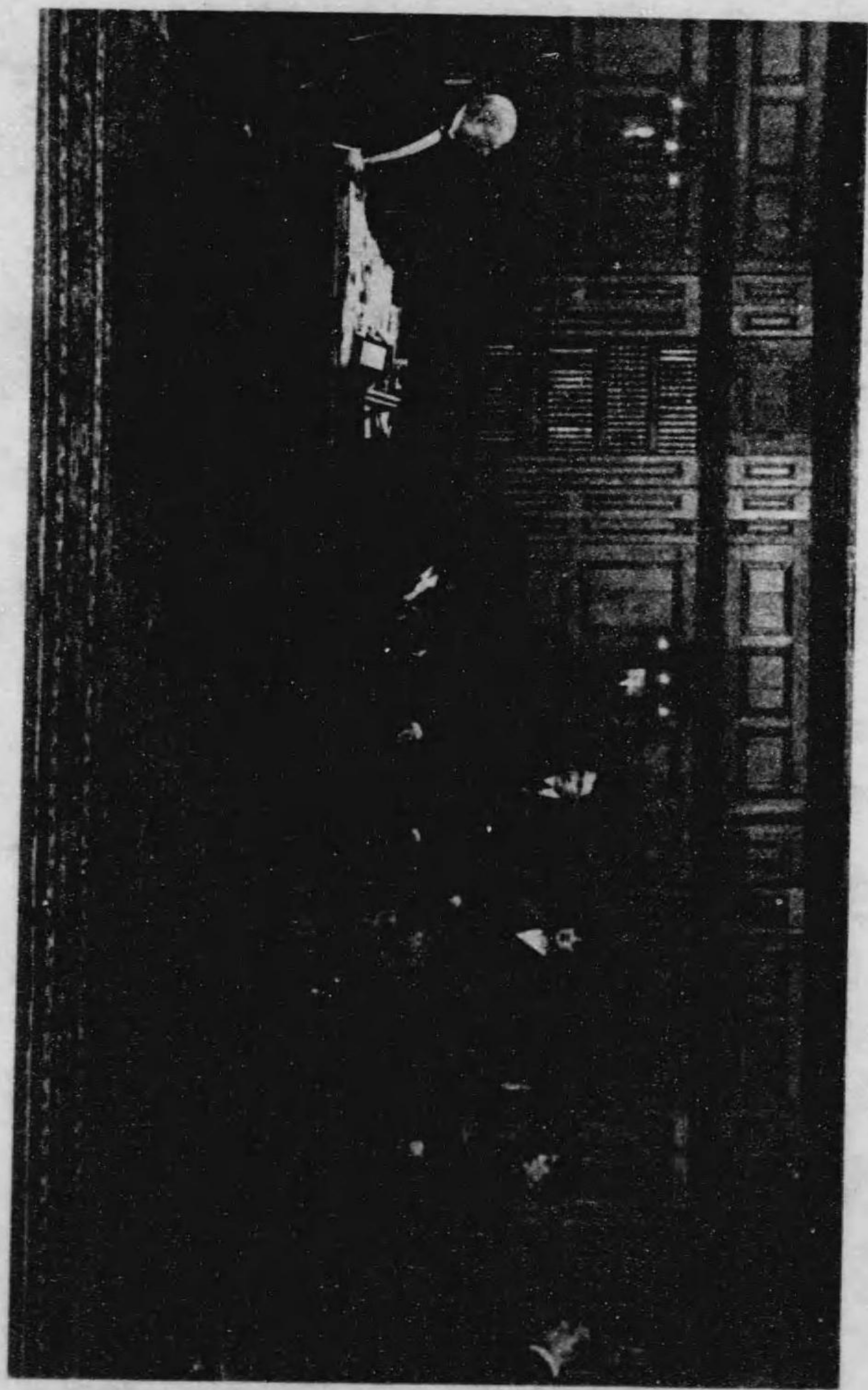
人
と
超
人

文學士
細田
枯萍
譯

大正
2. 12. 11
内交



1860
1861



序

前世紀の九十年代の後半、噫、歳は早く立つものだ、かれこれもう二昔にもなるその頃數年に亙つて予は Saturday Review の愛讀者であつた。此週刊雜誌は政見に於て極端な保守派であつたが、當時の編輯長はたしか Frank Harris であつて、着眼頗る非凡である、其沙翁論もそろそろ發表され、其他文藝記事の中に面白い讀物が毎週きつと一二は載つてゐた。Francis Thompson の抒情詩、Huysmans の小説、Renoir の繪畫、Maeterlinck の戯曲等に依つて、英國の具眼者がいかに刺戟され、はた、反應した有様は新藝術の曙光とも見る可き黎明の白みわたる趣で、絶えず幾多の評論に現はれた。Beardsley, Symons, Watson, Davidson の名が騒壇の一部に喧傳せられ、Kipling, Wells の作が一般讀書界を動かすに至つた當年の形勢は、東洋の一隅に在つて、この道に何の師友も無く、遙かに唯ひとり、海外の藝術に憧がれて

二
ゐた予の心をどよめかしたが、殊に Wagner を説明し、Ibsen を紹介し、傍ら英の劇壇に峻烈な批判を下した G. B. S. の評論には覺えず快哉を叫ぶことが幾度もあつた。而も筆者の何人たるかは、まだ知らなかつたのである。

George Bernard Shaw は一八五六 Dublin の生であるから、此時齡不惑に近かつた。母の感化と樂堂の出入とによつて、音樂の知識を蓄へ、Vernon 畫人傳を携へての畫堂巡にいつか美術の鑑賞眼を養ひ、Henry George の單稅論 Karl Marx の資本論に刺戟されて、社會改良の熱心を起し、一八八四 Fabian Society の創立に與つて以來、始は公園に街頭に車上に、戶外演説を試み、漸くにして新聞雜誌上に奇抜な劇評、音樂評を發表するやうになり、終に World 紙上に Wagner の新聲を辯護し賞揚して、英國樂界の覺醒を計つたので G. B. S. の名は頓に揚つた。一八九一 Grein が Independent Theatre に那威詩人の「悲劇・亡靈」を演じて、俗衆の嘲笑を買つた時も、自から進んで新曲の美を切言して、守舊の徒を驚かし、一八九二の

秋、この「獨立劇場」の設立者が、演ず可き程の價値ある英國の作の無いので當惑してゐるのを見て、俄に筐底の舊稿を増補して、之を Royal Theatre に上場せしめた。即ち Widower's Houses がこれだ。

一八九二より九六までに書いた、一八九八出版の Plays, Pleasant and Unpleasant に收めてある七種の作、并に一九〇一出版の Three Plays for Puritans は、今日こそ日本の讀書界や劇壇の一部に知れてゐるが、當時は、唯、文學の讀者に味はれるのみで、殆ど見物に觀られることは無かつた。然るに其頃英國へ來遊した維也納の小説家、戲曲家 Siegfried Trebitsch が William Archer の勸によつて、始めて是等の新作を読み、頗る感心した結果、其の中三種を翻譯して一九〇三、二月二十五日 Wien の Rainund Theater に The Devil's Disciple 同年四月二十一日 Frankfurt am Main に The Man of Destiny 同年十一月十九日 Dresden に Candida を演じて、皆成功した。これが今日の流行を來した源である。

翌年伯林の劇界は Agnes Sorma, Max Reinhardt の妙技と Georg Brandes, Hermann Bahr の好評とに依つて、わが劇詩人を喝采し、續いて他の諸作も獨逸の各地に演ぜられたが、倫敦の梨園はまだ門を閉ぢて、其一をも入れない。唯一九〇三、この翻譯の原本 *Man and Superman* が「革命家要録」「革命家座右銘」等の附録と共に出版せらるゝや、この深刻にして機智に富み、憐む如く笑ふ如き全篇の精神は深く讀書界に感動を與へた。

是に於てわが劇詩人の運勢は一轉した。會々亞米利加は紐育克其他の都市に Arnold Daly, Richard Mansfield 等の演技に依つて上記の諸作を味はつてゐたが Robertson が今、こゝに翻譯になつた新曲を演じ、米國東部の諸市を風靡するに至つては、さすがの英國も黙つては居られぬ、機運は終に運り來て、おなじく Fabian の一員、而も俳優兼作家である Granville Barker は Vedrenne と共に、協力して *Candida*, *Man of Destiny*, *You Never Can Tell* を Court Theater に上場して、意

外の成功を見、勢に乗じて、一九〇四——一九〇五の季節には *Man and Superman*, *John Bull's Other Island* を演じ、終に國王陛下の臨幸、上流社會の觀覽となり、一般社會の注目を惹くに至つた。次の季節には *Major Barbara* も頗る喝采を博したが、*Mrs. Warren's Profession* は例の検閲官より興行禁止の命を受けた。其爲、更に作家の名聲が高くなつたのは言ふまでも無い、而も此間、獨逸、露西亞、北歐の諸市は争つて前記の諸作を上場し、今なほ流行は已まない。唯、佛蘭西は伊太利亞、以色列と共に、まださほど熱中するに至らず、巴里にては一九〇八 *Théâtre des Arts* に *Candida* の興行があつたばかりと記憶するが、今回 *Jacques Copeau* 等が新設の劇團 *Théâtre des Vieux-Colombier* の豫定曲目中には *John Millington Synge* の *The Play Boy of the Western World* と共にわが詩人の作も掲げてゐる。

本書の原本には著者の友人で、永く *Times* の劇評家たる *Arthur Bingham Walkley* に與へる書、三十四頁の頗る面白い長論文がその儘、序文になつてゐる。其中に此

曲の大趣意は、自然説明されてゐるが、つまりは、著者の常に所謂「生の力」がいかに強く人類を動かして、進化の原因となるかを示すのが、目的である。これに於て男女兩性の交渉と對峙とが問題になり、結婚と家族制との上に新らしい光明を投げる事になる。これは社會上、倫理上、現今最も重大視されてゐる一大難問に一種の解決を試みた作だ。又今日の風俗習慣に關する批評を超越し、更に進んで自然に於ける人間の地位を知らうとし、他の生物の間に介して、何の目的の爲に、人間は作られたかといふ大不可思議を討究し、此世にある多くの惡弊は畢竟するに、人生の不完全な組織に基する、又昔より行はれる幾多の法則、信仰、慣習が、人類本然の目的に適應してゐないからだと言いてゐるが、單に舊慣を打破して快を叫ぶのみでは無い、根據ある社會上、心理上の材料と智識との上に新らしい建設を試みたのが、此曲の精神である。

以西班牙の古傳説 Don Juan の物語が、此曲に多少の脚色を假してゐるのは、序

文の明言に依らずとも解つてゐるが、王子 Hamlet 博士 Faust の如く時代により、作者によつて、種々の解釋を施される蕩兒 Don Juan は、今此作に於て、これまでに無い非常な變化を受けてゐる。一六二七の頃以西班牙の詩僧 Gabriel Teller の作つたといふ曲 El Burlador de Sevilla y Convidado de Piedra (世比利亞の女たらしと石像の客)に始めて現はれ、爾來數百種の、劇と詩と小説と歌劇とに様々の態を見せて、一六九〇頃伊太利亞人 Ciochini の喜劇 Il Convitato di Pietra 一六六五 Molière 作 Don Juan ou le Festin de Pierre 一六七六英人 Shadwell の悲劇 The Libertine 近代には一八一四獨人 Hoffmann の小説 Don Juan 同じ頃の作 Byron の長詩 Don Juan 等、更に近くは Musset, Gautier, Bandelair の詩、或は現代の詩人 De Régnier, Comtesse de Noailles の作などに歌はれてゐる千三人の女を誑ましたその鷹揚な寛濶姿は Mozart の歌劇 Don Giovanni の音樂に依て、最も廣く知られてゐるだらう。現に本書第三幕の大半は夢の場になつてゐて、管絃の樂聲につれ、昔ながらの姿に

なりすました主人公が地獄に現れる筋であるのを見ても、ある歌劇の思出があることは知れる。一體主人公 John Tanner の名は素より Don Juan Tenorio に、女主人公 Ann の名も Doña Ann に基き Octavio も粉本がある。著者の明言に、山賊 Mendosa は Sir Conan Doyle の小説から假りたとあるから、多分あの拳闘小説に出る猶太人の名を持つて来たのだらうし、有名な Spaurville, Leporello の變身 H. の音がとれてゐる處に面白味がある。Harry Straker は H. G. Wells が好んで描く人物と似通つてゐる、又有限責任 Mendosa 會社設立の事は、今西印度領のさる高官、實は昔著者の友人であつた某氏の考に胚胎してゐると斷つてゐる。これは多分先年日本に來遊してわが政府に頗る欺待された社會主義者 Sidney Webb 等と共に社會改良に熱心であつた Sidney Olivier を指したのであらう。女主人公の趣向は十五世紀、和蘭陀道德劇 Everyman の興行を観て思付いたのでさうだ。

此曲をちよいと見ると現實と空想との雜然たる混合があつて、眞面目か笑談か、

區別し兼ねるため、或は直に之を作品の缺點と速斷したくなる。然しこの二分子は在りのまゝ人生と、在らまほしい人生とに相當してゐる。作中人物も抽象風、象徴風の一面と現實具體の他面とを具へ例へば主人公が Don Juan としては、迷誤を脱却して人生の眞意を達觀した哲人でもあり Fanner としては、社會の改良に熱中して、特に兩性問題に思を凝らしてゐる現代の英人であるやうなものだ。又曲中の諸問題は當來に互つて、人類一般の休戚に關してもゐるし、同時に又英帝國の經濟問題、女子過産に由來する結婚難の現象にも絡んでゐる。

而して中心の根本思想は超人の出現を促す生の力の活動に在る。此力は本能である、無意識である、漸くにして自覺を得來つて欲望となり、意志となり、古來の舊態を脱却しようとしてゐるが、社會は種々の障礙を挿んで、此進化を妨げ、就中女性に侮る可からざる才は生殖本能の大勢力を武器に、男性の發展を阻んで了ふ。なほ暫らくの間は、女性の威力が横暴を極め、社會各般の制度も亦これを援助する爲、

超人の出現が後れがちだらう、而も早く更に自由な社會を建設しなければ、人生の眞目的は達し得られなるといふのが、全篇を貫く思想らしい。著者自からの仄めす如く、この思想は Bunyan, Blake, Shelley 又 Tolstoj, Nietzsche, Lamarck, Darwin に負ふ所があるやうだが、別に著るしい作家獨得の創見も少くない。Don Juan 傳説の換骨奪胎としては、此曲が最も多く近代の思想を盛つた作であると言へる。始は唯の不信心者、女たらし、暫らくして稍凄みあり威嚴ある亂行者、更に進んでは女性の理想を逐つて永久に満足し得ぬ煩悶の徒となり、浪漫主義の高潮に乗じては、一切の束縛より脱離して、感情の走するが儘に行動したく思ふ情熱家となつた Don Juan はつまり旺盛なる勢力と飽く事知らぬ好奇心との結合である、人間の心の奥に潜んで、種々の事情の爲、發達を遂げられないこれらの二性質が、傳説の衣を着て百代に現はれ、世紀世紀の變り行く思想と感情とを被りながら、當來超人の世に憧がれてゐるのが、此物語の核心である。千三人の脆い女などを誑ますのは肝心の

事業で無い。現に本書の筋を見ると、他に迫つて、戀愛を無理強ひし、終に對手を擒にするのは、女の方であつて、Don Juan は茲に Doña Juana となつて、女主人公の身に現はれてゐる。而も此傳説が、永久の生命を有して、幾多の詩人を動かす所以のものは、一切の障礙を事ともせず、常に絶えず前進向上して超人の世を來さうとする生の力を藏してゐるからだ。勢猛に一時は凡てを燬き盡すばかりになる戀愛は、もとより一大本能であるが、そのみにては、終に人生の全局を被ひきれない。此曲を読み且つ味ふ人々は、まづ此點に留意せねばならぬ。予はこの詩人の人生觀の最も豊かに、行届いて現はれた一傑作として、此曲を推奨したいから其眞意の誤解されない事を切に冀望するのである。

大正二年十一月

上 田 敏

人と超人

人物

ジョオン、タナア

ロオバック、ラムズドゥン

スツザン、ラムズドゥン——ロオバックの妹いもうと

オクテヴィアス、ロビンソン

ヴァイオレット、ロビンソン——オクテヴィアスの妹いもうと

ホワイトフィールド夫人おにん

アン、ホワイトフィールド——ホワイトフィールド夫人おにんの娘むすめ

バナアド、シヨウウ作
細田 枯 萍 譯

マロオン

ヘクタア、マロオン——マロオンの息子

ヘンリー、ストレイカー——自動車の運転手

小間使

メンドザ

無政府主義者

佛頂面の社会民主主義者

騒々しい社会主義者

デニヴァル(佛蘭西生の社会民主主義者)

以上の三人は皆赤の襟飾を着けてゐる。

英國生の山賊共數多

山羊飼の服装せる山賊

西班牙士官及兵士共

悪魔

ドン、ホッアン、テノリオ

ドニア、アナ

第一幕

ロオバック、ラムズドゥンは書齋で朝来た手紙を次々と開いて見てゐる。書齋の家具は何れも立派な確りした物計で、一目見ても持主の資産家であるのが分る。其邊には座の跡もない。で、必つと下には少くとも女中二人と小間使が居り、其上に女中頭が始終二階に詰切つて、念入に拭掃除をさしてゐるに違ない。床計りかロオバックの頭の天頂に迄磨がかゝつてゐる。で、晴天の日は只一寸點頭いた丈で、遠くの陣營に命を傳へる事が出来る。併し其他の點では軍人らしい處がない。人が悠然と沈着いた様子や、他の尊敬を豫期する様な、重々しい態度が自然に備り、きつと結んだ口元が和いて品よくなるの

は、大概忙しい實業界に成功して、人の反對も失せ、餘裕や、悦服や、權力が得られる様になつてからの事だ。彼は非常に沈著いた立派な人と云つた丈ではまだ足りない。非常に沈著いた立派な人の中でも其頭、重役中ならば社長、議員中ならば參事會員、參事會員ならば議長と云ふ處だ。鐵色がかつた灰の四つの毛の總が、耳の上と開いた顎の兩隅に整然と對をして生えてゐる。此毛はやがて雲母の様に眞白になる性質のもので、今でも色を離して考へれば、必ずしも其に似てゐないでもない。彼は黒のフロックと白の胴着を着てゐる（今は晴やかな春だ）。洋袴は黒でもなく、と云つて目立つ程の青でもなく、近頃の織屋が沈著いた人達の宗教と調和する様に工風した例の何ともつかない混色のものだ。今日はまだ一度も外出しないらしい、まだ上靴の儘である。靴は何時でも穿ける様に、磨いた儘爐の前敷の上に揃へてある。彼が侍僕も置かず、速記や指彈寫字機の使へる秘書も置かない處を見ると、此大家の家庭にはまだ新しい流行や、新しい遣り口、又は近頃始めたフォルクストンへ土曜から月曜へかけて、一等の往復汽車賃ぐるめ二十圓餘りて、立派に紳士らしい待遇をする鐵道旅館會社の趣向などは、殆んど没交渉なのを考へずにはゐられない。

ロオバックは何歳だらう。此は思想劇の始に於ては極めて重大な問題だ。なぜと云ふにかう云ふ場合には、凡ての事が彼の青年期が、前世紀の六十年代だつたか、八十年代だつたかと云ふ事に依つて極まるからだ。併し事實としては彼は千八百三十九年の生で、小供の時から唯一神教の信者であり、政治上には自由貿易論者で、「種の起原」の出版以後は進化論者となつてゐるので、何時も自分では尤も進んだ思想家、尤も大膽な改革家と思つてゐる。机に向つて座ると右側はポトランド、プレスに臨んだ窓になる。此窓を通して、恰度前舞臺から奥を窺く様に、物好きな人は窓掛の間から横顔を見る事が出来る。左側は奥の室の仕切の壁で、其處には立派な書架があり、戸は壁の眞中より少し彼方に當つてゐる。彼の向側の壁に接して左手にジョオン、プライト、右手にハバット、スメンサアの半身像が置かれてゐる。此半身像の間にはリチャド、コアドワンの浮刻にした肖像畫、マルティノオ、ハックスレイ、ジョオシ、エリオットなどの引延寫眞、ツイ、エフ、ウアツの比喩畫の單色複寫（ロオバックは美術を解し得ない人であり勝な、大熱心で美術を愛してゐるのだ。）其から各時代の偉人を表した、テラロオシ筆の巴里美術殿の壁畫の、デニボンの版畫の寫しなどが掛けてある。彼の後の壁際の暖爐棚の上方には、何日頃のもの

とも分らぬ、一族の者共の肖像畫がある。

一脚の椅子が業務上の訪問客のために机の傍に置かれ、別に二脚の椅子は二個の半身像の間に、壁に接して置いてある。

小間使は客の名刺を持って入つて来る。ロオバックは其を取つて嬉し相に頷く。確に氣に入りの客らしい。

ラムズドゥン お通し申せ(小間使は出て行き、客を連れて歸つて来る)

小間使 ロビンスン様でございます

ロビンスン君は珍らしい可愛い、顔の青年である。かう云ふ可愛い、男が一つの話に二人と出て来ると云ふことは一寸想像し得られないから、人は必ず彼を見て若い方の立役と思ふに違ない。纖弱な格好のいゝ骨組、つい此頃着始めたらしい優美な喪服、形のよい頭、僻のない目鼻立、綺麗な可愛ゆい口髭、澄んだ正直さうな眼、若々しい健やかな顔の色艶、縮れてはぬないが質のいい光澤のある、よく刷毛のかゝつた暗褐色の髪、人柄のよささうな弓形の眉、眞直な額、格好よく先の細くなつた顎、凡て此等はやがて戀して、ために苦しむ人の相を現はしてゐる。併し戀するにもせよ、苦むにもせよ、必ず深き同情をもつて酬いられると云ふことは、彼の眞面目な親切さと、熱心なおとなしい優しみに見ても確である。彼は他人に愛せられる性質の男なのだ。彼が現はれるとラムズドゥンの顔は父らし

い好愛と歡迎にくずれる。併し其表情は若者が喪服をつけ、顔に悲みの色を湛へて近寄つて来た時にすぐ又仰々しい悲哀に變つて終ふ。ラムズドゥンは悲の理由柄を知つてゐる様だ。若者が黙つて机の方に進むと、老人は立上つて無言の儘手を差延べて握手する。——長い親しい握手。其様子では纏の愁歎事は二人に共通なものであるのが察せられる。

ラムズドゥン (やうやく握手を切上て氣を取直し) まあいゝさ、オクテヴィアス。此は誰にもある事だ。人は皆何日かは逢はねばならぬことなんだ。まあお坐り(若者は來客用の椅子に掛ける。ラムズドゥンも自分の席に着く)

オクテヴィアス はあ、誰も逢はねばなりません、僕は非常に御恩になつたんですから。死んだ父に代つて何も彼もして下さつたんですから

ラムズドゥン 自身に息子がなかつたんだからのう
オクテヴィアス 併しお嬢さんはおありなさいます。そして其でも妹に僕と同じに親切にして下さいました。其にまたあんなに急なんですもの。僕はいつも御恩返がしたい、子供が親の世話を受ける様に、決して色々して下さつた事を當然とは思

つておませんと云ふことを、一度お知らせ申度いと思つて其機會を待つてゐたのです。其にもう死んでお終ひなすつて——少しもそんな模様もなく、急にあつなつてお終ひなすつて。あゝ、もう何としても僕の心持は解つて下さらないでせう
(手巾を取出して故意とらしからず泣く)

ラムズドゥン 其は君何とも云へないよ。彼方で知つてゐたかも知れん。それは分らない。さあ、もう泣いては不可ん(若者は強て氣を直して手巾を仕舞ふ)さうさう。ちや君の氣のすむ話をして上げやうか。私が最後に逢つた時——恰度此室だつたが——私にこんな事を云つてゐた。「テヴィは胸の廣い正しい兒で、世間の人達が自身の兒から格別孝行も受けない處を見ると、私はどの位彼が本當の子よりいゝか分らぬと思ふ」つて。それ御覽、此で氣も治つたらう

オクテヴィアス ラムズドゥンさん、ホワイトフィールドさんが何日も僕にさう云つておいてでした。「私は世の中でほんとに正しい人は只一人しか知らない。そして其方は口

オバック、ラムズドゥンさん」ですつて

ラムズドゥン 否、其はホワイトフィールド君の最良目だよ。私達はずいぶん古くからの友達だから。其はさうと君のことに就て、まだ他にも云つてゐた事があつたよ。

さあ、君に其を云つてどうか知らん

オクテヴィアス 何方とも貴方の思召す様になすつて下さい

ラムズドゥン 其は嬢さんの事に就てだつたかの

オクテヴィアス (熱心に)アンさんのことですか。其なら萬望話して下さいませんか

ラムズドゥン さう、まあ、詰りかうなんだ。矢張り君が實子でなくてよかつたつての。

つまり向ふでは君とアンニイが何日かその……(若者はまさしくと顔を赧める)さう、矢張り

り私は云はぬ方がよかつたかも知れん。併し彼方は眞面目だつたんだからかう

オクテヴィアス あゝ、僕は何か前途に見込があると思へばいゝんですけど。金とか

世間で云ふ地位などには僕は餘り執着はなく、どうしてもさう云ふ物のために奮

闘して見る氣にはなれないんです。處でアンさんは氣立は實にいゝ人ですが、そんな事には何日も極めて熱心な方ですから、功名心のない者は人格として缺けてると思つてゐるんです。ですから若し僕と結婚したら、僕は何かの道で大成功をしなくても、其を氣恥しく思はない様に、何か其處に理屈を附けなければならぬと云ふことを、よく心得てゐるらしいんです

ラムズドゥン (椅子を離れて爐に背を向けて立つ) 馬鹿な。君は謙遜過るから不可ん。第一あの年齢で男の眞の價値なんか分るものか (一層眞面目に) 其に彼女は大變に親孝行な娘で、父の意思は犯されないものと思つてゐる。君は知るまいが彼女が分別のつく年頃になつてから、まだ一度も自分の思惑で此をかうするのあゝするのと云つた事がない。何日も極まつて「お父さんがかうせいと仰やる」とか「さうしてはお母さんのお氣に召さない」とか云つてゐる。其はほんとに彼の娘の缺點と云つてもいゝ位だ。で、私もよく物事は自分で考へてする様に成らなければ不可と云つ

てゐるんだ

オクテグイアス (頭を振つて) ラムズドゥンさん、僕はお父さんが希望していらしたからと云つて、結婚して下さいと云ふ譯には行きません

ラムズドゥン さう、其は不可かも知れん。さう、其は勿論不可ん。成程其は不可ん。さうだ。併し君が自分一己の力で彼女を手に入れたら、彼女の希望許りでなく父の希望も併せ果す事になつて、彼女には非常な幸福ぢやないか。ねえ、これ、君には一つ云つて見る氣はないか。どうだ

オクテグイアス (面に快活を裝ふて) 何にしましても僕は決して他の人は娶りません。其丈はお約束が出来ます

ラムズドゥン なに、そんな必要はないさ。彼女は必つと應ずるよ——尤も……(かう云つて急に眞面目になる) 君には一つの大きな缺點があるがな

オクテグイアス (氣遣し氣に) 其缺點とは何の事でせう。尤も缺點は澤山ありますので、

どの缺點と申した方がよいかも知れませんが

ラムズドゥン では云つて上げやう(机から赤い布表紙の本を取る) 私は今此處に尤も忌しい、尤も不法な、尤も人を誤る、尤も下司な書物を持つてゐる。こんな書物は下司の執行吏の手で焼拂はれるのが當然だ。私は勿論讀んでは見ない。こんな穢しいものを讀むのは目の汚だ。だが私は此に關する新聞雜誌の評は讀んで見た。私には題目丈でもう澤山だ(讀上げる)「革命家必携便覽、徒食する富豪階級の一員ジョン、タナア著」

オクテヴィアス (莞爾して) 併しジャック君は……

ラムズドゥン (氣短に) どうか私の家で彼をジャックなどと云はずに置いて貰ひ度い(荒々しく書物を机上に投付ける。其から多少其て氣が濟んだやうに、机の傍を通過してオクテヴィアスの方へ遣つて来る。而して膝突合せて頗る莊重な口調で) これオクテヴィアス、私は今故人が君を評して胸の廣い男と云つたのを成程尤と思ふ。其は無論此男は君の學校友達で、二人

の間には少年時代の友誼があるから、肩を持たなければならぬ様に思ふのも無理はないが、境遇の變化と云ふ事も少しは考へて見なければならぬ。君は私の友達の家にて息子のやうに待遇はれてゐたのだから、君の友達は其處から追出す譯には行かぬ。で、此タナアと云ふ男も君の故て殆んど小供の時から絶えず出入もし。アンニイをも君と同じに構はず名で呼んでゐた。で、彼女の父の在世中は其は父の役目で私には關係がない。ホワイトフィールド君にして見れば、此タナアと云ふ男は云はばまだほんの小供で、其變な考なども小供が大人の帽子を被つたやうに、只笑つてゐれば其ですんだのだが、今ちやタナアはもう大人でアンニイももう一人前の娘になつてゐる。其上父はもうゐないのだ。私はまだ遺言状の内容も明瞭とは知らんが、幾度も其話はきいてゐたので、必つと私をアンニイの保護者に定めてゐるに違ない。其は今君が此處にかうしてゐるよりも確な事實なんだ(語勢を強めて)で、私は今君に斷乎云つて置くが、アンニイが只君のために此者に親しくして行かなけ

ればならぬ様な地位に置かれるのは、此私が絶対に反対だ。其は第一アンニに可哀相だし、事柄として不都合だし、不親切な遣方だ。君は其を如何する意思であるかな

オクテヴィアス 併しアンさんは自分がかう云つてゐましたよ。「貴方のお考へはどうあらうとも、妾の大切のお父さんを知つておいでの方だから、何日〜迄も宅へいらしつて下さい」つて

ラムズドゥン (堪り兼ねて) 彼の娘は親のこととし云へばまるで狂氣だ(彼は突かれた牛の様にシヨオン、プライトの方に駆けて行く。併しプライトの顔には同情の影もない。其から憤々怒つてハバート、スメンサアに次の言葉を浴せかける。併しスメンサアはプライトよりも更に冷淡な顔をしてゐる) かう云ふと何だかオクテヴィアス、社会上の寛容にもそれ〜際限のあるものだ。私は決して頑迷な人間でも、偏狭な人間でもない。他の私程の働きもしない者が皆爵位を貰つてゐるのに、私が今でもまだ無爵のロオバック、ラムズドゥンでゐるのは、他の

者が皆貴族や教會へ追従してゐるのに、私丈は心の自由と平等の爲に戦つて來たからなんだ。ホワイトフィールド君と私は考へが進んでゐたがために、又しても又しても立身の機會を失つて來た。併し私は無政府主義とか、自由結婚とか、そのやうな物には賛成が出来ない。若し私がアンニの保護者となるのなら、アンニも私に對して義務があると思つて貰はなければ不可ない。私は不承知だ、私には同意が出来ない。彼女はシヨオン、タナアを家へ寄付ないやうにしなければならん。君も其積でゐて貰ひ度い(小間使が戻つて來る)

オクテヴィアス ですが……

ラムズドゥン (女に氣を配つて) シッ! 何だ

小間使 タナア様がお越になりました

ラムズドゥン なに、タナアが來た

オクテヴィアス ジャックが來たつて

ラムズドゥン よく圖々しく私の家へなど來られたものだ。逢ふ事はならんと云へ
 オクテヴィアス (氣を悪くして) そんなに僕の友達を門口から追返しなされるのは酷いと思
 ひます

小間使 (何も知らぬ様に) 門口に待つていらつしやるぢやございませぬ。奥様とお二階の
 應接にお話していらつしやいますんです。ホワイトフィールドの奥様、アン様、ロビ
 ンスンのお嬢様も御一緒にお越しなさいました (ラムズドゥンの胸の中は言葉には言ひ表は
 せない)

オクテヴィアス (ニツと笑つて) ラムズドゥンさん、ジャック君は何日もそんな風なんですよ。
 假んば追返すにしても一應お逢ひなさらなければなりません

ラムズドゥン (憤怒を抑へて一語一語投付けるやうに) 二階へ行つてタナアさんに失禮ですが、此
 方へおいで下さいと云へ (小間使出て行く。ラムズドゥンは要害にても據るやうに爐の前に歸る)
 ほんとに如何に無遠慮かと云つて……いや、此が無政府主義者の作法なら、君は

此を何と思ふ。其にアンニも一緒だなんつて。アンニ、アア…… (感情が激して咽
 が塞る)

オクテヴィアス はい、其で僕も驚いてゐるんです。ジャック君はアンさんを非常に怖が
 つてゐるんですから。必つと此は何か譯があるに違ひありません

ジョオン、タナア君は突然扉を開けて入つて來る。彼は一口に鬚髯のある大男と云つて終ふにはま
 だ年が若過る。併し中年にはやがて其範疇に入るべき人と云ふ事は、もはや既に疑ふ事は出來ない。
 彼にはまだ若者らしい纖弱した處が残つてゐるが、狃つてゐるのは決して若々しさではない。彼のフ
 ロック、コウトは總理大臣にも恥しくない。其に何となく胸を突出し、肩を聳かした様子、きりつと
 擡げた頭の格好、其から凜々しい額からオリムピアの勇士のやうに、後へ撫下した榛樹色の鬚、鬚と
 云ふよりは寧ろ毛の大束とも云ふべき凜々しい頭付は、アポロよりも寧ろジュピターを想起させる。
 彼は言葉が非常に流暢で、所作に落付がなく、何でもない事に興奮し (鼻息の荒い、開いた鼻孔と、
 少し剃ぎ過た、落付のない青い目を見て御覽)、殊に依つたら或は少し氣が狂つてゐるのかも知れない。
 衣物には非常に心を用ゐてゐる。併し其は華美好な虚榮心からではなくして、全く自己を尊重する心
 から來てゐる。で、彼は一寸人を訪問するにも、他の者が結婚するとい、家の臺石を据へる時位の手

数を掛ける。感じ易く、激し易く、誇張癖のある熱烈な人物で、若し同時に一種諧謔の念がなかつたら、手のつけられない誇大妄想狂者である。

今の處では此諧謔の方面が全然隠れてゐる。興奮してゐると云つた位ではまだ追付かない。彼の凡ての気分は興奮の個々の様式に過ぎないのだ。彼は今驚異物に捕へられたやうな態をしてゐる。而して爐の前敷の上に立つてゐる、ラムズドゥンを唯一撃で射殺すやうな見幕で、側目も振らずに進んで行く。併し彼の前際から取出したのは短銃ではなくして、中版寫字用紙に書いた書類である。彼は其を怒つて立つてゐるラムズドゥンの鼻先に突附けて怒鳴。

タナア ラムズドゥン君、此を何か知つてゐますか

ラムズドゥン (ツンとして) そんな物は知らない

クナア 此はホワイトフィルド君の遺言状だ。今朝アンさんの許へ届いたさうだ

ラムズドゥン アンと云はれるのは、ホワイトフィルド嬢の事でもあるんですかな

タナア ホワイトフィルド嬢の事かつて。なに吾々のアン、君のアン、テヴィのアン、其から今ちや僕のアンさ。實に此にや困つちやつた

オクテヴィアス (着背になつて立上る) 其はどう云ふ譯だね

タナア どう云ふ譯? (遺言状を高く差上る) 君は此遺言状に誰がアンの保護者に指定されてゐると思ふ

ラムズドゥン (冷やかに) 其は私だらう

タナア なに、君? 君と僕だよ。僕!! 僕!! 僕等二人なんだ (遺言状を机の上に投付ける)

ラムズドゥン 君? 豈夫か

タナア 忌々しいが眞實だから致方がない (オクテヴィアスの椅子に投げる様に腰をかける) ラムズドゥン君、どうかして僕を此中から除けて呉れたまへ。君は僕のやうにアンの氣心は知らないが、彼女は當前の女の遣れる事ならどんな悪い事でも遣る。そして其を皆僕等の故にして終ふんだ。何でも彼でも僕等に負はして、兎ても始末に終へやしない。云ふ事をきかすなんて鼠が猫に命令するやうなものだ

オクテヴィアス どうかジャック君、アンさんの事をそんなに酷く云はないで置いて呉れ
たまへ

タナア 此奴さんが彼女に惚れてゐる、其が又面倒なんだ。で、必つと嫌なら間に
なつて逃を張つて、僕が不賛成だからと云ふが、でなけりや結婚して君が命じた
と云ふだらう。ほんとにこんな酷い目に逢つたのは僕は始めてだ。殊に僕の年齢
や性格なんだから

ラムズドゥン 其を此方へ見せて下さい(机の傍へ行つて拾ひ上げる) 私とは舊い間柄のホワイ
トフィールド君が、私を君と一緒にするなんてそんなに私に不信用を抱いてゐやうと
はどうしても…(讀むに従つて顔色が變る)

タナア 此は皆僕の失策なんだ、其が何より残念で堪らない。彼の人がある時君がアン
の保護者になるんだと、さう云つて呉れた事がある。で、止せばよいのに僕は若い
娘を舊弊な思想の老人に任せて置くのは愚だと、あの人と大に議論を遣つたんだ

ラムズドゥン (呆氣に取られて) 私の考へが舊弊だと

タナア 素よりさ。僕は其時恰度「白頭政治を打破せよ」と云ふ論文を書き終つた處
で、理窟も云ひ、實例も擧げて是非物事は老人の經驗と、青年の元氣とを結合は
せなければ不可と云ふ事を切論した。で、日付があつた話をしてから僅二週間許り
後になつてゐる處を見ると、必つと僕の言葉通りに遺言狀を書換へ、君と二人を
一緒に保護者にしたに違ない

ラムズドゥン (蒼蒼になり、殺と) 私は其役はお断りしやう

タナア そんな事を云つたつて何になるものか。僕はリツチモンドから此處へ来る迄、
途中斷り續けて來たんだが、アンの方では「其は無論妾は孤兒ですから」とか、
「お父さんのゐた時には始終宅へおいで下すつた方でも、今となつてはお世話下
さらないのも無理はありません」とか、そんな事許り云つてゐる。成程考へたも
のだ。孤兒だと。あんな事を云ふのは、まるで甲鐵艦が波風が怖くつて堪らない

と云ふやうなものだ

オクテヴィアス 其はジャック君酷いよ。彼女は孤兒に違ないんだから。君は飽迄援けて遣らなければ不可ないよ

タナア 援けて遣れつて。何か危険でもあるのかい。彼女は法律上の権利はあるし、世間の同情は得てゐるし、其上金が充分あつて良心がないと來てゐるだらう。僕に遣らせやうと云ふのは、つまり一切道徳上の責任を負はせ、自分のしたい儘をして皆其を僕の故にしやうと云ふんだ。僕には兎ても彼女の始末は出來ないから、いくらでも迷惑はかけられる。其位なら寧ろ亭主になつた方がいゝ位なものだ
ラムズドゥン さう思つたら君は保護者になるのを斷つたらいい。私は無論君と一緒に遣るのはお斷りだ

タナア 其もいゝがさうしたらアンは何と云ふだらう。現に何と云つてゐる。やれ父の希望は神聖だの、貴方が責任を引受けて下さらうが下さるまいが、何日迄も保

護者と思つてゐますと云んだ。斷るなんつて。彼女に一旦見込まれたら、王蛇に巻付かれた様なもので、斷らうたつて斷れやしない

オクテヴィアス 僕の前でそんな事を云ふのは酷いよ、ジャック君

タナア (立上つてオクテヴィアスを慰めに行く。併し尙歎息の口調で) 若い保護者が要るのなら何故又君をしなかつたらう

ラムズドゥン あゝ、ほんとに何故しなかつたらう

オクテヴィアス 其はかうなんです。一度ホワイトフィールドさんが其事で僕の氣を引かれた事があつたんですが、僕が其役目をお断りしたんです。僕はアンさんを愛してゐますから、お父さんの定められた保護者として、自分を強いる資格がありません。僕はアンさんにも其話をしましたが、彼女も道理だと云つてゐました。僕が愛してゐる事は貴方も御存じ、ジャック君も知つてゐる筈です。若しジャック君が誰かを愛してゐたら、僕は如何に其人が嫌でも、ジャック君のゐる前で王蛇には比

べません(二つの半身像の間に座つて壁に顔を向ける)

ラムズドゥン 私はホワイトフィールド君が遺言状を作つた時、少し気が如何かしてゐたんぢやないかと思ふ。君は今彼の人(ひと)が君に動かされて其を書いたと云つたね

タナア 僕に動かされて書いたのを君は餘程難有いと思はなければならん。ホワイトフィールド君は君の骨折賃に二萬五千圓、其からテヴィには妹の結婚費以外に五萬圓残して置いて呉れた

オクテヴィアス (新に涙を流して) いえ、僕は其を頂く譯には行きません。僕等兄弟には勿體ない程よくして下さつたんですから

タナア なに心配しなくてもラムズドゥン君が遺言状を破棄したら、大丈夫君は貰へなくなるよ

ラムズドゥン ア、成程解つた。君は私を板挿にしたな

タナア 彼(あ)の人は僕(わ)にはもうあり過ぎる程金があるからと云ふので何も残しては呉れ

なかつた。つまり只でアンの世話をさせられるんだ。其で見ても気が確だつた事は解るぢやないか

ラムズドゥン (怖い顔をして) さう云へばさうだ

オクテヴィアス (立上つて今迄避けてゐた壁の傍から出て来る) ラムズドゥンさん、貴方はジャック君を誤解していらつしやるんです。ジャック君は正しい人で保護者になつても決して……

タナア 止して呉れたまへ。そんな事を云はれると氣色が悪くなる。僕は正しい男ぢやなくつて、死んだ人に惱まされてゐる男なんだ。テヴィ君は矢張り彼女と結婚して僕の荷厄介を拂つて呉れなけりやならん——あ、僕は此でも今迄君を彼女から救つて遣らうと思つてゐたんだ

オクテヴィアス 否、ジャック君、其は救ふんぢやない。僕の最大幸福を奪うんぢやないか

タナア さうさ、一生涯の幸福だからさ。若し此がたつた三十分一時間の幸福だったら、僕は財布を空にしても君に其を買つて遣るが、一生涯の幸福なんて誰にも其辛棒の出来るものぢやない。其はまるで此世ながらの地獄だ

ラムズドゥン (言葉荒く) 馬鹿な事を。もつと考へて物を云ふがい。でなけりや何處か他處へ行つて、他の人と話をしたらどうだ。私は忙しい身體だから君の愚な話の相手はしてゐられない(凄まじい勢で机の傍へ行つて自分の席に着く)

タナア おい、テヴィ聞いたか。千八百六十年より新しい考へつたら、頭の中に此許もありやしない。僕等はアンを他に相談相手もなしに、彼人丈に任して置く譯には行かないぢやないか

ラムズドゥン 私は私の人物や意見を君に輕蔑されるのを寧ろ誇と思つてゐる。君の意見はあの本に書いてある、あれなんだからう

アナア (熱心に机の方へ行つて) おや、君は僕の本を持つてゐるんですか。あれを何と思ひ

ます

ラムズドゥン 私があんな本を讀むと思つてゐるのか

タナア ぢや、何故買ったんだらう

ラムズドゥン あんな物を買ひはしない。誰か君の意見に感服してゐるらしい愚な女から送つて來たんだ。私は今恰度其始末をしやうと思つてゐる處へオクテヴィアスが來て、つい其儘にして置いたんだ。何なら御免を蒙つて今其始末をしてもい、

(非常な權威で屠籠の中へ投つける。タナアは自分の頭に打付けられた様に思つて、思はずきよつとする)

タナア 君も僕と同じに禮儀を知らないな。併し其で不要手數が省けて結構だ(又座る)

あの遺言狀は如何する積なんだね

オクテヴィアス 僕は今一寸思付いた事があるんですが、云つて見ていゝでせうか

ラムズドゥン あゝいゝとも。云つて御覽

オクテヴィアス 此件に就ちやアンさんの希望も參酌する必要はないでせうか

ラムズドゥン 私も無論道理のある事にはアンの希望も充分参酌する積りであるが、何を云つても彼女は女だからのう。其に年も若く世間見ずだからのう

タナア ラムズドゥン君、君は實に可哀相な男だ

ラムズドゥン (赫と怒つて) 君が私を何と思つてゐやうが、其をきかうとしてゐやしない

タナア アンは何でも自分の好きな様にする。其許りか僕等に自分のしたいと思ふ事をさせる様に云はせて置いて、若しまづく行つたら皆僕等の故にするに違ない。で、テヴィが先刻から頻と逢ひたがつてゐるんだから……

オクテヴィアス (耻かしさうに) そんな事はないよ、ジャック君

タナア 虚言を吐け、逢ひ度いんだ。だから應接から降りて来て貰つて、僕等にどうさす積か尋いて見やう。さあ、テヴィ早く行つて連れて来たまへ(テヴィイは行かうとする)其から永くのちや不可ないよ。僕とラムズドゥン君は先刻から變な調子で二人で向合つてゐるのは不愉快だから(ラムズドゥンは切齒をするが何とも云はない)

オクテヴィアス ラムズドゥンさん。棄て、お置きなさい、眞面目ぢやないんですから(出て行く)

ラムズドゥン (考へ、云ふ) タナア君、私は君程無遠慮な男に逢つた事がない

タナア (眞面目に) ほんとにさうでせう。併し僕でもまだ充分恥には打勝てない。吾々は恥と云ふもの、大氣の裡に住んでゐるんで、あらゆる自分に現實な物に恥ぢてゐる。恰度裸體でも恥ぢる様に、己を恥ぢ、親戚を恥ぢ、収入を恥ぢ、言葉付を恥ぢ、意見を恥ぢ、経験を恥ぢてゐる。冗談ぢやないよラムズドゥン君、僕等は徒歩を恥ぢ、乗合馬車に乗るのを恥ぢ、自用車を置かず軽馬車を雇ふのを恥ぢ、馬を二匹持たずに一匹持つてゐるのを恥ぢ、供廻りの別當の代りに庭男兼用の馬番を置くのを恥ぢてゐる。恥ぢる物さへ多ければ其人は身分があつて立派なんだ。現に君は僕の本を買ふのを恥ぢ、讀むのを恥ぢてゐるぢやないか。而して恥ぢないのは讀みもせずに其で僕を判断する事なんだらう。而も其すら他人と異つた考

へを持つと云ふ事に過ないんだ。僕がこんな強い人間になれたのも命名親の神様が、僕に此恥と云ふ賜物を與へて呉れなかつたからだ。苟も人の持ち得る徳は皆僕は持つてゐる。只……

ラムズドゥン 自分で自分がそんなに思へれば結構だ

タナア そんな事を云ふのは自分で自分の徳を口にするのは恥づべき事だと云ふので僕に其徳がないと云ふのぢやあるまい。君は心の裡ぢやよく知つてゐるんだ、僕は君にも劣らず眞面目な正直な男で、個人としても同じ位信實であり、政治的、道徳的には君よりは遙に眞實だ

ラムズドゥン (一番際どい處を遣られたので) そんな事はない。私は君によらず誰でも私を只普通の社會の一人として見る事を許さない。私は社會の偏見を惡み、偏狹を嘲つてゐる。何事でも自分で考へる權利を要求してゐるのだ。君は進んだ人間を氣取つてゐるが、失敬ながら私は君の生れない前から進んだ人間だつたんだよ

タナア 其は随分古い話ですな

ラムズドゥン 私は昔も今も進んでゐる。出来るなら私其旗印を撤つたと云ふ證據を擧げて御覽。私は昔よりはずつと進んでゐる。日に日に進んでゐる

タナア 歳丈はお進みなすつた、ポロニアスと云ふ格かね

ラムズドゥン ポロニアスだと。其で自分はハムレットの積りなんだらう

タナア なに僕は「見た事のない無遠慮者」ですよ。君は悪い人間と思つたら其しか云ひ様を知らないんだらう。で、僕の批評をしやうと思つた時、君は正しい正直な人だから、何と云へば一番悪くなるか心の中で考へて見たのだから。泥棒虚言吐、贗造者、姦淫夫、偽誓者、大食家、飲拔——かう考へて見てどれも僕に相應はないから、致方なしに僕の恥しがるぬ處を捉へたのだらう。さう、其はなる程仰の通だ。而して僕は寧ろ其を得意に思つてる。若し僕が自分の眞の「己」を恥ぢてゐたら、人前に出て君達の様な詰らぬ人間に見られて了ふんだ。少し無遠慮

を見習ひたまへ。さうしたらずんと立派な人間になれるから

ラムズドワン

私はそんな……

タナア

君はそんな虚名を欲しないと云ふのだらう。ハア、ハア、僕は必つとさう云ふだらうと思つてゐた。自動販賣器の口へ銅貨を投込んだら燐寸が飛び出す様に其はもう極り文句だ。君は其以外の事を云ふのが恥しいんだらう

瓦碎と一撃で相手を挫かうと思つてあり、用意してゐた返事が、永久に其機會がなくなつて終ふ。何故と云ふに恰度此時オクテヴィアスがアン、ホライトフィールドと其母を連れ戻つて來、ラムズドワンは飛上つて戸口へ二人を迎へに行つたからである。アンは美人かどうかは看者の趣味、主として年齢、性に依つて極まる。併しオクテヴィアスに取つては、彼女は心を蕩す様な美人で、其前には世界も全く變つて終ひ、個性の意識など云ふ小さな界限は、突然人類生活の支妙なる記憶に依つて無限に擴大せられ、或は遠く東方に於ける其が起源、或は溯つて吾々の墮落し來つた天國に迄も及ぶのである。尙オクテヴィアスに取つては彼女は實在化した傳奇であり、不條理中の條理であり、盲たる目の開眼であり、心靈の釋放であり、方處位の打破であり、あらゆる神秘の啓示であり、凡ての教憲の許容であり、血を氣化して「生命」其物の泉に湧く消魂の流に注がしむるものである。彼女の母に取つては

出来る丈柔く云つても、決して其とは似も付かぬものだ。と云ふのはオクテヴィアスの歎美が決して愚とか滑稽とか云ふ意味ではない。アンは姿勢から云へば極めてよく整つた女だ。其上氣品が高く、優美で、綺麗で、眼と髪付はえも云はれぬ程美しい。粉装も母のやうに痛ましい風はせずして、一方故人に禮を失はないと同時に、ラムズドワンの兼て誇とする、大膽な因はれない家の慣習を表はし得るやうな、黒紫の絹の喪服を工風してゐる。

併し以上はアンの美の説明としては皆的を外れてゐる。假に鼻を上を外らし、眼を斜視にし、黒紫の喪服を花賣娘の前垂姿や羽毛の飾に代へ、言葉の中からあらゆる目を取つて終つても、アンはまだ男を茫乎とさせる。人として活力的なものはないが、此も人と同じく時には天才の域に達する事がある。而してアンは此活力的天才の一人なんだ。と云ふのは決してお轉婆と云ふ意味ではない。其ならば非常な缺點で、眞の卓越とは云へない。尤も彼女の態度は稍近頃流行の露出で、衝動的に裝つてはゐるが、實は非の打ち處のない程端然とした縮のある女で、又確にさうも見える。のみならず彼女は自身でかうと思はない事は決して手を下さない、人として他人に信頼にせられ、又一旦かうと思込んだ上は他人のことなど餘り構はずに、假んば構ふにしても、構はなければならぬ程度迄しか構はずに、何でも遣つて退ける女として一部の者に恐れられる。一言にして云へば、もつと弱い方の女から「意地悪」と云はるゝ側の人だ

彼女の入つて來る様や、ラムズドワンの迎へる様子は實に仰々しい。(アンはラムズドワンに接吻す

る。死んだホワイトフィールド君は、男運の沈んだ顔や（尤もタナアは別で、それはくしてゐるが）無言の握手や、音を立てないやうにと心を用ゐた椅子の上下や、鼻を塞らした寡婦や、目を潤まし胸を一杯にして口も利けないらしい娘の様子を見たら、殆んど自烈度いと思ふ程有難がるに違ない。ラムズドゥンとオクテヴィアスは、壁の側から椅子を持つて来て二人の婦人に進める。併しアンはタナアの傍へ来て其椅子に掛けやうとする。タナアは不作法に其を差出し、やがて机の角に故意と投遣に腰を掛けて、奪はれた腹癪をする。オクテヴィアスはホワイトフィールド夫人にアンの傍に椅子を進め、自分にはラムズドゥンが密にハバート、スメンサアの鼻の下に置いた空いた椅子に腰をかける。

序ながらホワイトフィールド夫人は小柄な女で、褪せた亞麻色の髪は卵に葉を載せた様だ。顔は鈍い様で、而も狡猾く、物に反対する僻から起つた軋り聲、態度にも何處か自分を隅に押付けやうとする誰か大きい人を、始終肘で押退けてもする様な妙な癖がある。一寸見た丈でも、彼女は自分で他人から悪な詰らぬ者のやうに扱はれてゐるのを知り、充分己を主張する丈の力もなくて、而も決して諦をつけ得ない性質の女であることが分る。オクテヴィアスは心を全くアンに奪はれてゐながらも、ホワイトフィールド夫人に何彼と心を用ゐてゐるのには、一種仁俠な、いぢらしい處がある。ラムズドゥンはタナアには目も呉れずに莊嚴に机の傍の席に着いて裁判を始める。

ラムズドゥン アンニ、私は今のやうな悲しい折に、こんな事を云はなけりやならんの

を眞實に氣毒に思ふんだが、實はお父さんの遺言狀に就て大變面倒な件が起つたんでね。貴女はもうあれを讀んで御覽だつたらうね（アンは胸が迫つて口が利けないやうに、呼吸を塞めて點頭する）實は私はタナア君と一緒に、貴女やロオダさんの保護後見人名指しであるのを見て驚いてゐる始末だ（間、一同不安な顔をするが、扱何と云つていか分らない。ラムズドゥンは答のないのに稍苛立つて言葉をつける）私はかう云ふ條件では引受けてよいかどうか分らぬ。其にタナア君にも何か異存がある様だ。尤も私には其理由がよく分らないが、其はタナア君が自身で話すだらう。併し私共は貴女の考へを聞いた上でなければ極めない事にしたんだ。事に依つたら私一人に託するか乃至はタナア君一人に任せるか、どつちかにして貰はなければなるまいと思ふ。二人で遣つて行くと云ふ事は、兎ても私共には出來さうもないからね

アン（低い音楽的の聲で）お母さん……

ホワイトフィールド夫人（急込んで）アンや、どうか其事は妾に背負はさないでお呉れ。妾は

其には何も考へはないし、またあつたにしても兎ても聞入れられやしまいからね。妻は貴方達三人でいゝと思つた事なら何でも構ひません（タナアは頭を擡げて凝つとラムズドゥンを見る。ラムズドゥンは腹立しまうに顔を反けて此目の合圖を受けまいとする）

アン（禮儀知らずの母には構はず、同じ優しい聲で言葉をつける）お母さんは誰方かに援けたり助言して頂かなければ、妻や妹の世話はし切れないと思つていらつしやるんでせう。妹には是非保護して下さる方がなくてはなりません。其に妾も多少年齢は上ですけど、まだ結婚もしない若い婦人ですから、一人で放つて置いて頂くのもどうかと思ひます。さうでせう、お祖父さま

タナア（飛上つて）お祖父様だつて。貴女は自分の保護者を皆お祖父様と呼つもりかねアン 馬鹿なことを仰しやるものぢやないのよ、ジャックさん。ラムズドゥンさんは妾には何日でもロオバックのお祖父さまなんですよ。妾はお祖父さまのアンニ。ラムズドゥンさんはアンニのお祖父さま。妾は初めて口の利けるやうになつた時から、

さう云ふ名を附けて上げたんです

ラムズドゥン（皮肉に）タナア君、此で異議はあるまいね。さあ其から何だね、私は貴女と同じ考だ

アンで、若し妾が誰方かに保護して頂くとしましたら、お父さんのお極め下さつた方を除けものにするには出来ないでせう

ラムズドゥン（唇を噛んで）ぢや、詰り貴女はお父さんの撰擇をいゝとお思ひなんだねアン 妾にはいゝとか悪いとか、そんな事は言へませんわ。妾は唯其を受けるだけです。お父さんは妾を愛して居て下さつたんですから、悪い様になさる筈はないんですもの

ラムズドゥン 其は無論貴女の心持はよく解つて居る。貴女は元よりさうある可き處で、私は實に感心だと思つて居る。併し其では貴女の思ふやうに事件の解決にはならない。今一つの例を言つて見る。假にだね、貴女が私に何か忌はしい行爲のあつ

たのを知つたとする——詰り私が死なれたお父さんの思つて居られた様な男でない事が分つて来たとする、其でも貴女は私がロオダの保護者となるのがいいとお思ひかね

アン お祖父さま、妾は貴方にそんな忌はしい事なんかあらうとは思へませんわ

タナア (ラムズドゥンに) 豈夫君がそんな事を仕出かしたんぢやあるまいね

ラムズドゥン (憤として) 勿論さ

ホワイトフィールド夫人 (沈著拂つて)

アン それ御覧なさいお祖父さま、お母さんは妾にそんな事を思つちやいけないと仰やるぢやありませんか

ラムズドゥン (ひどく感づいて) 貴女達はお二人共一家の事に就ては、非常に美しい優しい感情を持って居られるのだから、今の事情を旨く手落なしに云ふのが非常に難しい
タナア 其に君は決して事情を旨く手落なしに云つてやしない

ラムズドゥン (不機嫌に) それぢや君から云ふがい、

タナア 云はうとも。アンさん、ラムズドゥン君は僕は貴女の保護者に不適當だと云つて居るんだ。僕も其には同感だ。つまりラムズドゥン君の考では、若しお父さんが僕の本を讀まれたら、決して僕を保護者には指定しられなかつたらうと云ふんだ。先刻から云つて居た忌はしい行爲とはあの本の事なんて、貴女はロオダさんのためにも是非ラムズドゥン君一人に遣つて貰つて、僕に手を引かす様にしなければ不可ないと云ふんだ。さうと一言云ひたまへ、僕は退くから

アン だつてジャックさん、妾は貴方の本をまだ讀みやしないんですもの

タナア (肩籠の中を漁つて本を女に渡す) ぢや早く讀んで極めたまへ

ラムズドゥン (猛烈に) 私が保護者になるのなら、其本を讀むことは禁じます(拳で卓を打つて立上る)

アン 無論讀みませんわ、不可と仰やるのでしたら(本を机の上に置く)

タナア 一人の保護者が他の保護者の本を読むのを禁ずるやうだつたら、どうして其を極めるかね。假に僕が其を讀めと命じたら、貴女は僕への義理を如何するね
 アン (優しく) 貴方は決して故意と妾をそんな苦しい破目に陥れるやうな事をなさりやしないわ

ラムズドゥン (苛々して) さうくアンニさん其は皆尤もだ。而して先刻も云つた様に、非常に美しい、女らしい善い量見だ。併し貴女は何方かに極めて呉れなきやならん。私達も貴女と同じ様に苦しい破目に陥つて居るんだからう

アン 妾はまた年齢も行きませんし、経験もないのですから、兎ても自分には極められません。お父さんの思召が妾には何より神聖なんです

ホワイトフィールド夫人 貴女達お二人が引受けて下さらないにしても、其をアンの故になさるのは、少し可哀相かと思ひますよ。何だか知りませんが此世の中では、嫌な事は皆他人に塗り付け合するものと見えますねえ

ラムズドゥン 貴女は此をさう云ふ風に取つて下さるとは、私は實に心外です

アン (哀れつぽく) お祖父さま、貴女は妾のお世話下さるのはお嫌でせうか

ラムズドゥン 否、私は決してそんな事を云つた覺はない。私は唯タナア君と一緒に遣るのは大變困ると云つた丈なんです

ホワイトフィールド夫人 又何故でせう。可哀相にジャックさんが、どうかおしだつたんですか

タナア なに、僕の考がラムズドゥン君にや進み過ぎて居るんですよ

ラムズドゥン (憤然として) そんな事はない。其は嘘だ

アン さうですとも。何詰らない事を云つていらつしやるんでせう。誰だつてお祖父さま程進んだ方はないぢやありませんか。初めに色々面倒な事を云ひ出したすつたのは皆ジャックさんよ。ねえ、ジャックさん、こんな不幸な折ですから、もつと親切にして頂戴な。ねえ、妾のお世話をして下さるのは嫌

タナア (陰氣に) なに、僕は自分で招いたんだから、引受けなげやなるまいよ (本箱の方に行き、其處に立つて不機嫌に書物の題號を眺めてゐる)

アン (立上り、控目な面も抑へ切れない喜を面に表はし) ちや、皆様が承知して下すつて、お父さんの思召も通つたんですのねえ。此でお母さんも妾もどんなに嬉しいでせう

(ラムズドゥンの方へ行き兩手を握つて云ふ) 妾の大切のお祖父さまが始終妾の傍にゐて導き援けて下さるわねえ (振向いてタナアをチラと見る) 其から大力持のジャックさんも、

(母の傍を通り過してオクテヴィアスの傍に行き) 其からジャックさんと大仲好のリックイ、テ

イッキイ、テエヴィさんも (オクテヴィアスは眞赤になつて、何とも云へないお目出度い顔をする)

ホワイトフィルド夫人 (立上り際に皺になつた腰服をすつと振延して) ラムズドゥンさん、貴方は今アンの保護者になつて下すつたんですから、どうぞ彼女に他人様に縛名をつける癖を改めるやうに云つて下さいませんか。誰だつて縛名を附けられたい者はありませんから (戸口の方へ行く)

アン まあ、お母さんでは、どうしてそんな酷い事を仰しやるの (急に憂しい氣になつて後悔する) でも、お母さんの仰しやる通りかも知れせんわ。妾のあんなに云つたのは悪くつて (アンは椅子の背に兩肘を突いて跨ぎ座つてゐるオクテヴィアスの方を向き、顔に手をかけて) 貴方は大の人の様に遇つて欲しくつて。此からはロビンスンさんと云はなげやならない

オクテヴィアス (熱心に) どうか、リックイ、テイッキイ、テヴィと云つて下さい。ロビンスンさんなんて云はれると、どんなに不愉快が分りやしない (女は笑つて指で男の頬を撫で遣る。其からラムズドゥンの方に歸つて来る) 妾あのお祖父さまは少し失禮かと思ひ出しましたの。ですけどお氣に障るとは思ひ付きませんでしたのよ

ラムズドゥン (優しく女の背を撫で、快活に) 何を馬鹿な。私は是非お祖父さまにして置いて欲しい。アンニのお祖父さまより他の名ぢや返事はしませんよ

アン (嬉しそうに) 貴方達は皆そんなにして皆妾を悪くしてお終ひなさるのよ。尤もジ

ジャックさん丈は別ですけど

四四

タナア (書架の處から顔を後へ向けて) 貴女は此から僕をタナアさんと呼ばなけりや不可ないアン (温順しく) 否、うそよ、ジャックさん。そんな事はないわ。貴方は何日も人を驚かさうと思つて、故意とそんな事を仰しやるのよ。だから貴方の氣心を知つてゐるものは、誰も貴方の仰しやる事なんか氣にかけやしません。だけど若し何でしたら、貴方の名高い御先祖に因んでドン、ホオアンと云ひませうか
ラムズドワン ドン、ホオアンだつて

アン (何も知らずに云つた様に) おや、何か不可い事でもあるんでせうか。妾少許も知りませんでしたの。おや無論そんな名は中止ませう。何か他に好い名を思ひ付く迄ジャックさんにして置いていゝわね

タナア あゝ、何卒お願いだから其より悪い名を作らずに置いて貰ひ度い。僕はもう降参した。ジャックでいゝ、ジャックで結構だ。あゝ、我が權威を立てんとする最終

最終の努力も、此處に終を告げけりだ

アン それ御覽なさい、お母さん。何方も何方もほんとはあんな名がお好きぢやありませんか

ホワイトフィールド夫人 でも妾はせめて喪明迄そんな事は中止で置いたらどうかと思つてアン (胸を刺されて怒む様に) 折角忘れてゐたのに、又そんな事を云ひ出さなくたつてい
いわ。随分なお母さんね! (取亂した處を見せまいと急いで室を去る)

ホワイトフィールド夫人 さうでせう。悪いのは何日も妾だから(アンの後に尾いて行く)

タナア (本箱の傍から出て来て) ラムズドワン君、僕等もお母さんと同じに滅茶々に、奇麗に遣られて終つたね

ラムズドワン 馬鹿な事を! (ホワイトフィールド夫人の後を追ふて出て行く)

タナア (跡はオクテヴィアスと二人切になつて、冗談の一つも云ひ度さうに凝つと相手の顔を見る) おい、
テヴィ、君はやがて何か偉くなる積りかい

四五

オクテヴィアス 僕は詩人として偉くなり度い。僕は立派な劇が書いて見たいんだ
タナア アンを主人公にしてかね

オクテヴィアス うむ、實はさうなんだよ

タナア 用心しなげやいかんぜ、テヴィ。アンを主人公としての劇は差支ないが、餘程
用心しないと、彼女と結婚させられるぜ

オクテヴィアス (吐息して) 兎てもそんな旨い譯にや行かないよ

タナア なあに、君の頭はもうあの牝獅子の口に入つてゐるんだ。——もう半分は吞
まれてゐる——跡はもうたつた三嚙、一嚙目がリツキイ、二嚙目がテイッキイ、三嚙
目がテヴィ、其てグイと吞まれて終ふんだ

オクテヴィアス 彼女は誰にでも同じなんだよ。君は彼女の癖を知つてゐるぢやないか
タナア さう、彼女は前足の一撃で誰の背でも打碎いて終ふ。併し問題は君と僕の何
方を食ふ積りかと云ふ事なんだが、僕の考へではどうも君の方が遣られ相だよ

オクテヴィアス (立上つて不機嫌に) 彼女が今お父さんの事を思つて二階で泣いてゐるのに、
そんな事を云ふのは酷い。併し僕は心から食つて欲しいと思つてゐるんだから、
君の残酷な言葉も聞けば多少の希望になるから、黙つて聞いてゐるんだ
タナア テヴィ、其處が女の魔力の怖ろしい處だ。彼女は君に自分と自分の破滅を希は
せるやうにする

オクテヴィアス 併し其は破滅ぢやないよ。成就だよ

タナア さう、彼女の目的のね。併し其目的と云ふのは彼女の幸福でもなく、勿論君
の幸福でもなく、單に自然の意思なんだ。女の活力は創造的自然の盲動で、彼女
は其がために自分の身をも捧げてゐる。況んや他人を犠牲るのを躊躇するものか
オクテヴィアス なに彼女は自分を犠牲ける事を意に介しないから、尙更以て自分の愛
してゐるものを犠牲ける様な事はないよ

タナア 其は途方もない誤りだ。自己犠牲の念の發達した女が却つて向見ずに他を犠

性にするものなんだ。奴等は自己中心でないから何でもない事には親切にして呉れるが、自分の目的ではなく全宇宙の目的を體現してゐるのだから、其がためには男などは単に一の器械としか見ていやしない

オクテヴィアス そんな酷い事を云ふもんぢやない。女は僕等を非常に大事にかけてくれるぢやないか

タナア さうさ。兵士が銃を大事にかけたり、音楽家がヴァイオリンを大事にかけられるにね。だが、奴等は僕等に僕等の自由や目的を許して呉れるか如何か。僕等を僕等のするが儘に任せて置いて呉れるか如何か。其を考へて見たまへ。どんな強い男でも一度奴等の所有になつたら最後、逃げる事は出来ないぢやないか。其は成程僕等に危険の迫つて来る時には心配もし、僕等の死ぬ時には泣きもする。併し其涙は僕等に注がれるのではなくして、父たり得る人の失はれた事や、儲け得べき子の徒爾になつたのを悲む涙なんだ。奴等は僕等が女を單に自分達の快樂の手段

としてゐると云ふが、男の情欲と云ふ様な、あんな弱い一時的の迷が、如何して女を斬從へられるものか。否、男を斬從へるのは却つて全自然の目的を一身に合體してゐる女の方なんだ

オクテヴィアス 構はないぢやないか。斬從へられても其で幸福が得られるのなら
タナア さうさ。若し君に目的と云ふものがなく、世間の人達の様に單に一家の糧を作る役目しかしない人だつたらね。併しテヴィ君は藝術家ぢやないか。女と同じく強い、我儘な目的を持つてゐるんぢやないか

オクテヴィアス 我儘な事はないよ
タナア ないことはあるものか、我儘さ。眞の藝術家は妻を饑させ、小供に襦袢を着せ、六十の母に稼いで養はしても、自分の藝術以外の仕事はしないものだ。女に取つては彼等は半は解剖者半は血吸鬼で、女と親しくするのも、彼等は自分の深奥の創作力を呼起し得る力、冷い理性の囚から救出し得る力、夢を見、幻を

描かしめ得る力、つまり彼等の所謂靈發の力ある事を知つて、彼等を研究し、彼等から因襲の假面を奪ひ、あわよくば尤も隠れた心の秘密をも脅かさうと思へばこそだ。彼等がかう云ふ事をするのは女の利益だと云つてゐるが、實は自分のためなんだ。奴等は母の乳を盗み其を染めて母を嘲けり、自分の理想とする女を讚美する料の墨汁とすることも辭せない。又奴等は女に出産の苦痛を省いて遣ると云つてゐるが、實は當然小供に行くべき女の優しさと保育の味とを自分に奪はうとする口實だ。結婚と云ふ事の始まつて以來、大藝術家は夫としては善くない者と極まつてゐる。併しまだ其丈ではない。奴等は小供泥棒、生血吸、偽善者、虚言吐だ。若し其がためにハムレットが巧に演ぜられ、旨い繪が描け、深みのある詩、立派な劇が出来、深奥な哲理が考へられるなら、人類をも滅し、幾千の女を枯しても厭ふまい。と云ふのは外でもない。藝術家の仕事は吾々ありの儘の姿を吾々に示すことで、吾々の心と云ふのも、要するに此自己に關する知識に外なら

ない。だから若し此知識に微塵程でも加へる人は、女が新しい人を生み出すと同じに新しき「心」を生出す人となるのだ。此創作の苦悶に於ては藝術家は女と同じく残忍であり、女に取つても、女が男に取つて危険であるが如く危険であり、又同じく恐ろしい魔力を有つてゐる。人間のあらゆる葛藤の中、藝術家としての男と、母としての女との葛藤程残忍酷薄なものはない。結果は必ず其何れかが他を使ひ盡すと云ふ事になる。而も君の浪漫的の言草に従へば、此二人は互に愛し合つてゐるのだから、益々其争いが猛烈な譯なんだ

オクテヴィアス 僕は決してさうは思はないが、假んばさうであるにしても、さう云ふ怖しい葛藤を経てこそ、人は始めて崇高な人格が得られるんぢやないか

タナア 今度君が赤熊やベンガル産の虎に逢つたら、其を忘れない様にしたまへ

オクテヴィアス 無論君、其間に愛のある場合だよ

タナア 否、虎にだつて愛はある。あらゆる愛の中、食に對する愛程痛切なものはない

いちやないか。多分アンも其意味で君を愛してゐるのだらう。彼女は君の頬を旨い半熱の肉でも撫でる様に撫でゝゐたらう

オクテヴィアス おい、ジャック君、僕は君の云ふ事を一切氣に止めぬ事にしてゐればこそ、かうして黙つて聞いてゐるんだ。君は時々ほんとに戦慄する様な事を云ふ

ラムズドゥンはアンと一所に戻つて来て、急いで室に入る。二人は雷の仰々しい態とらしい悲哀の様子は何處へやら失せ實際心配らしく、ラムズドゥンの方には困憊の様子さへ見える。彼はオクテヴィアスに話かけるつもりで二人の間へ来たが、タナアを見て急に立止る

ラムズドゥン 私はまだ君が此處にゐやうとは思はなかつた

タナア お邪魔ですかね。では失敬します(月口の方へ行く)

アン 一寸、ジャックさん。お祖父さま、どうせ其内にやジャックさんにも知れるんですから

ラムズドゥン オクテヴィアス、私は今君に極めて重大な事を話さなければならぬんだ。其は極く内密な人前で云ひ難い性質の事でもあり、残念ながら又非常に困つ

た事件なんだが、君は其を話すのにタナア君がゐても差支ないと思ふかな

オクテヴィアス (着くなつて) 僕はタナア君には何でも皆打明けてゐます

ラムズドゥン 極めて終ふ迄に云つて置かなければならぬが、話と云ふのは君の妹に關した事で、而も容易ならん事件なんだ

オクテヴィアス 妹に關した事ですつて。妹はどうかしたんですか。シシ死にでもしたんですか

ラムズドゥン 死んで呉れたらまだよかつたかも知れんがね

オクテヴィアス では、酷い怪我でもしたんですか。何か災難にでもあつたんですか
ラムズドゥン 否、そんな事ではない

タナア アンさん、そんなに苛らさないで早く云つて遣つたらどうだ

アン (半は私語の權に) 妾にや云へないわ。ヴァイオレットさんは大變な事をなすつたの。何處かへ早く連れて行かなければならないでせう(あとは三人の男達でどうともする様に、そ

わくと机の方へ行つてラムズドゥンの椅子にかけろ)

オクテヴィアス (感付いて) さうなんですか、ラムズドゥンさん

ラムズドゥン さうだ(オクテヴィアスは力を落して倒れる様に椅子にかけろ) 私共が三週間前にヴァイオレットが家を出た時、パフレイ、ホワイトフィールドさんの處へ行つた事と思つてゐたが、此様子では彼處へは行つてゐなかつたらしい。其で昨日結婚の指輪を箱めて妙な醫者を訪ねた相で、其處で偶然パフレイ、ホワイトフィールド夫人に逢つて何も彼も分つて來たんだ

オクテヴィアス (拳を固めて立上り) 相手の悪漢は誰だらう

アン 聞いてもヴァイオレットさんは云はないのよ

オクテヴィアス (又落膽椅子にかけて) まあ、何と云ふ怖ろしい事だらう

タナア (癪に障つて態と皮肉に) 眞實に怖ろしい事だ。えらい事だ! ラムズドゥン君が云ふ様に、死んだ方がまだましだ(オクテヴィアスの傍へ來て) 君は此が汽車に轢かれて骨

が粉碎になつたとか、又は何か其に似た、もつと世間體のいゝ、同情を惹き得る様な事だつたら、どの位いゝか分らぬと思つてゐるんだらうな

オクテヴィアス ジャック君、そんな残酷な事を云ふもんぢやないよ

タナア 残酷だと。まあ、君は一體なぜそんなに泣面下げてゐるんだ。此處に一人の女がゐて、其女を皆が拙い水彩畫のスケッチをしたり、グリーグやブラームスの曲を練習したり、音樂會や他の會をうろつき廻つて、時と金を浪費してゐると許り思つてゐたのが、急にそんな下らない事を中止して、人を殖やし、子孫を設け、此地上を賑はすと云ふ、女の尤も大切な目的、尤も偉大な働きに從つたとする。然るに僕等は其を知つて、其女の勇氣を讀へ、本能の發動を喜び、女としての完成を祝し、一人の嬰兒われらのために生れたり。我儕は一人の子を與へられたり」と勝利の曲を唱はないで、見給へ今迄喪中にすら蟋蟀の様に面白相に飛廻つてゐたものが、急に心配面をして、まるで女が此上ない忌はしい罪でも犯した様に、恥

入つた不面目な顔をしてゐるぢやないか

五六

ラムズドワン (烈火の様に怒つて怒鳴りつける) 私の家でそんな亂倫な事は云つて貰ふまい(机を拳で叩きつける)

タナア これ、君がもう一度僕を侮辱したら、僕は言葉通りに解つて此家から出て終ふぞ。アンさん、ザイオレットは今何處にゐるんだ

アン 何故で、貴方行つてお遣りなさるの

タナア 勿論行つて遣るさ。今は助力も金も要る時だ。尊敬もし、お祝も云つて遣らなければならぬ。其上生れる子供の世話も要る。こんな事は兎ても君達からは得られ相もないから僕がして遣るんだ。今何處にゐるね

アン そんな剛情云ふもんぢやないわ、ジャックさん。二階にゐますよ

タナア なに、此勿體ないラムズドワン君の家にゐるのか。これ、ラムズドワン君、早く行つて厭な務めを果したまへ。早く女を家から追出し閨の穢を清めて、英國人

としての君の家庭の純潔を擁護したまへ。僕は此から馬車を呼びに行つて來るか

アン (吃驚して) いえ、お祖父さま、そんな事をなすつちや不可ません

オクテヴィアス (怒はしげに立上つて) ラムズドワンさん、僕が連れて行きます。そんな事があつて見れば、此處へ來られる義理ぢやないんですから

ラムズドワン (憤然として) 併し私はどうして、いも助けて遣り度いと思つてゐるんだ(タナアの方を向いて) 君は私が彼女を此處から追出すなんてどうしてそんな失敬な事を云ふんだ。私は決してそんな事はしない。私は最後の一錢迄出しても君などの世話にならなければならぬ様な破目には陥らせない

タナア (辭まつて) 其ならもういゝ。——此度は主義通りには遣らないんだね。僕等は皆肩を持つ事に極まつたんだね

オクテヴィアス 併し相手の奴は誰だらう。此際妹と結婚さへすれば其でいゝんだが

五七

否、是非させなげやならん。さうしないと僕は黙つちやゐないから

ラムズドゥン さうともさ。君はさう出なけりやならぬ處だ

タナア では、つまり君は其男を悪漢とは思はないんだね

オクテヴィアス 悪漢とは思はないかつて。悪漢とも、無情窮る悪漢だ

ラムズドゥン 悪漢とも。實に穢はしい畜生だ。若い女のゐる前でこんな事を云ふので

はないが、私には此他に云ひ様がない

タナア ちや、君は妹の名譽を恢復するために、其「穢はしい畜生」と結婚させやう

と云ふんだね。此は驚いた。君達は氣が狂つてゐるんぢやないか

アン そんなをかしな事を云ふもんぢやないのよ、ジャックさん。——勿論貴方の仰

やる通りですわ、テヴィさん。だけど相手分らないでせう。ヴァイオレットさん

はどうしても云はないんですから

タナア 分らなくつたつていゝぢやないか。其男は其男の分を盡したのだから、後は

ヴァイオレットが始末したらいいんだ

ラムズドゥン (我を忘れて) 馬鹿な！ 云ふにも事を缺いて！ 分つた。悪徒は此内にゐ

る。放蕩者、人殺にも劣つた奴が此内にゐる、而も其を氣付かずにゐるなんて。

知らぬ事とは云ひ條吾々は其と握手もし、家の裡へも引入れ、娘をも托し、其か

ら……其から……

アン (賺す様に) まあ、お祖父さま。そんなに大きな聲をお出しなさらないでね、其はほ

んとに怖ろしい事で、妾達も皆さう思つてゐますけど、ヴァイオレットさんが云は

なげやどうも致方がないぢやありませんか。全く致方がないぢやありませんか

ラムズドゥン フム！ さあ、どうかな。若し誰かヴァイオレットに特に目をかけてゐた

者があつたら、其で大概分るぢやないか。若し此内に誰か札付の自墮落者でもゐ

たら……

タナア エヘン

ラムズドゥン (聲を張上げて) 左様ともさ。繰返して云ふが、若し此内に誰か札付の自墮落者がゐたら……

タナア てなけりや、誰か札付の氣短者がゐたら……

ラムズドゥン (仰天して) 君は此私にそんな事が遣れると云ふのか

タナア いや、ラムズドゥン君、此は誰でも遣兼ない事です。自然の目的に逆らはずとすれば誰にでも起つて来る事なんだ。今君が僕にかけた疑は、同時に凡ての人間にかゝる事だ。此は云はゞ泥の様なもので、浮浪人の襦袢にもつけば、又法官、高僧の衣にもつく。——これ、テヴィ、そんなに困つた顔をしなくてもい。此は僕かも知れん、又はラムズドゥン君かも知れん。或は又他の者かも知れんが、假んばさうであつたにしても、誰だつて嘘を云つたり、打消したりする外致方がないぢやないか——ラムズドゥン君も現に打消さうとしてゐる様だが

ラムズドゥン (咽び返つて) 私……私……私が……

タナア 心に覺のある者でも此程取亂して吃れやしない。其でも君も知つての通り、彼人には暗い處はないんだ

ラムズドゥン (疲れ切つて) 君が其を認めて呉れたのは大變有難い。其は無論私も君の云ふ事に、多少の眞理は認めないぢやない。只君は人柄が悪くつて、故意と其を變な風に云つて了ふから困る。テヴィ、君は私を疑つてゐやしないだらうね

オクテヴィアス 貴方を疑ふなんて。否、そんな事があるもんですか

タナア 其でも僕は一寸疑つてゐるらしいて

オクテヴィアス ジャック君、豈夫君が……そんな事が……

タナア 何故だ

オクテヴィアス (仰天して) 何故だつて

タナア よし、では其の譯を云つて上げやう。第一若し僕がそんな事をしたら、二人は喧嘩しなげやなるまい。第二にヴァイオレットは僕を好かない。第三に若し

六二
僕が苟且にもヴァイオレットさんの子供の父であるのなら、其れを打消す處か却つて其れを誇にして見せる。だから安心したまへ、君と僕の交情には危険はないから

オクテヴィアス 若し君が先刻からまつすぐな物言さへして呉れたら、僕は一寸でも君に疑なんかかけなかつたんだ。許してくれたまへ

タナア 許して呉れ。そんなことが要るものか——で、皆席に着いて此から大人しく相談しようぢやないか(坐る。他の者もぶつ／＼云ひながら、それ／＼云はれた様にする)ヴァイオレットさんはお國に奉公しようとしてゐるんだ。だから其の濟む迄、罪人の様に外國へ函詰にでもして送らなければいかん——二階ぢやどうしてゐるんだらう

アン ヴァイオレットさんは女中頭の部屋にゐるんです——勿論獨で

タナア 何故客間に入れないんだらう

アン 其様に無理を云ふもんぢやありませんよ。此方の小母さんが宅のお母さんと、

客間で嚮の事を相談してゐらつしやるんです

タナア ハハア、女中頭の部屋が懲戒室と云ふ譯かね。而して罪人は判事さん達の前に引出されるのを待つてゐるんだね。古猫共が!

アン まあ、ジャックさんてば

ラムズドゥン 君は今其一人の古猫の家に來てゐるんだ。私の妹は此處の女主人です

よ

タナア まかり間違つたら此僕も女中部屋に投込むつもりだらう。併し古猫は取消さう。猫ならもつと道理が分つてゐるから——アンさん、すぐヴァイオレットの處へ行つて特に親切にして遣りたまへ。僕は貴女の保護者として其を命ずる

アン 妾はもう逢ひましたの。其に何ですけど妾はヴァイオレットさんは外國へ行く事は、中々聞くまいと思ふの。オクテヴィアスさんが行つてよく話す方がいゝと思ひますけど

オクテヴィアス 僕にそんな事は云へやしない(がっかり潰折れる)

アン そんなに弱り込んで了つちや致方がないわ。妾達のためだと思つてさうして下さいな

ラムズドワン オクテヴィアス、人生は何日も歌や芝居許りぢやない。さあ、男らしく遣りなさい

タナア (又苛々して) 兄貴も可哀相、關係り合つた友達も可哀相、古猫共も可哀相なら誰も彼も可哀相で、可哀相でないのは一人の生物を生出さうとして、自分の命をも危くして居る當の本人許りだ。おい、テヴィ、そんな自分勝手に云はずに、早く行つてさう云つて遣りたまへ。而して若し来て構はぬと云つたら、此處へも連れて来るがい、(オクテヴィアス立上る)い、かい、僕等が皆肩を持つて

ラムズドワン (立上つて) 否、私は……

タナア (同じく立上つて言葉を遮り) 否、分つてる。良心では反對だが、肩を持つ丈は持つ

と云ふんだらう

オクテヴィアス 僕は皆様にお断りしますが、僕は決して身勝手を云ふ積りぢやありませんが、此場合ほんとに正しい行動をしたいと思へば、どうしてよいか分らないんです

タナア テヴィ、一體君は殊勝な英國式の見方から、此世の中を特に吾々の品性陶冶の爲めに設けられた、道徳の修業場の様に思ふ悪い癖があるから、是非他の人のために何かして遣らなければならぬ事のある時でも、つい詰らない自分の主義なんて事を考へる様になるんだ。併し今差當の必要は、妹に心配させずに達者な子を産ます事だ。先づ其方から遣りたまへ、そうすれば其先の事は自然分つて来るから(オクテヴィアスは途方に暮れて出て行く)

ラムズドワン (屹つとタナアの方を向いて) 其ては道徳、道徳は如何するんだね

タナア 不身持を責めてマダダレンの様に女を泣かせ、罪科のない子供までを、日影

者で暮さなければならぬやうにする、あの道徳ですかね。御心配にや及びませんよ、僕等の仲間ちやそんな事はさせないから。道徳なんかどうなと勝手にするが

ラムズドゥン 必つとそんな事だらうと思つて居た。男にせよ女にせよ、君等のやうな道楽者に都合のいゝ様に、道徳はなくして終ふ。此國は將來さうなつて終ふのか

タナア なに、君なんか心配しなくとも、國の前途は大丈夫だ。——其はさうと此か

ら取るべき實際上の方針に就ちや、僕の意見に賛成な筈でしたね

ラムズドゥン 併し君とは精神が違ふ。理由も君とは違つて居る

タナア 今後誰か聞糺したら、さう云つて遣つたらいゝでせう(向へ行つてハバアト、スンサアの前に立つて、陰氣に凝つと顔を見詰めてゐる)

アン (立上りラムズドゥンの傍へ来て) お祖父さま、貴方此から應接へ行らしつて、今此處

で決まつた事を皆様に話してお上げなすつたら如何でせうか

ラムズドゥン (腹立しさうにタナアを見遣つて) 私はどうも貴女をあの男と二人ぎりて置きたくない。何なら一緒に来てはどうか

アン 小母さんは妾の前であの話をするのを、お嫌ひなさらないでせうか。妾は矢張り居ない方がいゝと思ひますわ

ラムズドゥン 成程、私も其處へ気がつかなければならぬ處だつた。アンニイさん、貴女はいゝ娘だ(軽く女の肩を撫でる。アンは嬉し相な目付をしてラムズドゥンを見上げる。ラムズドゥンは痛く感心して出て行く。相手を片付けて終つたので、アンはタナアの方を向く。男は背を此方へ向けてゐるので、アンは一寸容姿を繕ひ、其から密と男の傍に行き、殆んど耳に口接する様にして云ふ)

アン ジャックさん(男は叱驚して振向く) 貴方は妾の保護者になつて嬉しなくなつて。此から妾のことを引受けて下さるのは、嫌ぢやないでせう

タナア 身代の山羊が又一人殖えたと云ふ譯かね、え

アン あら、又日常の詰らない冗談。どうぞ中止して頂戴よ。妾の嫌がることをよく知つて居る癖に、なぜそんなに仰やるんでせう。妾は此でも出来る丈貴方のお氣に入る様にして居る積りよ。今なら妾の保護者だから、そう云つても構はないわね。貴方が親しくして下さらないと妾どんなに悲しいでせう

タナア (半身像を見てゐる時のやうに陰氣の女を見上げ見下して) なに、僕の思惟なら氣にしなくつてもいい。人間の道徳上の批判なんて實に當にならんものだ。貴女は僕にや全く良心がなくなつて偽善の塊のやうに見えるが、貴女自身にや其區別が分らない。——其でも何だか貴女にはかう妙に人を恍惚させる處があるよ。何だか知らんが妙に貴女のことゝが氣にかゝる。貴女が居なくなつたら、僕は淋しくなるかも知れないよ

アン (平氣でそつと男の腕に手をかけて、一所に室の内を歩きながら) だつて其りや當然だわ。子供供の時からお互に知合つて居たんですもの。貴方はまだ覺えて居らしつて……

タナア (急に女から離れて) お止しよ。僕は何も彼も覺えて居る

アン え、其は時々随分詰らない事もしましたけど……

タナア 嫌だと云ふのに。僕はもう小供ぢやないよ。況して八十九十の老耄でもない。其は永く生きてゐたらさうなるかも知れんけど。もうあれは濟んだこつた、忘れて終はう

アン 樂しかつたわね(又男の手を取らうとする)

タナア 坐つて行儀よくおしよ(男は女を机の傍の椅子に座らせる)其は無論貴女には愉快だつたらうさ。貴女は日常も好い娘になつて、決して自分に都合の悪い様な事はしなかつたんだから。其癖始終頭を撲られてゐる、悪戯小僧よりも面白く遊んでゐたんだから。僕には貴女が巧に他の女の兒を苛めた理由もよく分つてゐる。貴女の所謂「徳」が皆を怯ましたんだ。其はさうと貴女は此迄男で好い兒と云ふものを見たことがあるかね

アン ありますとも。男の兒は皆時々詰らない事をしますけど、テヴィさん丈は何日でもほんとにいゝ兒でしたわ

七〇

タナア (成程と首肯いて) さう、ほんとにさうだ。どう云ふ譯か 貴女はテヴィ丈は誘惑しなかつたよ

アン 誘惑ですつて。ジャックさんてば、まあ

タナア さうさ、メフィストフェレスさん誘惑さ。貴女は男の兒つてどんな事を遣るものか、無暗に其を知り度がつてゐた。而して彼方を油断さして置いて、隠れた秘密迄も脅すに凄腕を有つてゐたぢやないか

アン あんな事を言つて。貴女が何日も御自分のなすつた悪い事を——下らない小供の悪戯を、長々と妾に話して下すつたから、其でさう仰やるんでしやう。「大切な秘密」なんてよくも云へたものね。小兒の秘密なんか大人の秘密も同じで、どんな下らないものか知つていらつしやるぢやありませんか

タナア (執拗に) 否、知らない。どんなものだね、一體

アン なに、誰にでも平氣で話せることですよ、勿論

タナア ぢや、誓つて云ふが僕は誰にも話さない事を貴女に話した。云は、貴女が僕を唆して二人の間には何も隠立しない様に約束させて、お互に何でも話合ふことになつてゐたぢやないか。併し氣が付いて見ると、貴女は日常も僕に丈話させて置いて自分の事は少しも話さなかつたぢやないか

アン だつてジャックさん、貴方は御自分の事計り話し度がつて、妾の事は少しも聞かうとなさらなかつたでせう

タナア いや、さうだ。ほんとにさうだ。併し其弱點を見抜いて自分の好奇心の満足のために其處を擽るなんて、貴女はまあ何て、怖ろしい子だつたらう。僕は貴女を面白がらす様に大きな事も云つて見たかつたし、話の種を作るために色々悪戯も遣つた。憎んでもゐない小供と喧嘩したり、云はんでもいゝ虚言も云つ

七一

たり欲しくもない物を盗たり、好きでも何でもない女の子に接吻したりした。併し此は皆見せかけ許りで勿論情も何もない。従つて極めて空なものなんだ

アン 妾はそんな事をして下さいなんて、一度も云つた事はないでせう

タナア さう、其はない。併し中止させやうと思へば、必つとさう云つたに違ない。

云はない處を見ると、矢張り遣らせたかつたんだらう

アン (パツと怒つて) 否、其は虚言です。其は虚言です。妾は決して貴方にあんな嫌な詰らない、残酷な、馬鹿くしい、下品な事をして欲しくはありませんでした。

妾は日常も其中には必つと何か、眞實に凍々しい事をなさればいと思つてゐたんです(氣が付いて) 御免なさいな。ですけど貴方のなすつた事は、妾の爲て下すつたらいと思つてゐた事とまるで違ふんです。而して時々其が大變氣になりましたたけど何だかおよしなさいなど、云つて、又種々な事を仕出來されるのも困ると思ひましたし、其にまだほんの小供ですから放つて置いてもすぐ癒るだらうと思

つてゐたんです。事に依つたら妾が悪かつたかも知れません

タナア (冷笑的に) まあそんなに後悔なさらなくてもいいでせう。少くとも貴女に話した悪戯の十中八九は皆虚構なんだから。僕はすぐ眞實の話は貴女の氣に入らないのを知つてね

アン 勿論妾だつて皆々あつた事許りとは思つてやしませんわ。ですけど……

タナア 其中の一番悪い事丈は、あつた事だと云はうとしてゐるんだらうね。

アン (優しく、男は驚いて警戒する) 妾は何も云はうとしてゐやしないことよ。ですけど妾はそんな事のあつた人達を知つてゐましたから、皆其人達から聞きましたわ

タナア さうだらう。併しあつた事の話でも、貴女にはちやんと潤色して話してゐるんだ。感じ易い小供を恥しがらせるのは、普通の鐵面皮な大人には面白い慰かも知れないが、當の本人には身を切られるやうな思ひで、兎ても自身の口から斯うと云へるものぢやない。だから懸念に其を打消す様にするんだ。併し僕にはあ

あして少し虚構を云つて聞かしたので、或はよかつたのかも知れん。現に一度僕が眞實の話をすると、貴女は他人に告げると云つて脅かしたぢやないか

アン まあ、あんな事を云つて。そんな事なんか一度もありやしませんわ

タナア 否、あつたとも。貴女はあのラッachel、ロオストリイと云ふ黒眼の娘を覺えてゐるだらう（アンは思はず眉を筆める）僕が彼女と艶事をおつ始め、ある晩庭で構曳して、お互に手をかけ合つて、非常に工合悪く其邊を歩廻つた末、別れ際に接吻迄して、こゝ一番浪漫的に遣つてゐた事があつたつけ。若しあの艶事が續いたら僕は五月蠅くつて死ぬやうな思ひをしたに違ない。處が幸にも續かなかつた。と云ふ譯はすぐ其次にラッachelは、僕が貴女に其話をしたのを知つて、僕を外して終つたからだ。併しどうして彼女が其を知つたんだらう。無論貴女に違ない。貴女が彼女の處へ行つて、其秘密を眞向から振發し、怖がらせ、恥しがらせたからに違ない

アン え、彼女には其がどんな幸福だつたか知れませんが、非行と知つたら止めるのが妾の義務でせう。必つと今頃は妾に感謝してゐますよ

タナア さあ、どうかなあ

アン さうあるのが正當ぢやありませんか。どつちにしても

タナア 僕の非行を止めるのが何も貴女の義務ぢやなからうと思ふね

アン 彼女を止めたから自然貴方も止まつたんぢやありませんか

タナア さあ、どうか知らんて。夫迄のやうに悪戯の話をしなくなつたのは事實だが、悪戯其物が止まつたかどうかは、貴女にや分らない筈だ

アン ぢや、他の娘とも同じ様にしてゐたと仰しやるんですか

タナア 否、あんな思な浪漫的な戲事はあの娘とでもう澤山だつた

アン（臍に落ちぬ様に）ぢや、なぜあんな仲好にしてゐたのを、急に中止して他所々々しくなつてお終ひなすつたの

マナア (謎の様に) 恰度あの頃僕は、貴女に願わずに一人で持つてゐたいものを手に入れたからさ

アン 貴方が願惜なさるのでしたら、そんなになさらなくつても願て下さいなんて云やしませんわ

マナア 豊夫菓子ちやあるまいし。貴女が決して黙つて僕の物にさせて置かない様な物なんだ

アン (信じられんやうに) ちや、何でせう

マナア 僕の魂さ

アン まあ、もつと眞面目になさいなね、ジャックさん。自分で承知してゐて下らない事を云つていらつしやるんですもの

マナア いや、大の、大の眞面目なんだ。貴女にもあの頃魂が出来かゝつてゐた。貴女は氣付かずゐたが確に出来かけてゐた。第一ラッachelを懲して身持を直し

て遣らなければ、自分の道徳上の義務が立たぬと思ふ様になつたのからして只ぢやない。あの頃迄の貴女は「好い兒」と云ふ事を可成手廣く賣物にしてゐたが、まだ決して他人に對する義務など、云ふ念は持つてゐなかつた。處で、實は僕も其念を持つ様になつたんだ。あの頃迄の僕は鶏小屋の狐同様、何等の良心もなしに少年掠奪者を氣取つてゐたが、今では物事にも氣をつける様になり、責任をも感じ、眞實とか、名譽とか云ふ言葉も單に大人の人前飾ではなしに、自分の不可避的道念だと知る様になつて來たんだ

アン (靜に) さうね、貴方の仰しやる通りでせう。二人共大人になりかけてゐたんですわね

マナア さあ、夫許りぢやなく事に依つたら其以上の物になりかけてゐたのかも知れんて。普通人の云ふ大人になりかけると云ふのはどう云ふ意味なんだらう。其は云ふ迄もなく戀愛の始と云ふ事なんだ。併し僕には戀愛はずつと其以前から始ま

つてゐた。抑も記憶と云ふもの、ありかけた時から、僕の夢想や、悪戯や、浪漫には愛と云ふものが加はつてゐたんだ。僕のと云ふよりは僕等のと云つた方が適切かも知れん——勿論其時はお互に解らずにはゐたんだがね。否、僕に來た變化とは其てはなく、心に萌した道義的熱情を云ふんだ。而して僕の經驗に依ると、此道義的熱情こそ唯一の眞の熱情なんだ

アン どうんな熱情でも道義的でせう。さうでなければなりませんわ

タナア 「なければならぬ」なんつて。貴女は一層強い熱情ならば兎も角、どんな熱情でも「なければならぬ」と云へる程強いものと思つてゐますか

アン 道義の念が熱情を支配するぢやありませんか、馬鹿な事を云ふもんぢやないわ
タナア 道義の念だつて。其が即ち熱情ぢやないか。好い歌許りか、熱情迄が同じ様に悪魔の領とならなければならぬ道理はあるまい。若し道義の念が熱情でなかつたら、否熱情中の尤も強い熱情でなかつたら、あらゆる他の熱情が嵐の前の木葉

の様に、すぐ其を吹拂つて終ふだらう。子供が大人に變るのは、全く此熱情が心に生れるからなんだ

アン 他にもまだ強い〜熱情があるわ

タナア あらゆる他の熱情は前から僕にあつた。併し其は皆目的のない空虚なもので、思慮が熟して來れば、奇怪にも、滑稽にも見える、好奇心の心、妄想、習慣、迷信と云ふ様な物に過ぎないんだ。で、若し此等のものが、突然新に點火られた焰の様に光り始める事があつても、其は自身の光ではなくして、醒めんとする道義的熱情の光を浴びて光るのだ。此熱情あつてこそ始めて其等に威權がつき、意義や良心が出來、欲望も生れ、而して今迄は無秩序な欲望に過ぎなかつたものを、目的あり、主義ある秩序立つた組織に組立てる様になるんだ。僕の魂も實は此熱情から生れ出たものなんだ

アン さう、貴方にはあの頃からずつと分別がついて來た様でしたわね。妾も氣がつ

いてゐましたの。あの頃迄の貴方は其は破壊的でしたから

タナア 破壊的だつて。馬鹿な事を。只悪戯だつた丈だ

アン 否、其は破壊的でしたとも。貴方は木刀で樞の若木の心を剉切つて滅茶々にして終つたり、石投で胡瓜の手を壊して見たり、公有地に火を放れたりなすつたぢやありませんか。而してあの時など、テヴィさんが貴方を止め切れなくて逃げ出して、代に巡査に捕まつたぢやありませんか。其から又……

タナア 馬鹿な事を、あれは皆緒面共から襲はれた時の戦争、砲撃、計略ぢやないか。貴女には空虚し想像力と云ふものがない。僕はあの頃よりは今の方が十倍も二十倍も破壊的だ。僕の道義的熱情が此破壊力を捕へて道義的目的に向け、僕は立派に改革家になり済ましたんだ。而してあらゆる改革家の様に偶像破壊者なんだ。もう胡瓜の手を壊したり、ハリエニシダの原に火を放れたりなどしない代りに、信條を破棄し、偶像を破壊するんだ

アン (退屈して) 破壊にどんな意味があるのか、妾共女には兎ても解りません。破壊は只壊す丈ですから

タナア さう、だから非常に必要なんだ。建設と云ふ事計りでは、すぐにお折介共の作出した色々の組織で身動きの出来ない様になつて終ふ。破壊は其邪魔物を拂つて、呼吸の吐ける隙間と自由とを與へて呉れる

アン 云つたつて駄目よ、ジャックさん。其點では女は誰も貴方に賛成しませんから
タナア 其は貴女が建設と創造、殺戮と破壊を混同にしてゐるからさ。此二つは全く違ふ。僕は創造は崇拜するが殺戮は憎む。否、僕は木でも、花でも、鳥でも、獸でも、乃至は貴女にでも創造は崇拜する(興味と喜悅の紅い血潮がサツと女の顔に上つて、先刻から漸次増して來た當惑や倦怠の氣を一時に追ふて終ふ)貴女が昔知らず識らず僕を羈絆の紐で結び付ける様な事をしたのも、皆此創造的本能が本なんだ。其紐の痕はまだ今でも残つてゐる。ほんとだよ、アンさん。僕等のあの昔の小供らしい約束も、つま

りは無意識な愛の約……

アン あら、ジャックさん

タナア なに、驚かなくつてもいよ……

アン 驚いてやしません

タナア (擲諭ふ様に) ちや驚かなくちや不可ない。貴女の主義と合はんぢやないか

アン ジャックさん、貴方は真面目。其とも冗談に仰しやつたの

タナア 道義的熱情の事かね

アン 否、否、別な方。(間諷ついで) まあ！ 貴方はほんとに仕様がな人ね。どんな

に取つてい、か分りやしないんだもの

タナア 真面目に取らなけりや不可んさ。僕は貴女の保護者ぢやないか。貴女を教育するのが僕の義務なんだ。

アン ちや、愛の約束はもうお終なんですか。貴方は妻をもう嫌におなりなすつたの

ねえ

タナア そんな事はない。併し道義的熱情が出来れば、子供の折の關係を其儘持續することはもう出来なくなる。新しい個性の熾烈な感じが胸の中に漲つて……

アン もう子供の様にされるのが嫌なんぞせう。爲様がないわねえ

タナア さうさ。子供の様に扱れるのは昔の儘に待遇られる事だからさ。僕は新しい人間になつたんだ。而して元の僕を知つてゐる者は、皆僕を見て笑やがる。只一人真面目に取つて呉れるものは服屋許りだ。奴は一度毎に僕の背丈を新規に計直す、他の者は皆何日迄も昔の尺度で計つて、其が僕に適ふものと思つてゐる

アン 貴方は嫌に自分と云ふ者が目について來たのね

タナア 天國へでも行つて御覽、始めの二三年は嫌に自分の翼が目につくから。而して若し其處に身内の者でもゐて、今でも貴女を人間の様に取扱はうとしたら、必つと堪へられなくなつて、以前の自分を知らない者と一緒にゐたいと思ふ様になる

から

アン ぢや、詰り妾共から離れてお終ひなすつたのは、其虚榮心のためでしたのねえ

タナア さう、其を虚榮心と云ふなら、つまり虚榮心のためだつたんだ

アン 其故なら妾からお逃げなさるにや及ばないぢやありませんか

タナア 否、誰よりも貴女から逃げなくつちやいけない。誰よりも貴女が猛烈に僕の

解放の邪魔をしたぢやないか

アン (熱心に) あら、随分だわ。妾は貴方に何でもして上げるつもりでゐたのに

タナア さう、僕を逃がして終ふ事さへなかつたらねえ。あの頃ですら貴女は男に恩を被せたり、頼りなさ相に全く彼方に倚りかゝつて、終には男の方で貴女の許しを得なけりや何一つ出来ない様にして終ふ、あの怖ろしい女の手管を本能的に有つてゐたんだ。僕の知人に可哀相な男がある。其男は妻から遁れる事を一生の望みにしてゐる。併し其妻は若し妾を棄てたら、其場で一緒に乗つて来た汽車の前

に飛込んで自殺すると脅しては、何日も男を止めてゐる。女は誰でもそんな事を遣兼ねないものだ。若し誰か女の行かせ度くないと思つてゐる處へ行かうとすれば、勿論其は止められないが、其代り闕から一步踏み出せば、足の下に女の胸がある。門から一步踏出せば其車の下に女の軀がある。併し僕はどんな女にでも、そんな風には捉へさせない積りだ

アン ですけど、ジャックさん、他人の事を少しも考へずには世の中は通れないぢやありませんか

タナア さう、併し其「他人」とはどんな風な人だらう。元來人間が皆今の様に感情一遍の奴隷の様になつて終つたのは、此「他人」に對する遠慮からなんだ——否、遠慮と云ふよりは此卑怯な恐怖が元なんだ。貴女の云ふ遠慮と云ふのは、要するに他人の意思を自分の意思に代へる事だ。若し其意思が自分の意思より卑しかつたらどうする。女は男より物解りがいゝだらうか。選舉區民は政治家よりも物解り

がい、だらうか。無論そんな事はない。して見れば、公には政治家が思慮なき選挙区民に遠慮し、私には夫が妻に遠慮してゐたならば、此世界は終にどうなるだらう。今日教會や國家は何を意味してゐるか。云ふ迄もなく一方は女、他方は納税者の傀儡だ

アン (平靜に) 政治の事がお解りなすつて、眞實に結構だわね。やがて議員におなりなすつたら、必つとお役に立つてせう(男は孔を穿けられた風船玉の様にガククリする) だけども妾は、貴方が妾と交際つて悪くなつたと思つていらつしやるのを、口惜しいと思ひますわ

タナア 悪くなつたとは云はんさ。善いにせよ、悪いにせよ、僕は貴女の物指で量られるのが嫌だと云ふんだ。此からだつて其通りだ

アン 誰も量らうと云つちや居ないぢやありませんか。妾はほんとに……全くよ、貴方の變なお考へなんか少しも氣にかけてやしません。妾達は皆進んだ考へを持

つ様に嫉られて來たんですもの。なぜ又貴方は妾がそんなに偏屈だと思込んでいらつしやるんでせう

タナア 其處が怖い處だ。貴女はどつちでもいゝと思つてゐるから、其で氣にかけないんだらう。王蛇は鹿の首に捲付いたら最後、其の思つてゐる事なんか此許りも氣にかけやしない

アン (立上つて急に謎が解けた様に) あーあーあーあー 貴方がテヴィさんに、王蛇だから氣をつけると仰しやつた譯が、今やうやく解りました。祖父様が仰しやつて下すつたの(女は笑つて男の首にその頸巻をかける) 軟い好い心持でせう

タナア (頸巻をかけた儘) よくもそんな圖々しい事が出来たものだ。貴女は自分の假面すら脱つて終ふ氣か

アン 妾は貴方に假面なんか有つてゐやしなくつてよ。怒つて(頸巻を取つて椅子の上に投げる) こんな事するんぢやなかつたかも知れません

タナア (蔑む様に) ケツ！ 淑徳ぶつて。自分さへ面白かつたら、他人などどうでもい
いちやないか

アン (羞恥んで) いえ、あの…あの、貴方が王蛇と仰しやつたのは、ほんとに此事か
と思つて(兩腕を男の首に付ける)

タナア (凝つと女を見て) まあ何て大膽な事だらう(女は笑つて男の頬を撫てる) 若し僕が誰かに
此話をしたら、誰一人僕の云ふ事は信じないで、却つて其を言觸した罰に僕に絶
交を申込むだらうが、反對に貴女が僕がそんな事をしたと云つたら、いくら打消
しても人は信用しないに極まつてる。其を思ふと…

アン (ツンと澄して兩腕を外し) 貴方は致方のない人ね。併し二人の仲の好い事を人前で
冗談になんか云はないで下さいよ。誰も誤解する氣遣ひはないでせうけど。貴方
も誤解しちやいらつしやらないでせうね

タナア 僕の血が解釋して呉れるよ。リッキイ、テイッキイ、テヴィが可哀相だ。

アン (此で解つたと云ふやうに急いで男の方を見て) まあ嫌だ！ 貴方はテヴィさんを妬いてい
らつしやるの

タナア 妬く！ 妬く譯がないちやないか。併しテヴィが貴女に捉へられてゐるのは
無理はない。貴女は只僕を弄んでゐる丈なのに、だんく首の絞つて行くのを
感ずる位なもの

アン 貴方は妾がテヴィさんに何か企劃んでゐる事でもあると思つていらつしやるの
タナア 其はあるさ

アン (熱心に) 冗談ぢやありませんよ、ジャックさん。貴方が妾の事に就て、彼人に變
な氣でも起さしたら、彼人どんな不幸になるか知れませんか

タナア 心配は要らないよ。彼方は大丈夫遁げやしないから

アン 貴方は此でもほんとに怜悯なんか知ら
タナア 何故又急に疑ひ出したんだね

九〇
アン 妾に解らない事は何でもお解りなさる様ですけど、妾の解る事には全然赤坊で
すもの

タナア 僕はテヴィが貴女をどう思つてゐるかよく知つてゐるよ。何方にしても其丈
は當にしても大丈夫だ

アン で、妾がテヴィさんをどう思つてゐるか、其も解つてゐると思つていらつしや
るんでせう

タナア テヴィの身の上に此からどんな事が起らうとしてゐるか、僕は知り過る程よく
知つてゐる。可哀相なのはテヴィだ

アン お父様が亡くなられたばかりだから笑はずにゐますけど、其てなかつたら笑
ひますよ。ね、眞實に氣をつけて頂戴、テヴィさんが必つと不幸になりますから
タナア さうなんだ。併し何と云つて聞かしても彼方にや分らない。可哀相にも目
が眩んでゐるんだから。一體テヴィは貴女の相手にや人が善過る。だから此度の

様に、貴女に就て一生の過ちをしようとしてゐるんだ

アン 妾は人の善過るのは、伶俐過るのよりは却つて過ちが少いかと思ひますよ(華者
な肩付にあらゆる男性に對する輕侮の色を見せて腰を下す)

タナア 否、其は僕だつて貴女があまりテヴィを思つてゐないのは知つてゐるさ。併
し世の中には何日も二種の人間があるものだ。一方は接吻する人で、他方は接吻
させる人だ。テヴィは即ち其する方の側で、貴女はさせる方の側だ。其代り貴女
はもつと好い相手が見付かつたら何日でも棄て、終ふ。

アン (怒つて) ジャックさん、妾は貴方にそんな事を云はれる譯はありません。其は虚
偽です。其に失禮です。貴方やテヴィさんが好て妾に詰らない眞似をなすつたか
らつて、妾の故ぢやないぢやありませんか

タナア (後悔して) いや、あんな酷い事を云つて悪かつた。許してくれたまへ。あれは
此悪い世中に向けて云つたんで、貴女への積ぢやなかつたんだ(女は喜んで腹立しさも

忘れた様に男を見上げる。男はすぐ警戒する。其にしても早くラムズドゥン君が来て呉れ、
 ばい、がな。貴女と一緒にゐるとどうも物騒な気がして困る。貴女には怖ろしい
 魔力があつて……いや、魔力ぢやない、その強く氣を引く……(女は笑ふ)それ御覽、
 自分でも知つてゐるんだ。知つて得意になつてゐるんだ。公然、厚顔しくも其を
 得意にしてゐるんだ

アン 貴方はまあ、ほんとに怖ろしい女たらしね

タナア 女たらし？ 僕が！

アン え、女たらしですとも。貴方は始終人の悪口を云つたり、怒らしたりしてゐ
 て、其癖眞實に離す積りぢやないんですもの

タナア 呼鈴を鳴らさう。話がもう飛んでもない處へ行つて終つた

ラムズドゥンとオクテヴィアスはミス、ラムズドゥンを連れて歸つて来る。ミス、ラムズドゥンは
 地味な、褐色の絹の袍衣を着た、頭の冷やか相な老嬢で、指輪や鎖や襟止を多過る程身につけてゐる。

此は衣物の地味なのは主義のためで貧乏の故ぢやない事を、他人に知らせる積りとも見られる。彼女は
 是屹とした態度で室に入つて來、二人の男は打萎れて當惑した様に後に尾いて來る。アンは立上つて
 熱心に女を迎へる。タナアは壁の半身像の間に退いて繪を見る態をしてゐる。ラムズドゥンは日常の
 様に自分の机の方に行き、オクテヴィアスはタナアの近傍を離れまいとする

ミス、ラムズドゥン (殆んどアンを突飛す様にホワイトフィールド夫人の椅子の傍迄來て、其に殺と立止る) 妾は
 此事件から綺麗に手を引いて終ひます

オクテヴィアス (泣出し相に) 妹を何處かへ連れて行けと仰しやるんでせう。ぢや、さう
 します(躊躇勝に戸の方へ行く)

ラムズドゥン 否、否、其は不可ん

ミス、ラムズドゥン 止めて見たつて致方がないぢやありませんか。オクテヴィアスさん
 も知つての通り、ほんとに悔悟してゐるものなら、妾は家から追出さうとは云ひ
 ません。併し不行跡な許りか、まだ其不行跡を續けやうとするつもりなら、妾に
 其娘のお世話は出來ません

アン あら、小母さん、どうなすつたの。ヴァイオレットさんは何と云つたんでせう
ラムズドゥン ヴァイオレットは其は實に剛情なんだ。倫敦はどうしても去らないと云つ
てゐる。私にや譯が分らない

ミス、ラムズドゥン 分らない事はないぢやありませんか。誰か知らないけど其男と訣れ
るのが嫌だから、其で行かないと云ふんでせう。さうに極まつてるぢやありませ
んか

アン まあ！ オクテヴィアスさん、貴方は話して御覽なすつて

オクテヴィアス 聞いても何とも云はないんです。自分で誰かと相談する迄は何とも出
来ないつて。誰かと云ふのは無論欺した畜生に違ないんだけど

タナア (オクテヴィアスに) ぢや、相談さしたらいゝぢやないか。其男だつて無論外國へ
遣るのにや喜んで賛成するだらう。何も困る事はないぢやないか

ミス、ラムズドゥン (オクテヴィアスから返事を引取つて) 困るのはねえ、ジャックさん、妾がお

世話して上げやうと云つたのは、淫奔のお取持をしやうと云ふのぢやないからで
すよ。ですから今此處で二度と其男に逢はないと誓ふか、でなけりや誰か他に世
話して呉れる人を見付けなけりやありません。何れにしても早い方がいゝんです
(小間使が戸口に現はれる。アンは急いで席に着いて、出来る丈何事もない様な装をする。オクテヴィアス
も我知らず其を真似る)

小間使 お馬車が参りました

ミス、ラムズドゥン 何の馬車だい

小間使 ロビンソン嬢がお申付になりました馬車でございます

ミス、ラムズドゥン まあ！ (氣が付いて) よし(小間使退く) 自分で馬車を呼びに遣つたんで
ね

タナア 僕は其馬車を三十分も前から呼びに遣り度いと思つてゐたんだ
ミス、ラムズドゥン 自分でこんなにして終つたんだから、そこへ氣がついたのは結構で

すよ

オクテヴィアス 私はこんなにして彼女を遣つて終ひ度くない。あまり手厳しい事はしない方がいゝよ

オクテヴィアス さう仰つて下さるのは有難うございますが、奥さんの仰やる通り、妹は此家にゐられる身上ぢやありませんから

アン テヴィさん、貴方も一緒に行つて上げた方がよくなつて

オクテヴィアス 僕の行くのは嫌ふでせう

ミス、ラムズドゥン 其はさうですとも。此からすぐ男の方へ行かうと云ふんだもの

タナア 此處で難しく云はれて見りや、自然さうでもしなければやならん譯さ
ラムズドゥン (非常に心配して) それ御覽、今の様に云はれるぢやないか。其に今の言葉にも多少の道理はある。どうか考へを少し和けて、可哀相だから彼女をもう少し氣永に見て遣つたらどうです。まだ年も若いし其中には必つと治るから

ミス、ラムズドゥン え、其はどうせ男の方にや同情があるでせうよ。妾は貴方にも呆れました

タナア 僕も呆れた。併しラムズドゥン君、僕の方は君にしちや感心だと思つて呆れたんだよ

グアイオレットが戸口に現はれる。彼女は少しも暗い處のない様に、悪びれた様子もなく、極めてよく沈着いてゐる。小さい頭、堅く結んだ小さい口、同じ様に締つた頰、屹とした力のある言葉付、整つた態度、剥製の鳥の附いた頗る意氣な帽子を始め、人前構はぬ優美な衣装、此等は皆極めて美しく見ゆると同時に、寧ろ人を怖れしむる様な強い性格を表してゐる。彼女はアンの様に麗女ではない。歎美の念は別に心を強ひずとも、又彼女が其を求めやうとせずとも、自然に看者の心に起つて来る。其上アンには何處となく軽い處があるが、此女には其がない。或は哀憫の心さへもないのかも知れぬ。若し彼女を引留める物があるとすれば、其は明達と矜持であつて哀憫の心ではない。彼女は沈着拂つて、而も多少の嫌惡を交へて皆の方へ進んで行く。而して恰度惡戯をした女生徒の一群を叱りつける女教師の様な聲で、次の事を云ふ

グアイオレット 妾は奥さんから誕生祝に戴いた金線細工の腕環を女中頭の部屋に置い

とききましたと、一寸其事をお断りしに寄りました

タナア まあ、お入りヴァイオレットさん。而してもつとすなほに話をしたまへ

ヴァイオレット はあ、難有う。妾はお話なら今日はもう充分聞きましたから。アンさん、貴女のお母さんもさうでしたよ、そして泣いて家へお歸りでした。併しまあ何方にしても、妾は此で平常友達の様な顔をしてゐる人も、危急の時にはどんなものかよく解りましたから。失禮します

タナア 否、否、一寸待ちたまへ。僕は貴女に是非聞いて貰はなければならぬ事がある。(女は少しの興味もない様に男の顔を見る。併し其でも待つてゐる。見た處男言葉なきためと云ふよりは、穿めかけた手袋の始末をして終ふ間と云ふ様に)僕は此件に就ては全然貴女に賛成だ。貴女に此度の事をする丈の勇氣のあつたのを満腔の敬意を以て祝せずにはゐられない。貴女の爲た事は全然正しく、此處の人達は皆誤つてゐる(一同動搖めく。アンとミス、ラムズドゥンは立つて二人の方を向く。ヴァイオレットは他の誰よりも驚いて手袋を挿める事をも忘れ、痛く間違つき、氣を悪くして、つか／＼室の真中へ進む。オクテグイアスは靜つとした儘頭も上げず、

恥かして居堪らの様子である)

アン (タナアにもう少し氣をつけて呉れと云ふ様に) まあ、ジャックさん
ミス、ラムズドゥン (餘りの事に怒つて) ほんとにまあ、何て事でせう

ヴァイオレット (鏡くタナアに) 誰が貴女に其話をしました

タナア なに、勿論テグイとラムズドゥン君さ。話したつていゝぢやないか

ヴァイオレット でもあの方々は知りなさりやしません

タナア 知らないつて、何をさ

ヴァイオレット 妾の正しい譯をです

タナア なに、心の中や皆承知してゐるのさ。其は道徳とか、人前とか云ふ様な話らない迷信からは、貴女を責めなければならんと思つてゐるかも知れんがね。併し僕は知つてゐますよ。又世間も知つてゐる。貴女が自分の本能に従つたのは正しいんだ。活力と勇氣は女の一番大切な素質で、母となるのが女の仲間入する嚴

肅な第一歩だ。貴女が法律上の手續を踏んで結婚しないからと云つて、貴女の價値や、僕等の貴女に對する眞の尊敬に何等の變があるものぢやない。只世間は其を心得てゐても、口にしない丈なんだ

グアイオレット (眞赤になつて怒り) まあ、貴方も他の方々と同様に妾を穢れた女と思つていらつしやるんですね。妾が邪い許りか貴方の忌はしい意見に迄賛成してゐると思つていらつしやるんですね。奥さん、妾は貴女の酷いお言葉を静つと堪へてゐましたのも、後で事情が分れば必つと後悔なさると思つてゐたからですよ。併し妾はジャックさんが賛成の、其穢はしい女になつたと云つて、わざ／＼讀められる様な怖ろしい侮辱には堪へられません。實は妾は夫のために結婚を秘密にして置いたんですが、今の様に云はれて見れば、夫ある身として侮辱されない權利を要求しなければなりません

オクテヴィアス (云ふに云はれない安心の體で顔を上げながら) お前が結婚してゐたつて

グアイオレット え、してゐましたとも。妾は大方推して下さり相なものだと思つてゐました。一體貴方達は皆が皆、妾に結婚の指輪を挿める資格のないものと、極めてお終ひなすつたのはどう云ふ譯でせう。貴方達は一人も聞いても下さらないぢやありませんか。妾は此事は忘れられません

マナ (返す言葉もなく) 僕は悉皆參つた。悪い様に思つて云つたんぢやないが、もう謝罪ります。平謝罪に謝罪ます

グアイオレット 此からもつと氣をつけて物を云ふ様になさいよ。無論誰もあれを眞面目に解る者はありませんが、聞いてゐてあまりいゝ心持ちぢやないし、其に第一下品ですから

マナ (暴風の前に腰を屈めて) いや、申譯がない。此からはもつと伶俐になつて女の味方は氣をつける様にしやう。アンさんの他は僕等は皆面目を潰して終つた。アンさん丈は貴方の肩を持つたんだから、彼女に免じて許して呉れたまへ

ヴァイオレット え、アンさんは大變親切にして呉れましたが、其にしても彼女の方は始めから知つてゐたんですから

タナア おや〜

ミス、ラムズドゥン (角張つて) ちや、一體自身の妻を承認しないと云ふ方は、どんな方だせう

ヴァイオレット (皆迄云はせず) 其は妾の事で貴女に關係はありません。妾は理由があつて今の内結婚を秘密にして置こんです

ラムズドゥン 私は大變お氣の毒な事をしたと云ふより他に言樣がない。ヴァイオレットさん、私は皆で貴女にどんな扱をしたかと思つて、今更後悔してゐます

オクテヴィアス (工合悪相に) 御免よ、僕は此より何とも云へない

ミス、ラムズドゥン (まだ兜を脱ぐのが嫌な様に) 無論そんな話をきけば譯は大分異つて來ますが、其でも妾は自分への義務として……

ヴァイオレット (云はせもあへず) 貴女は妾への義務として、お詫なさらなければなりません。其が自分に對し、妾に對しての義務です。若し貴女が夫のあるお身分でしたら、女中部屋に入れられて、大した關係もない若い娘や年寄の婦人達から、惡戯つ子の様に待遇はれるのは、あまりいゝ心持ちやないでせう

タナア もう降参してゐるのに、そんな酷い事を云ふもんぢやない。僕等は自分で自分を愚にした様だが、實は貴女が僕等を愚にしたんだから

ヴァイオレット 何方にしても貴方に關係はありません

タナア 僕に關係がないつて。なに、今も今、僕はラムズドゥン君に其分らない相手に擬せられかけてゐたんだ (ラムズドゥンは懸命に辯護しやうとしたが、ヴァイオレットの冷かな、鋭い怒はすぐ其を消して終ふ)

ヴァイオレット 貴方が! まあ、何て厭らしい、穢はしい事でせう。貴方は寄つて集つて、妾に失禮な事を云つていらしたんですね。若し其が夫の耳に入りまし

たら、二度と貴方方には口を利かせないでせう(ラムズドゥンに) 貴方はせめて其丈仰しやらずに置いて下さつてもよかつたかと思ひますよ

ラムズドゥン 否私は、私は決してその：少くとも其は私の云つた事を非常に顛倒した話なんて……

ミス、ラムズドゥン 辯疏するにや及びませんよ、皆彼女が自分で招いた事なんだから。寧ろ彼方で妾共を欺したのを謝罪らなけりやならん位ぢやありませんか

ヅアイオレット 貴女には譲つて置いて上げませうよ。こんな事に就ての妾共の心持は迎も貴女にはお解りにならないでせうから。尤も妾共よりはずつと世の中の経験もおありなさる方だから、もつと物事がよくお解りだらうと思つてゐましたけど——併し妾には貴女方の苦しい立場がよく解つてゐますから、今は何も申さずに行つた方が一番よいかと思ひます。さよなら(出て行く。皆驚いて後を見送る)

ミス、ラムズドゥン 眞實にまあ!

ラムズドゥン(訴へる様に) あれぢや餘り酷い

メナア ラムズドゥン君、君も他様のやうに結婚の指輪の前にや叩頭をしなけりやならないよ。不面目の盃は此でいよ——盛溢れさうだ。

幕

第二幕

リッチモンド附近のある別荘の庭の馬車道で自動車損じてゐる。馬車道は鬱然した植込の横を廻つて玄關に續き、損じた自動車は恰度植込の前に止まつてゐる。木間から向ふに家の一部も見える。自動車を右手に馬車道に立つてゐるタナアが、若し其下から突出してゐる仰向になつた、セルの青洋袴の二本の足に氣を奪られてゐなかつたら、必つと左手に家の西の隅を判然見ることが出来る筈なのだ。彼は腰を屈め兩手を膝に突いて熱つと足を見つめてゐる。皮の外套と庇のある無縁帽を被つてゐるのを見ると、確に彼も今迄其れに乗つてゐたのらしい。

兩足 あゝ、出來ました。

タナア もう大丈夫か

兩足 もう大丈夫です

タナアは屈んで蹠を捉へ足の主を手車の様に引出す。男は鐵槌を啣へた儘兩手で匍匐つて出て来る。彼は青い清潔なセルの服を着た若者で、髭は綺麗に剃り、黒眼の指の太い、よく刷毛のかゝつた黒い短い髪に、稍不規則な變な格好の眉をした男である。車を操縦して居る折には動作は素早いが、同時に悠然と沈着して居る。タナアやタナアの友人に對する態度は決して恭しい方ではなく、何日も冷やかに無愛想である。つまり巧に彼等を近寄せないで、而も不平の口實を與へないと云ふ遣方なんだ。其にも拘らず何日も彼等に注意の目を離さない。而も其見方には世の中の裏面を知り抜いて居る人の様に、稍嘲笑の様子を帯びて居る。言葉は遅く多少皮肉らしい處がある。而して彼の言葉遣は決して紳士を氣取らないから、氣の利いた扮粧も決して自分の主人や主人の階級に對する敬意からではなくして、全く自分や自分の階級を尊重する心から起つて居るは明かである。

彼はやうやく車に上つて機械を試し、次に帽子と外套を着ける。タナアは自分の外套を脱いで車の内へ投込む。運轉手（或はオオトモピリストと云ふか、オオトリアと云ふか或はやがて何と云ふ名に極るか知らんが）は鐵槌の始末をしかけて尋ねる様に振向く

運轉手 もう飽きやしたかね

タナア さう、彼處の家へ行つて手足も少し樂にし、神經も鎮めたいと思ふね、(時計

を見て、僕等はハイド、バック、コッナーからリッチモンド迄二十一分で来たんだよ。知つて居るか

運轉手 此處へ来るまで人通さへなかつたら、十五分迄で遣れたんでさ

タナア なぜ又そんなに急ぐんだ。駈けるのが愉快だからか、其とも又可哀相に主人を怖がらせて見たいからか

運轉手 何も怖い事はありませんやね

タナア 巡査も怖けれや首の骨を折られるのも怖いやないか

運轉手 なに、樂に行きたけれや、乗合馬車がありまさあね。其方が第一經濟です。

私を雇ひなすつたのは、第一時間を省いて此高價い自動車（自動車）の難有味を知る爲めてせう（沈着拂つて坐る）

タナア 僕は車と君の奴隷の様なものだ。夜車を夢に迄見るよ

運轉手 なに、其奴はもうつい癒りまさあ——彼處の家へ行きなさるなら、失禮です

がどの位なさる積です。若しか正午前中お嬢さん方と話しておいでなさるのなら、私も車の始末して樂にして居たいし、さうでなければ此邊で用意して待つて居ますから

タナア 此處で待つて居た方がい、だらう、さう永くはかゝるまいから。今此處へマロオンと云ふ若い亞米利加の紳士が、新しい亞米利加製の蒸氣自動車にロビンソン君を乗せて来る筈だ

運轉手 （飛上りさま大急に自動車から降りてタナアの傍へ来る） なに、亞米利加の蒸氣自動車ですつて。私共と倫敦から競走して居たんですかい

タナア 或はもう此處へ着いて居るかも知れんよ

運轉手 私がそいつを知つて居たらなあ。なぜ又私にさう云つて呉れなかつたんです

タナア なに、其車が一時間に八十四哩出せると云ふ事を聞いたからさ。其に途中に競走するものがあると、君がどんな事を遣り出すと云ふ事も、此迄でよく解つて

居るからさ。なに、ヘンリー君には知らしていけない事がある。此などが即ち其一なんだ。併しまあい。今日は一日君の思ふ存分駆さして遣るよ。其紳士がロビンソン君と、ロビンソン君の妹とホワイトフィールド嬢を連れて行き、僕等がロオダ嬢を乗せる事になつて居るから

運轉手 (其で慰められて他の事を考へながら) ロオダさんと云ふのはホワイトフィールド嬢のお妹さんぢやないんですかい

タナア うむ

運轉手 其でホワイトフィールド嬢は他の車に乗つて、貴方と一緒にや行きなさらないんですかい

タナア 僕なんかと一緒に来る譯があるものか、ロビンソン君が向の車に乗るんだもの (運轉手は豈夫と云つた様に、冷やかにタナアを見、其から一人で軽く俗歌を口吟みながら車の方へ向く。タナアは其態度が妙に氣にかゝつて、又元の話に歸らうとする。其時馬車道の砂利の上にオクテヴィアスの

足音が聞えて来る。こいつは難有い。僕等はどうやら負けた様だ。彼處へロビンソン君が来る。オイ、テヴィ、蒸氣自動車は工合がい、かい

オクテヴィアス うむ、い、ね。僕等はハイド、バック、コッナアから此處迄十七分て来たよ (運轉手は無性に怒つて口惜し相に唸りながら自動車を蹴飛ばす) 君等はどの位か、つたの

タナア なに、四十五分か五十分だつたらう

タナア (苦情を申込んで) もし、もし、タナアさん冗談ぢやありませんぞ。遣やなに十五分もかゝらないで樂に遣れたんでさ

タナア 序に紹介して置かう。オクテヴィアス、ロビンソン君、エンリー、ストレイカー君、ストレイカー 此はお初にお目にかゝりまして、タナアさんは冗談にエンリー、ストレイカーと云つていらつしやるんですが、貴方の方ぢやヘンリーでさ。併し私は何方だつて構ひませんや

タナア テヴィ、君は僕が下品だから調戲ふと思つて居るかも知れんが、其はさうぢや

ないんだよ。此男の父親さん達はHを附けるのに苦心して居たものだが、此男は反対にHを落す事に苦心して居る。つまり此男にして見ればHは階級の印なんだね。僕はエンリイ程階級自慢の男を見た事がない

ストレイカア もし、もし、もつとお手柔かに願ひませうぜ

タナア もつとお手柔かにだとき、聞いたかい。テヴィ、君ももつと優しく云へと云ふかも知れんが、此男にや學問があつて、加之に僕等がない事を承知して居るんだ。ストレイカア、君の行つて居た小學校は何處だつたつね

ストレイカア シュヤブルック、ロオドとき

タナア シュヤブルック、ロオドだとき。僕等の仲間て誰があんな威張つた口調でラッグピイとか、パロとかイトンとか云へる者があるかい。イトンなどは僕等が家ぢや邪魔になるし、成人になつてから公爵の名などが出て來ると、元の同窓だと威張れる様に遣つて置かれる、云はゞ小兒預所なんだ

ストレイカア タナアさん、貴方は何も知つちや居なさらない。此を習ふのは小學校ぢや

ねえんで、工手學校でさあね

タナア 其が此男の大學なんだよ君。オックスフォードでもケムブリッジでも、ドルナム、

ダブリン、グラスゴでもなけりや、ウエルズの非國教徒の學校ですらないんだ。

否、テヴィ、自治市チエルシ、リイセント街の工手學校……なに其他にもある

だらうが、僕は半分も知らない。其が此男の大學なんだよ。僕等の學校の様な階級の左券を賣る、詰らない店とは違ふんだ。エンリイ、君は牛津を輕蔑して居るだらうね

ストレイカア いえ、そんな事はありませんやね。あんな處を好きな方にや牛津も

いゝ處でさ。あすこは紳士の教育をするし、工手學校は技手とかそんな者を仕立てる處でせう。さうでせう

メナア あれは君、皮肉なんだよテヴィ、皮肉なんだよ。君がエンリイの心の裡を窺い

て、此男の紳士に對する深い輕蔑の念と、俺は技手だと云ふ尊大な衿持を見たら、必つと吃驚して了ふよ。此男は實際車の損ずるのを待つて居るんだ。さうすれば僕は紳士だから意氣地がなくなつて、反對に自分の技術家としての熟練や手際がよく現せるだらう

ストレイカー　ロビンソンさん、相手になりなさらなさいが、いゝですよ。あんな事云ふのが癖でせう。氣質は誰も知つてゐますからねえ

オクテヴィアス　(熱心に) 併しタナー君の言葉の底には非常な眞理があるよ。僕は深く勤勞の威權と云ふ事を信じてゐる

ストレイカー　(何等の印象を受けず) さうお思ひなさるなあ、なすつた事がないからでさ、私の仕事は勞力を省くためなんて、私と一つの機械から二十人前以上の勞力が得られます、其でゐて此方は水一杯飲ます事は要らないんですからねえ

タナー　どうかお願いだから此男に經濟論は始めさせない様にしてくれたまへ。向ふは

其には通じてゐるが、此方は何も知らない。君は只机の上の社會主義者だが、彼方は科學的なんだからねえ

ストレイカー　(平氣で) え、いや、此お話は大變利益になります、私は車を見て置かなきゃなんねえし、貴方方には又お嬢さん方のお話もありませうからねえ。ええ、よく飲込んでゐませあね (車の方に行つて忙し相に立働、やがてふら／＼家の方へ行く)

タナー　あれは實に注目すべき現象だ
オクテヴィアス　何がさ

タナー　ストレイカーさ。世間の學問や教養のある連中が、昔から誰か特に舊式な女が出て來ると、何日も『新しい女』と云つて騒いだものだが『新しい男』の到來には少しも氣附かずにゐたらしい。ストレイカーが即ち其『新しい男』なんだ

オクテヴィアス　僕は君の彌次り方の外、別にあの男を新しいとは思はないね。併し僕は今彼の話はしてゐられない、實はアンの事に就て君に話し度い事があるんだ

タナア 彼は其事迄知つてゐやがる。多分工手學校でいも習つたんだらう——で、ア
ンの事つて何だ。君は彼女に申込んで見たのか

オクテヴィアス (己を責める様に) 實は昨晚さう云つて見たんだ。残酷な事をした

タナア 残酷つて何故

オクテヴィアス (熱心に、稍誇張を帯びて) ジャック君、男性は皆感情が粗大なんだね。僕等
には女の優しい感情が解らないんだ。僕はどうしてあんな残酷な真似をしたんだ
らう

タナア 何をしたと云ふんだ。君はずいぶん泣味憎の馬鹿だな

オクテヴィアス さうだ、僕は馬鹿だ。君が若しあの聲を聞き、あの涙を見たら何と云
ふだらう。僕は一晩中其事を考へて眠られなかつた。寧ろ彼女が僕を責めて呉れ
たら、どの位堪へ易かつたか分らない

タナア 涙か、其奴は危険だ。で、何と云つたんだね

オクテヴィアス お父さんが亡られて間もないのに、どうして他の事が考へられませう
と云つて歎けり上げて……(男は後が繼げなくなる)

タナア (軽く相手の肩を叩いて) これ、男らしく辛棒したまへ。例へば君は馬鹿だからひ
どく其が氣になるにしてもだね。其はよくある手管なんだよ。彼方はまだ君と冗
戯足りないんだ

オクテヴィアス (怒り氣味に) 馬鹿を云ふのは止したまへ。君は千篇一律の君の淺薄な皮
肉があんな氣立の人に當箱と思つてゐるのかい

タナア さうさねえ。他にまだ何とか云つたかい

オクテヴィアス うむ、實は其がなかつたらこんな話をして、自分許りか彼女迄も君に
愚弄させやしなかつたんだ

タナア (後悔する様に) 否、テヴィ決して愚弄の積りぢやない。併しまあい、話したま
へ

オクテヴィアス 彼女の義務心と云つたら、其は熱烈で、其は完全で、其は………
タナア うむ、分つた。其から

オクテヴィアス 此度の新しい協定では君とラムズドゥンさんが保護者だらう。其で彼女はかう思つてゐるんだ。お父さんに對しての義務は今皆君達に移つてゐるんだから、僕は第一に君とラムズドゥンさんに話さなければいけないつて。無論其はさうに違ひないが、僕は正式に君の處へ来て、君の保護する女を呉れないかと云ふのが何だか滑稽な様な氣がしてね

タナア 戀はしてゐても滑稽の感じが綺麗になくなる程でもないに見えるね。まあ、其でも結構だ

オクテヴィアス そんな事を云つてくれても、彼女の満足する返事にやならないよ

タナア 僕の正式の返事は、云ふ迄もなく『其はお目出度う、末永く』さ

オクテヴィアス 茶化する丈は中止で呉れたまへ。君には何でもないか知れないが、僕

や彼女にや重大なんだから

タナア なに、僕等に相談なんかせんでも、彼女も君と同じで自由に好きな人が撰べるぢやないか

オクテヴィアス 彼女はさうは思つてゐないよ

タナア なに、さうは思つてゐないつて。此は驚いた。だがまあ、僕はどうしたらいいのかわかると云つて見たまへ

オクテヴィアス 僕は君が僕に就て思つてゐる事を、正直に眞面目に彼女に云つて貰ひ度いんだ。僕なら彼女を托していつて——無論其は君がさう思つて呉れたらだかね

タナア 其は無論托されるさ。只心配なのは君を彼女に托していつかどうかなんだ。

君はマアテルリンクの蜜蜂の話を読んだ事があるかい
オクテヴィアス (辛く怒を抑へて) 僕は今文學上の話をしてゐるんぢやないよ

タナア まあ少時辛棒したまへ。僕だつて文學上の話をしてゐるんぢやない。——蜜
 蜂に關する其書物は博物學の一部で、人類に取つては非常な教訓だ。君は自分を
 アンの求婚者と思つてゐるかも知れん。追かけるのは君で追はれるのはアンだと
 思つてゐるかも知れん。つまり君の役目は持かけて口説落し、克服のだと思つて
 ゐるのだらう。お目出度い話だ。追ひかけられてゐるのは君だよ。狙はれた獲物、
 運命められた餌食は君なんだよ。君は捕機の隙間から餌を欲しさうに窺つてゐる
 必要はない、戸は現に開かれてゐる。而して其が永久に君の後に閉される迄は何
 日迄も開かれてゐるんだ

オクテグイアス 君の云ひ様は相變らず酷いが僕もさう信じられるなら信じてゐたい
 タナア だつて彼女には夫を得る外何も役目はないぢやないか。出来る丈早く結婚し
 て終ふのが女の役目で、出来る丈せずゐるのが男の役目なんだ。君は詩人で詩
 や悲劇を書く仕事を持つてゐるが、アンには何も仕事はないぢやないか

オクテグイアス 僕には靈感がなくつちや何も書けない。而してアンの他には其を與へ
 て呉れる者はないんだ

タナア ぢや捕らない様に遠くへ離れてゐて得たらいいだらう。ペトラルクでも君が
 今アンを見る半分もロオラを見やしない。ダンテとベアトリチエだつて其通りだ。
 其でも奴等一流の詩を書いたぢやないか——少くとも人はさう云つてゐる。此
 二人は決して自分等の崇拜する偶像を、狂れくしい家庭生活の試験に置かうと
 はしなかつたから、其で崇拜が死ぬ迄續いたんだ。アンと結婚して見たまへ、其
 こそ一週間も経たぬ内に皿に盛つた煎餅同様、何の靈感も感じなくなつて終ふ

オクテグイアス 君は僕が彼女に飽きると思つてゐるんだね

タナア いや、そんな事はないよ。誰も煎餅に飽きた者はないが、其から靈感は難か
 しからう。其と同じにアンでも一旦詩人の夢でなくなり、例のドッシリ肥つたお
 神さんになつて終つた時にや、もう靈感などは薬にしたくもなくなつて、君は又

新規に誰か他の女を夢みなけりやならぬ様になるだらう。さうすればやがて騒ぎも起つて来る

オクテヴィアス そんな事を云つたつて駄目だよジャック君。君には解らないよ、戀した事がないんだから

タナア なに、僕が！ 僕はまだ戀から醒めた事がない位だよ。いや、僕はアンにさへ戀してゐる。だが僕は戀の奴隷でもなけりや、戀の玩具でもない。蜜蜂を御覽なさいよ、詩人さん。奴等の遣り口を見てもつと伶俐になりまへ。冗談ぢやないよテヴィ、若し女に僕等の勤勞がなくて濟み、僕等が小供の麴包を作らずに却つて其を奪つて食ふ様な事があつたら、奴等は蜘蛛が雄を殺し、蜜蜂が雄蜂を殺す様に、必つと僕等を取殺すに違ない。而して又僕等が戀の外何の役にも立たぬ者だつたら、さうして終ふのが當然だ

オクテヴィアス いや、戀丈でもほんとに出来たら其で澤山だ。世の中に戀程のものは

ない、戀の他何もない。戀がなかつたら世の中は賤しい怖ろしい夢の様になつて終ふだらう

タナア 而も此が——此が僕に保護してゐる女を妻に呉れと云つてゐる男だから驚くぢやないか。おいテヴィ、僕等二人は搖れ籃の内に入れ變つたんで、眞實のドン、ホァアンの血統は君ぢやないかと思ふ

オクテヴィアス お願ひだからアンにはそんな事を云はずに置いてくれたまへ

タナア 大丈夫だよ。彼女は君を自分の所有と狙ひをつけてゐるんで、もうどうしたつて止まりやしないから。君はもう助からないよ(ストレイカは新聞を持つて戻つて来る) 其處へ例の『新しい男』が遣つて來た。相變らず安新聞で悪い事許り見習つてゐる

ストレイカ かう云ふと變ですがねロビンソンさん、私共の自働車に乗る時にや、タナアさんがタイムス私はエコオカリイダと、かう二つ新聞を持つて出るんですよ。

處が私に自分の新聞が讀めるかと云ふとさうぢやねえんで、タナアさんが何日も
リイダアを引奪つて、私は面白くもねえタイムスで我慢させられて終ふですよ

オクテヴィアス タイムスにや勝負の記事は載つてゐないのかね

タナア エンリイは賭事が嫌ひで、自働車の新記録丈が病なんだよ。最近の記録は

ストレイカア 巴里からビストラ迄地中海を除けて、一時間平均の四十哩です

タナア 何人殺れた

ストレイカア なに、羊の間拔二匹丈です。構めえませんや、羊はそんな高價えもん
ぢやなし、持主の方ぢや其場で金が貰へりや、肉屋に賣る世話がなくなつて喜んで
ゐまさあ。夫でも必つと傍でガミ〜云ひ出して、佛蘭西政府が禁じて終ひ、や
がて私共の遣る折がなくなるんですよ。私は其で焦慮するんてさ。タナアさんは折
角遣れる内に思ひ切り疾走て見ることをしなさないんだから

タナア テヴィ、君は僕のゼムス叔父を覺えてゐないか

オクテヴィアス 覺えてゐる。なぜ

タナア 叔父は素敵な料理女を持つてゐて、其女の造つた物でなけりや咽喉へ通らな
いと來てゐる。處が叔父は可哀相に内氣で社交は大嫌ひだ。併し其料理女は又大
の腕自慢で、皇族や大使に料理を味つて貰ひ度いので、其女を出て行かせない様
にするには、叔父は毎月是非共二回位大晚餐會を開いて、人中で工合の悪い思ひ
をしなければならなかつた。今此處に僕と『新しい男』のエンリイ、ストレイカアと云
ふ大將がゐる。僕は旅行が嫌ひだが、何方かと云ふとエンリイは好きなんだ。彼は
塵除眼鏡に皮帽子を被り、身體中砂塵の二寸も浴て一時間六十哩の速力で自分許
りか僕の命迄も跨にかけて疾走廻る他樂と云ふものがない。勿論其は泥の中で
車の下に仰向けになつて、損じた所を探す時は別だがね。で少くとも二週間に一
度位千哩の疾走を遣らないと僕の處にはゐて呉れない。僕に肘を食はして誰か亞
米利加の金持の處へ行き、後僕は恭い、丁寧な、すぐ帽子を脱つて出酒張つ

た事などをしない、馬丁兼庭男上りの素人で我慢しなきやならん事になる。僕は叔父が料理女の奴隷であつた様にエンリーの奴隷なんだ

ストレイカア (怒つて) 冗談ぢやない。私も貴方の舌程廻る事が欲しいもんだ。私の云ふのは自働車を有つて始終動かしてゐなきや、金を只棄てる様なもんだと云ふんでさ。貴方が私と車を使へる丈使はない位なら、乳母車を買つて乳母に押し歩いて歩いた方が気が利いてゐるまゝあ

タナア (慰める様に) よし〜解つた。もうすぐ三十分許り出かけるよ

ストレイカア (胸を悪くして) けち臭い、たつた三十分(車に戻り更に記事を探す様に新しい頁を換ける)

オクテヴィアス あゝ、此で思ひ出した。僕はロオダから手紙を依頼されてゐたんだつけ(タナアに手紙を渡す)

タナア (開封しながら) 又二人で喧嘩でも始めたと思えるな。何日お極りだか娘が母よ

り嫌ひな者は一人あつて、其は一番上の姉だ。併しロオダはアンよりは確かにお母さんの方が好きな様だ。彼女は……(憤つて)おや、此は何だ

オクテヴィアス どうしたの

タナア ロオダが僕と一所に自働車に乗りに来る筈なんだが、アンが僕と一緒に行くのを止めたのださうだ (ストレイカアは突然悪沈着に何日の歌を口吟む二人は卒然此雲雀の様な旋律の起つたのに起き、其上其快活な中に含まれた嘲笑的な調子に不愉快を感じて、振向きながら尋ねる様に相手の顔を見る。併しストレイカアは側目も振らずに新聞を読んでゐるので、二人の動搖は何の結果も惹起さない)

オクテヴィアス (我に歸つて) 何か理由を云つてあるかね

タナア 理由! 侮辱は理由になるものか。アンは如何なる場合にもロオダに僕と一緒にゐるにやいと云ふんだ。僕は若い女と一緒にゐるにや不適當な人間だ相だ。君が神様の様に云つてゐる女も、かうなつちやどうだい

オクテヴィアス 今ちや彼女もお父さんがゐないんだから非常に責任が重いよ。君も其處を考へて遣らなけりやいけな。お母さんはあの通り氣が弱くつて、ロオダの始末が出来ないんだからねえ

タナア (凝と相手を見て) つまり君もアンに賛成なんだね

オクテヴィアス いや、さうぢやないさ。併し僕には彼女の心持はよく分つてゐる。君も、君の日常の考へが若い娘の精神や品性を作るに、餘り適はない事は認めなければいけないよ

タナア そんな事なんか認めるものか。若い女の精神や品性を作るのは、やがて虚言を云つて聞かすのだと云ふのなら認めもする。併し僕が日常女の信頼を濫用して悪い方に導く男だと云ふ、そんな虚言には反對せずにやゐられない

オクテヴィアス アンはさうは云つてゐやしないよ、ジャック君

タナア さうに違ひないぢやないか

ストレイカー (ナラとアンの家から出て来るのを見て) ホワイトフィールド嬢が見えましたよ (車を降りて其處に居ては邪覺だと氣付いてゐる様に並木の彼方へぶら／＼出かける)

アン (オクテヴィアスとタナアの間へ来て) ジャックさんお早う。妾はロオダが何日の頭痛が起つて、今日貴方と一緒にいけないので、一寸其事をお斷りしに來たの。可哀相にあの娘はそれは失望してゐるんですよ

タナア さあ、今どうだ、テヴィ

オクテヴィアス だけどジャック君、君は誤解しちやいけな。アンさんは騙すものも厭はずに君の心を酌んであゝ云つてゐるんぢやないか

アン 何のお話

タナア アンさん、貴女はロオダさんの頭痛を治したかないか

アン それは治したいわ

タナア ちや、彼女に今の話をして其から貴女の來たのは、僕が彼女の手紙を受取つ

て読んでから五分許後だつたと云つて遣りたまへ

アン 妹が貴方に手紙を寄越したんですつて

タナア すつかり譯を書いてね

オクテヴィアス アンさん、構やしないよ。貴方の云ふのは道理だ。——眞實に道理だ。ジャック君、アンさんは自分の義務をしたと云ふ丈で、君にも其邊はよく分つてゐるぢやないか。其も一番親切な仕方だ

アン (オクテヴィアスの方へ行つて) テヴィさん眞實に貴方はいゝ方ね。ほんとによう云つて下すつたのねえ。貴方位妾を解して下さる方はないわ(オクテヴィアスはホクくする) タナア さう〜。うんと締付けるがい。君は愛してゐるんだらう。え、テヴィオクテヴィアス 愛してゐるのは此人も知つてゐてくれるんだよ

アン、シッ! 馬鹿な事を云ふもんぢやないのよ、テヴィさん

タナア なに、僕が許して上げる。僕は貴女の保護者で此から一時間貴女をテヴィに

任せて置く。僕は此から自働車で一寸其邊を廻つて来るんだ

アン 否、ジャックさん、妾は妹の事をもつとよく貴方にお話しなけりやいけくないの。リッキイさん、貴方は家へ行つて亞米利加のお友達のお相手して下さいませんか。こんなに早くからてお母さんも困つてゐますから。家の片付が出来ないものですから

オクテヴィアス 駈けて行くよ。可愛い、アンさんの事だもの(女の手に接吻する)

アン (優しく) リッキイ、テッキイ、テヴィさん(男は意味ありげに顔を赧めて女を見、其から駈出して行く)

タナア (艶氣なく) おい、これ、アンさん、此度は貴女も遣損つたぜ。テヴィが手の附けられない程惚れてゐるからいゝ様なもの、でなかつたら貴女が致方のない虚言吐だと云ふ事をちやあんと見抜いて終つたんだせ

アン ジャックさん、貴方は誤解していらつしやるのよ。妾はテヴィさんにほんとの

事は云へなかつたんですもの

タナア さうだらうさ、貴女の云へるのは大抵其とは反對の側だから。何故又ロオダに僕が悪い人間で交際つちや不可ないなど、云ふんだ。一旦そんな卑劣な事を云つて、彼女の心に毒を注いで終つちや、僕はもう此から人間らしい、正しい交際が出来なくなるぢやないか

アン 貴方が悪い事をなさる様な方ぢやないと云ふ事は、妾もよく知つてゐますわ

タナア ちや、何故妹に虚言を云つたんだ

アン 云はなげやならなかつたんですもの

タナア 云はなげやならなかつたつて

アン お母さんが云はせなすつたのよ

タナア (眼を光らして) ハ、成程、さう云ふだらうと思つてゐた。お母さん。何日もお母さんだ

アン 此は皆貴方のあの怖ろしい本の故よ。お母さんの臆病なのは貴方も知つていらつしやるでせう。臆病な女は皆因襲的で、其でなければ又女はたないんですもの。でなかつたらひどく誤解されて終ひますから。貴方でさへ男でありながら思ふ事を云へば誤解されたり、誹謗られたりするぢやありませんか。……え、其はさうよ。妾は貴方を悪く云つたのよ。悪く云はなげりやならなかつたんですもの。だけど貴方だつて可哀相にロオダを同じ様に誤解させたり、誹謗させたりなさり度かないでせう。お母さんだつて彼娘がまだ自分で物を判断する年齢にもならないのに、世間からそんな取扱ひを受けさしちや可哀相だと心配なさるのは當然ぢやなくつて

タナア つまり誤解を避けるには、誰でも出来る丈虚言を云つたり、悪口吐いたり、遠廻しな物言をしたり、心にもない事を云つたりしなけれやならんと云ふんだね、お母さんの云ふ事なんかきいて居れば、やがてそんな事になつて終ふんだ

アン 妾はお母さんが可哀相なんですもの

タナア (漸次社会的の義憤を起して) 其は自分の考へに依つて行動しない理由とはならないぢやないか。あ、僕は若い者共が卑屈にも年寄に屈從するのを癢に障つて堪まらない。まあ、現今の社交界を見て御覽。何を假装ふてゐると思ふ。妖女の美しい舞踏ぢやないか。其舞踏は何だ。若い娘の心を腐らして、一番高値を附ける男に賣付ける事を役目にしてゐる、皮肉な、狡猾い、貪慾な、何等の迷もない、無智な経験で心の曲つた、母と云ふ老婆の爪にかゝつてゐる娘共の慘な悼ましい行列だ。ちや、何故此不幸な奴隷共が、せずゐるよりはましたと云つた様に、どんな年寄とても悪人とでも結婚するんだらう。其は結婚が若い娘共の、あの母の義務とか、母子の愛情とか云ふ口實で、我儘勝手な野心を満したり、自分に取つて代つた若い敵手に嫉妬の憎悪を藏してゐる、母と云ふ老婆の畜生から遁れる唯一の手段だからなんだ。こんな事は見るからに厭はしい。自然の聲は女兒には父、

男兒には母の世話を求めてゐる。父と息子、母と娘の法則は愛の法則ではなくして革命の法則、解放の法則、役に立つ若い者がやがて老耄た役に立たず共を壓服して行く法則なんだ。よく聞いて置くが、成人した男女の最初の義務は「獨立の布告」にあるんだ。男子にして父の權威を説く者は男子ぢやない。女子にして母の權威を口にする者は、自由の國民を生むに適しない女だ

アン (沈着いて物珍しさうに男を見守りながら) ジャックさん、貴方はやがて必つと眞面目に政治をお遣りなさる様になるでせうね

タナア (いたく氣勢を殺がれて) え、何、何…… (支離滅裂になつた考を纏めて) 其が僕の云つてゐた事と何の關係があるんだ

アン 貴方はそんなによくお口が廻りなさるんですもの

タナア 口が廻るつて。今の話は貴女には口が廻ると云ふ外、何の意味もないんだね。よし、まあお母さんの處へ行つて、貴女の考を毒した様に、ロオダの考に毒

を盛る手傳でもしたまへ。由來狂れた象と云ふものは、野飼の象を楽しんで捕へるものだから

アン 妾も追々出世しますのね。昨日は王蛇で今日は象ですから

タナア さう、だから早く鼻を捲いて行きたまへ。僕はもう貴女に云ふ事はない

アン 貴女はほんとに分らない、無理な事許り仰やるのね。妾は他に致様がないぢやありませんか

タナア 致様のない事があるものか。早く鎖を断つてお母さんの良心でなしに、自分の良心に従つて自分の道を行つたらい。心を曇らない強いものにして、自動車を見ても厭はしい謀計の手段などにはしないで、其て疾走る事でも楽しむ様にしたらい。僕と一緒に一時間六十哩の速力で、最初マルセイユへ、其から海を越へてアルジエルやビスクラ迄駆けだして見たまへ。若し何ならまつすぐに喜望岬迄行つてもい。さうすれば復讐を兼ねて獨立の布告にもなる。後で其の旅行記を書

いてもい。さうすればお母さんを屏息させて、一人前の女になれるだらう

アン (思索して) さう、一緒に行つても別に悪い事はないわ、ねえ、ジャックさん。貴方はお父さんの意思で妾の保護者となり、父の代りになつていらつしやるのですから、一緒に旅行しても誰一人一言云へませんわね。必つと面白いでせう。ジャックさんほんとに難有う。妾行きますわ

タナア (仰天して) 行く?

アン え、く、行きますとも

タナア 併し、(呆れ果て、言葉を切る。其から弱々しい聲で) 否、まあ聞きたまへ。假んば悪い事はないにしても、行かなければならん理由一つもないぢやないか

アン 随分没分曉漢ねえ。貴方は妾に恥掻かす積ぢやないでせう

タナア 否、全く其積りて云つて見たんだ

アン 貴方は承知して、詰らない事を仰しやるんですもの。貴方は妾に氣を悪がらせ

る様な事をなさる筈はないわ

タナア 否、恥を掻かされるのが嫌だつたら、来ずに置きたまへ

アン（無邪氣に熱心に）いえ、ジャックさん、貴方が来いと仰しやるんだから妾行きますわ。貴方は妾の保護者ですから二人はもつと度々逢つて、もつとお互に氣心を知り合はなければいけないと思ひますの（嬉し相に）妾をこんな楽しい旅行に、殊に妹の事であんな厭な事を云つた後で、こんな楽しい旅行に誘つて下さるのはほんとに行届いて親切だと思ひますわ。貴方は眞實にいゝ方よ……自分で思つていらつしやるよりは、ずつと〜といゝ方よ。何日出發ませう

タナア 併し……

話はホワイトフィールド夫人が家から来たので途切れて終ふ。彼女は亞米利加紳士に伴はれ、後にラムズドワンとオクテヴィアスが尾ひて来る。

ヘクタア、マロオンは亞米利加東部の産だが、少しも自分の生國を恥ぢて居らぬ。此事は英國上流

社會の人々によく思はせる種になつてゐる。其は明かに自分に不利益な事を、隠さうとも繕はうともしないで、其を公言する彼の態度を男らしいと見るからなんだ。彼等は此男を明かにその過ちでない事のために苦しめてはならぬと思ひ、彼に對して特に親切にしてゐる。ヘクタアの女に對する俠氣な態度や進んだ道念は多くは的外れて、奇抜な時には滑稽にも思はれる。又彼の軽い諧謔も最初の内の様に人を惱まさない（最初は何の事か分らない）多少面白い様にも思はれるが、其でも彼の話す逸話は必ず誰かの身の上話で、同時に誹謗的な事件でなければ面白くない事や、彼の用ゐる演説口調は、今日彼の渡つて来た歐洲文明よりは、もつと未開な時代に尊ばれた技藝だと注意して遣らなければならぬ様と思つてゐる。此等の點に就てはヘクタアはまだ充分首肯し迄には行かない。彼はまた英國人は彼等自身の愚かさを貴び、種々の無能力をも育ちのいゝ印と思つてゐるのだと信じてゐる。又彼には英國人の生活には、堂々として辯舌（かう云ふ辯舌を彼は道德的口調と呼んでゐる）が著しく缺けてゐる様に見え、英國人の態度には女子に對する尊敬が著しく缺けてゐると思ひ、言葉の上にも World, girl, bird, など云ふ字の發音が極めて下品に聞える迄に拙いと思つてゐる。又彼は英國の社交界は時には堪へ難く無禮に思はれる程言葉に遠慮がなく、又彼等の交際はもう少し勝負事や、雑話や、他の娯事で活氣附ける必要があると思つてゐる。だから彼は思ひ切つて大西洋を越へる前に、折角骨を折つて一流の作法を學んだのに、今更此等の缺點をやる理由はないと思つてゐたのだ。彼は自

分の此教養に對して、英國人はおしなべて凡ての教養に無頓着である如く、全然無頓着であるか、乃至は敬遠主義を取るのを氣付く様になつた。併し事實を云へばヘクタアの此教養は、三十年以前に英國から輸出した文學に浸潤し、其を此度自分と一緒に輸入して、一寸の暇にも其荷を解き、あらゆる話の機會に英國の文學、科學、美術の面前に投付やうとするに過ぎないのだ。かう云を攻撃に達つた人の驚きの狀は、ます／＼彼を圖に乗らしてひとごと自分で英國を教育してゐる様な心持にならせる。で、彼は人々の温順しくアナトオル、フランスや、ニイサエの話をしてゐるのを見るとマツシユウ、アアノルドやオリグア、ウエンデル、ホルムスや、マコオレエさへも持出して、一氣に彼等を押退けて終ふ。而して根は非常に信心深い男だから、一緒に道德問題を論ずる様な時には、最初に一般神學は取除けにする様に、滑稽混じりの馬鹿にした様な口調で、不注意な人を外して置きながら、やがて又自分の説く行爲の理想を實行することは、正しい男、純潔い女を作らんとしたまふ、全能の神の明かな目的に添ふ所以ではないかなど、云つて一同を烟に捲いて終ふ。彼は資性には心を惹かれる様な生鮮した處があり、反對に教養は驚く許り古臭いので、交際する價值のある男が如何かと云ふ事は、極めてきめ悪い。と云ふのは話して居れば面白く愉快であるが、知的には何等の新しいものが得られないからだ。殊に彼は政治を疎外し、商業上の事は勉めて話さない様にするから尙更だ。此商業上の事では多分彼は英國の資本家の友人等より遙に進んでゐる筈だ。彼は女に魯鈍い質の、浪漫的

な信者とは一番よく氣が合ふ。だからオクテヴィアスと仲好くしてゐる。

容貌の上から言へば、ヘクタアは短い氣の利いた様に揃んだ黒い髻のある、割然と格好のいい眼の、媚びる様な生々した口の利方をする、體委勢の好い二十四歳の青年だ。身装は意氣筋から云へば非の打處がない。彼が家からホワイトフィールド夫人と馬車道を徐々遣つて來る時に、勉めて自分を氣に入らず様、面白く見せやうとしてゐる。而してあまり伶俐でない夫人には、其が堪へ切れない重荷になつて見える。英國人ならば、退屈と無關心が二人の共通の運命と諦めて、相手に構はず放つて置く處だ。而して可愛相に夫人自身も構はずに置いて貰ふか、乃至は自分に興味ある事を自由に話さして貰ひ度がつて居る。

ラムズドゥンは自動車を見に、ぶら／＼向ふの方へ行く。オクテヴィアスもタナアの方へ行く。

アン（嬉し相に母の方へ駆け寄つて）まあ、お母さん、どうでせう。ジャックさんが妾を自動車でナイスへ連れて行つて下さるんですつて。面白いでせう。妾こんな嬉しい事はないわ

タナア (躍起となつて) 奥さんが不賛成だらう。必つと不賛成だ。ねえ、ラムズドゥンさん

ラムズドゥン 私も大方さうだらうと思ふ

アン 貴女は不賛成ぢやないでせう。ね、お母さん

ホワイトフィールド夫人 妾が不賛成だつて。そんな事がありますものか。貴女には必つといつてせう (タナアの方へちよこ／＼行つて) 妾はロオダも時々運動に連れて出て下さる様に、お頼みしやうと思つてゐたんですよ。彼娘はあまり家に許り引込んでゐますから。併し其は歸つて見えてからでも澤山です

タナア 虚言を吐くにも程がある!

アン (此怒鳴聲から皆の注意を外す様に、急いで) あゝ、忘れてゐました。貴方はまだマロオンさんにお逢ひぢやなかつたでせう。妾の後見のタナアさんです。ヘクタア、マロオンさんです

ヘクタア 此は始めてお目にかゝりました。何でしたらナイス行はもつと大勢にしたらどうかと思ひますが

アン えゝ、皆で参りませう。さうでせう

ヘクタア 僕も詰らないのを一臺所有つてゐますから、失禮ながら若しロビンズン嬢と一緒に置いて下さるなら、喜んでお供いたしませう

オクテヴィアス 妹を! (場が白ける)

アン (温順しく) いらつしやいな、お母さん。皆様にはいろ／＼お打合の相談もありませうから。妾も一寸旅行の用意をして置かなければなりませんし (ホワイトフィールド夫人は一寸間誤つた顔をするが、アンは氣を利かして母を彼方へ引張つて行き、やがて角を曲つて家の方へ消える)

ヘクタア ロビンズン嬢は御承知下さるものと思つて置いても、差問題でございますまいな (座の白けが續く)

オクテグアイアス ことに依つたら、妹は此處に残して置かなければならんかも知れません。彼女にはさう云ふ旅行に兎ても行けない事情があるんですから

ヘクタア (其丈では承知せず、却つて興がつて) あまり亞米利加流ですかね、え。ロビンズン嬢には矢張り附添女がなければいけないんですかな

オクテグアイアス そうぢやないんですが——少くとも其許ぢやないんです
ヘクタア はあ、ぢや他にどんな故障があるんでせう

タナア (自烈多相に) まあ、云つて終ひたまへ、云つて終ひたまへ。秘密は皆が知つて終ふ迄は兎ても守り終せるものぢやない。マロン君、ヴァイオレット嬢とナイスへ行つたら、君は他人の妻と一緒に行く事になるんだ。ヴァイオレットさんは結婚してゐますよ

ヘクタア (雷にでも打たれた様に) 豈夫、其は虚言でせう
タナア いや、ほんとだ。此處丈の話だが

ラムズドゥン (アロオンが怪しい事でもある様に氣を廻しはしまいかと、勿體振つて) 彼女の結婚はま

だ發表されてゐません。當分世間に知らさずに置きたいと云ふ本人の意思で

ヘクタア 御本人の意思とあれば尊重いたしませうが、御良人は何某かお尋ねしても構はないでせうか。此旅行に就て其方に御相談する機會があるかも知れませんか
ら

タナア 僕等はまだ誰か知らないんだよ君

ヘクタア (際立つてよそ／＼しい調子になり) 其でしたら、もう僕には申すことはありません
(座は更に白ける)

オクテグアイアス 君は此を大變妙にお思ひでせうね

ヘクタア 少し變ですわ、かう申したら失禮かも知れませんが

ラムズドゥン (半は言譯、半は辯護の様に) 彼女は内密で結婚して、良人なる人が名を發表する事を禁じたいらしいです。此は他人に云ふべき事ではないが、君はロビン…

・否なに……ヴァイオレットに多少興味を有つてゐられる様だから、一應申して置くのです

オクテヴィアス (同情して) 君は失望しやしないてせうね

ヘクタア (折れて又狂々しい口調になり) 否、其は打撃です。併し僕は如何して男が自分の妻をそんな訝しな風にして置けるかと思ふんですよ。少くとも其は普通ぢやありません。男らしい、親切な遣方ぢやありません

オクテヴィアス 僕等も無論其は可成痛切に感じてゐます

ラムズドゥン (憤として) 此は必つとこんなに秘密にして置くと、終にどんな間違が起つて来るかも知らない、若い無経験な馬鹿者の仕事に違ない

ヘクタア (顔に強い道徳的反感の色を浮べて) 其ならまだいゝですが、かう云ふ事をするには其人は餘程若く、少し馬鹿でもなければ言譯が立ちませんな。ラムズドゥンさん貴方のお考へはまだ餘程寛大ですよ。僕には寛大過る様に思はれます。結婚し

たらもう少しは、人間が高尙になり相なものなのに

タナア (冷笑的に) ハア、ハア

ヘクタア お笑ひなさる處を見ると、僕と考へが違ふと仰しやるんですか

タナア (艶氣なく) まあ、結婚して試して見たまへ。其は少時の間は楽しいかも知れんが決して人を高尙にするもんぢやない。男一人と女一人の最大公約量は、必ずしも男一人の量より多いとは極まつてゐないからね

ヘクタア いや、僕等亞米利加では、女の徳目は男の徳目よりずっと多く、女の純潔な性質は知らぬ間に男を昂めて、前よりはずつとよい人間にするものと信じてゐます

オクテヴィアス (確信の調子で) 實際又さうだ

タナア 成程亞米利加の女が歐羅巴に住みたがるのは無理はない。其方が一生涯祭壇に据ゑて拜まれるよりずっと樂だからねえ。何方にしてもヴァイオレットの良人は

高尚にやならなかつたらしい。だから云つて見たつて致方があるまい

ヘクタア (頭を振つて) タナアさん僕は貴方の様に其人の行爲を軽く見て済ますことは出来ませんよ。併しもう僕は何も云ひますまい。誰にもせよ其人はロビンズ嬢の良人ですから、ロビンズ嬢のために其人をよく思ひ度いです

オクタヴィアス (相手の胸を見抜いてほろりとしながら) アロン君、ほんとお氣の毒です。

ほんとお氣の毒です

ヘクタア (嬉し相に) ロビンズ君、君は實にいゝ人だ。感謝します

タナア 何か他の話をしたまへ。ヴァイオレットさんが家から遣つて来たから

ヘクタア 皆様にお願ですが此を機會に彼女と二人切で、僕に一寸話さして下さらないでせうか。此旅行の話は取消さなければなりません、其は一寸人前で云ひ悪い様な……

ラムズドゥン (早く渦中から遁れ度いと思つて) もう解りました。さあ来たまへタナア君。さあ、

テ、ヴィ(オクタヴィアス、タナア等と一緒に自動車の傍を通り越して、庭の方へぶら／＼出かける。ヴァイオ

レットは並木道をヘクタアの方へ遣つて来る)

ヴァイオレット 誰か見てゐるでせうか

ヘクタア いや、(女は男に接吻する)

ヴァイオレット 貴方は妾のために虚言を云つていらしたの

ヘクタア 虚言! 虚言處の話ぢやない。僕は虚言を通り越したよ。虚言の面白味でつい調子に乗つて、不要事迄も云つた譯さ。ヴァイオレット、僕は寧の事も云はして欲しいと思ふ

ヴァイオレット (すぐ眞面目になつて、斷乎と) 否、否、云はないとお約束なすつたでせう

ヘクタア 其は貴女がいゝと云ふ迄約束は守るさ。併し僕はあの人達に虚偽を云つて、

自分の妻を妻でないと云ふのを、非常に卑屈に思ふんだ。ほんとに卑怯な様にね

ヴァイオレット 貴方のお父さんがもう少し分つて下さるといんですけど

ヘクタア 分らないのぢやない。彼人は彼人の立場からは正しいんだから。父親は英國の中等社會に一種の偏見を持つてゐるんだ

ヴァイオレット あまり馬鹿くしいぢやありませんか。妾は貴方にこんな事を云ひ度かありませんけど。若し妾が……え、もう云はんで置ませう

ヘクタア 解つてゐる。貴女が英國の家具製作業者の倅と結婚すると云つたら、貴女の友達は皆不釣合な縁と思ふと云ふんだらう。處で、僕の馬鹿父親は家具製作業者では世界一な處から、貴女の様な立派な婦人と結婚しても、貴族の娘でないからと云つて、僕を勘當して終ふと云ふんだ。勿論此は實に愚な話だが、其でも僕は父親は欺し度くない。何だか父親の金を盗む様な氣がしてねえ。何故又貴女は僕に云はして呉れないんだよ

ヴァイオレット だつてさうは出来ないぢやありませんか。愛に就ちやどんなに浪漫的でも構ひませんが、お金に浪漫的ぢや困りますもの

ヘクタア (女房思ひと何日もの高い道念とが七分三分と云ふ處で) 其奴あ大分英國式だ。(衝動的に

女に訴へて) ヴァイオレットさん、父親は何日かは僕等の事を知らずにやるないんだからね

ヴァイオレット え、其は勿論後ぢや構ひませんとも。併し逢ふ度毎にこんな話をするのは廢さうぢやありませんか。貴方は約束……

ヘクタア よし、僕は只……

ヴァイオレット (黙つてはゐず) 隠してゐたつて苦しむのは妾で、貴方は何ともないぢやありませんか。其から苦勞とか貧乏とかそんな様な目に逢ふのは、妾はどうしても嫌です。餘り智慧のない話ですもの

ヘクタア 決してそんな目には逢はせないよ。僕は父親から金を借出す工風して、獨立出来る様になつたら、其を拂つて同時に貴女の事も名乗り出る積りてゐるんだ
ヴァイオレット (驚き且憤つて) 貴方は働くつもりですつて。わざと結婚を詰らなくし

てお終ひなさるんですか

ヘクタア さう。僕は結婚のために自分の品性を傷けるのは嫌だ。其事でもう貴女の友達の方にも少し笑はれてゐるからね。其に……

グアイオレット 畜生！ 妾はジャック、タナアが大嫌

ヘクタア (寛容に) なに、あの男はあれでいゝさ。只善い女の愛を受けた事がないから、其で高尚になれない丈で。其に彼は僕を自動車でナイスへ一緒に行かうと誘つて呉れた。僕は貴女も一緒に連れて行かうと思つて

グアイオレット まあ、面白いわね

ヘクタア さう。併しどうして其始末をつけたものだらう。云はゞ皆が貴女と一緒に行く事を止めた體になつてゐるからねえ。皆が内密で貴女に夫のあることを話してくれたんだよ。僕は今迄こんな怖ろしい内密話を聞かされた事がない(タナアはストレイカアと一緒に戻つて来る。ストレイカアは自動車の傍へ行く)

タナア マロオン君、君の自動車は大したものだね。君の運転手が今ラムズドゥン君に大威張で見せてゐるよ

ヘクタア (熱心に、うっかり忘れて) 行かうぢやないか、グアイさん

グアイオレット (目で合圖して、冷淡に) 何ですか仰やる事がよく聴取れませんでしたか：

……

ヘクタア (言ひ直して) ロビンズ嬢、私は貴女に詰らない亞米利加の蒸氣自動車を見て戴き度いと思ふんですが

グアイオレット え、拜見いたしませう(二人は一緒に並木道を彼方へ行く)

タナア 君、此旅行の話だね

ストレイカア (車に氣を奪られて) へえ？

タナア ホワイトフィールドさんが僕等の車で行く事になつてゐるらしい
ストレイカア さうらしいですね

タナア ロビンソン君も此方の仲間なんだ

ストレイカー ヘえ

タナア て、若し君が始終僕と話をする様にして、ロビンソン君を始終ホワイトフィールド嬢と話の出来るやうにして遣つたら、ロビンソン君は必つき君を難有がるんだ

ストレイカー (振り返つて) さうですかね

タナア 「左様ですか」だと。君の祖父さんなら、一寸瞬だけする處だ

ストレイカー 私の祖父さんなら、帽子を取る處でさ

タナア 而して僕は君の順良しい、恭しいお祖父さんに十圓金貨を一枚遣るだらう

ストレイカー さあね、二圓五十錢銀貨位な處でせうぜ (自動車の傍を去つてタナアに近く) ホ

ワイトフィールド嬢は、何と思ひなさるでせうね

タナア 彼女だつてロビンソン君と同じで、一緒に置いて遣つたら喜ぶさ (ストレイカー

は沈着いた疑深い様な顔付で主人を見、其から日常の歌を口笛にしながら自動車の方へ向く) そんな耳

障な音は止してくれ。何故又急にそんな物を歌ひ出すんだ (ストレイカーは平氣で其續を

始め、終迄歌つて終ふ。タナアは温順しく終迄き、其から酷く眞面目になつて口を切る) エンリイ、僕

は一般市民の間に音楽の普及することは、昔から熱心に主張してゐたが、ホワイト

フィールド嬢の名が出る毎に、君が誰にでも口笛の御馳走して呉れるのには賛成出来

ない。君は先刻も遣つたぢやないか

ストレイカー (強情に) そんなにしたつて駄目でさあ。ロビンソンさんは寧の事、思切

つて終ひなすつた方がいゝんだがなあ

タナア 何故さ

ストレイカー 冗談ぢやねえ。ちあんと知つてゐなさる癖に。——無論此は私の知つた

事ぢやないが、何も態々私を騷りなさるにも及ぶめえと思つて

タナア 騷るんぢやない。實の處知らないんだ

ストレイカー (拗れてはゐるが快活に) いえ、なに何方でも構えませんかや、私の知つた事つちやねえんだから

タナア (言葉強く) エンリイ、僕は無論主人と運轉手とは、其間に適當な隔を置いて自分に関つた事は、なる可く君を煩はしちやならない位な事はよく心得てゐる。お互の雇聘上の契約ですら、君等の同業組合の承認を経なければならぬ事になつてゐる位ぢやないか。だが君は自分の利益を濫用しちや不可ん。知つてゐるだらうが、ヴォルティルも口に出しては馬鹿くしくつて云へない事も、歌になら歌へると云つてゐる

ストレイカー あれはヴォルティルぢやねえ、ボッ、マル、シニエでさ

タナア 訂正されちやつた。さう、ボッマルシニエだ。處で、君は口に出しては云ひ難い事も口笛でなら吹けると思つてゐるらしい。だが困つた事にや、君の口笛は中々調子はいゝが意味はさつぱり解らない。さあ、誰も聞いてゐる者はない。僕の

上品ぶつた親戚の者共も、君の小癪な組合の書記もゐない。同等の人間として尋くんだが、何故君はロビンソン君が、ホワイトフィールド嬢に見込がないと云ふんだ

ストレイカー ホワイトフィールド嬢は他に思つてゐなざる人があるからいけねえ

タナア 馬鹿な！ 他に思つてゐる人つて誰だ

ストレイカー 貴方でさあね

タナア 僕！

ストレイカー 今迄知らなかつたと仰るんですかい。冗談ぢやねえ

タナア (怖しく熱心に) 君は僕を愚弄してゐるんか其とも真面目なんか

ストレイカー (バツと怒つて) 私は愚弄なんて、そんな事はしませんや(もつと沈着いて)だつてよく見えてるぢやありませんか。あれに氣が付かない位なら、全くあの方の事にや盲なんだ(再び平靜になつて) 此は濟まねえ事を申しました。併し貴方は同等の者としてお聞きなすつたから、私も同等の者としてお答した迄です

タナア (血相變へて、天に訴へる様に) ちや、僕が …… 此僕が蜂なんか。此僕が蜘蛛なんか、狙はれた生贄、運命られた餌食なんか

ストレイカア 蜂や蜘蛛はどうか分らねえが、狙はれた生贄、其に間違はありませんや。其に又云つて見れや其も萬更ちやありますめえぜ

タナア (一大事の様に) ヘンリイ、ストレイカア、君の一世一代の時が来た

ストレイカア え、

タナア あのピスクラ迄の記録ね

ストレイカア (熱心に) へえ

タナア あれを破れ

ストレイカア (夢中になつて) ほんとですかい

タナア ほんとだとも

ストレイカア 何日です

タナア 今だ。あの車はすぐ出發るか

ストレイカア (落膽して) 併し眞實ぢや…

タナア (皆迄云はせず車に飛乗つて) さあ行かう。始に金を取りに銀行へ行き、次に宅へ仕度(たく)に寄り、其(それ)から君(きみ)の家(うち)へ廻(ま)り、倫敦(ロンドン)からドヴァカフォルクストーン迄(まで)の記録(レコード)を破つて、其(それ)から海峡(かいけい)を越(こ)え向(むか)見(み)ずに「マルセイユ」か「ジブラルタル」か「ゼノア」か、でなけや何處(どこ)でもい、から、男(おとこ)が女(おんな)に侵(をか)されな(な)いマホメット教國(けうこく)へ渡(わた)る港(みなと)へ行くんだ

ストレイカア つまんない。私(わたし)を黽(むげ)つてゐなさんだ

タナア (殺(ころ)と) ちや、後(あと)に残(のこ)つてゐるさ。行くのが嫌(いや)だつたら僕(ぼく)は一人(ひとり)で遣(や)る(自動車を出しかける)

ストレイカア (追(お)かけて行き) さあ、來(き)ましたぜ。一寸(ちよつと)待つて、待つて下(くだ)せえ (自動車の勢(いきほ)附(つ)いて駈(か)出す時、辛(こ)く其(その)に攀(のぼ)ち登(のぼ)る)

第三幕

一六〇

シイエラ、ネヅアダの夕。蜿蜒くした棒色の傾斜地。耕地には林檎の代りに橄欖樹が殖えられ、荒地にはハリエニシダや齒朶の代りに處々霸王樹が生えてゐる。ずつと上の方には美しい立派な、高い石の峰や斷崖がある。此處には野生的な分子はなく、寧ろ凝り性の藝術的創造者の作つた、極めて貴族的な山地の景色である。草木があり餘つて下品と云ふてはなく、處々の石原には却つて不毛乾燥の趣がある。西班牙式の莊大さと、西班牙式の節約とは到る處に現はれてゐる。

山の小徑の上の街道がマラガからグラナダへ行く鐵道線路の墜道を横切つてゐる邊から、北へ餘り遠くない處に、シイエラの馬蹄形の大きな窪地がある。窪地の開いた方から眺めると、少し右手寄の斷崖の面に、元石切場と思はれる浪漫的な洞穴があり、左手寄には小さな丘が聳え、其丘からは窪地の左側を限つて、處々土盛や石の迫持て高さを均した街道を見晴せる様になつてゐる。

丘の上には蘇格蘭人か西班牙人らしい男が道の張番をしてゐる。多分西班牙人なのだらう。何故と云ふに其男は山羊飼の服を著げ、シイエラ、ネヅアダによく相應つて見えるからだ。併し其にしてもどうも蘇格蘭人らしい。石切場に降つて行く斜面の窪地には、落葉や柴などの燃え燻つた、白い灰の周圍に十二三人の男が思ひ／＼に倚掛つてゐる。其者共は自分からシイエラを感じのいゝ背景として使つて遣つてゐる。繪にある様な美しい泥棒様だと思込んでゐるらしい。併し事實藝術的の立場から見れば、決して美しくいとは云へない。而してシイエラが彼等を許容してゐるのは、獅子が風を許容すと同じ譯なのだ。英國の巡查や貧民救護吏が彼等を見たら、必つと身體の丈夫な貧民、浮浪人の撰良の一群としか思はないだらう。

こんな風に云ふのは、必ずしも彼等に輕侮の意味ではない。誰でも少し注意して浮浪人や、養育院へ入つてゐる身體のいゝ方の者を見たら、社會の劣敗者は必ずしも大酒家や、虚弱漢計りではない事を認めるだらう。彼等の中には自分等の生れた階級に適しないものもある。教育ある紳士を藝術家たらしむると同じ素質が、やがて教育なき勞働者を身體の丈夫な賤民とするのだ。世中には何の能もなくして止むを得ず養育院へ落ち行く者もあるが、又社會

の規約を無視し得る底の強い心を持つてゐて、我から進んで其處へ行く者もある。(此は一國の經濟を支へて行く納税者の側から云へば、打棄て置けない問題だ) 何故と云ふに、此規約に依れば人は過大な勞働と低廉な報酬を以て生活して行かなければならぬが、一方養育院は自分から生活の道のない事を訴へて其内に入るならば、法律上救護吏をして、自分で餘り骨折らずに遣るよりは、ずつとよい物を食べ、ずつとよい衣物を着、ずつとよい家に入れさせ事が出来るからだ。天性の詩人が株式仲買人の店に勤める事を嫌ひ、賈しい下宿の女將や、友人親戚などに寄食して、屋根裏の部屋に餓えてゐても、自分に向かない仕事をしないと、又は身分ある女が身分あるからと云つてどんな無理な食客をしても料理女や小間使には成下るのを嫌ふ様な場合には、人は可成斟酌して聞く。かう云ふ斟酌は身體のいゝ賤民や、其の放浪癖ある一變形とも云ふべき浮浪人も、同じく受けるのが當然である。

其に想像的天賦の優れた人は、生活さへ可成であるならば、創作に従事する餘暇や、美術などに向へる地位が得られないでもないが、下等勞働者の階級ではそんな地位は得られない。吾々は甚だしく勞働者を虐待してゐる。で、彼等が虐待されるのを拒んだからとて、吾々は正しい仕事を厭ふ者として責

める事は出来ない。此劇を進めるに先つて此事文は讀者と共に認めて置き度い。——さうしなかつたならば、僞善が其間に加つて作を正當に味へなくなると。——若し吾々が理性の勝つた、先の見える人間であるならば、少なくとも吾々の十中の八は、直ちに救護を願出で全社會組織を根柢から覆して終ふに違ない。又其方が新に組織し直す便宜があつていゝかも知れぬ。然るに吾々はさうはしない。此は一に吾々は其等の事を究めずして、蜂や蟻と同じく本能、習慣に依つて働いてゐるからだ。其故に若し此處に道理を考へる力もあり、又其道理に従つて行動する種類の人が出て來て、自分の行爲にカント式の吟味を當辨め、若し凡ての者が予のする如くするならば、世界は産業的に改革され、あらゆる束縛、汚穢を破棄せざるを得ない様になるだらう。元來此束縛や汚穢は、凡ての者が予の爲すが如く爲さないが故に存在するのだと自信を持つて云ひ得るならば、吾々は其人を尊重して、眞面目に其人の事例に従ふ様にした方がいゝと思ふ。かう云ふ人は身體のいゝ、頭の確りした賤民なんだ。若し其人が紳士で、例へば辻の掃除番などにはならず、年金とか、空扶持の役目を一生懸命探してゐるにしても、主として他人の金で暮すと、自分の金で他人に暮らすと二つの方法しかない限り、自身に損な方法

を撰ぶのは愚だと云ふ考から、今の様に決めたにしても誰にも非難は出来な
い筈だ。だから吾々も此シイエラの浮浪人の群をば、別に悪く思はずに置き
度い。吾々の目的（手短に云へば資産ある紳士になり度いと云ふ）も、彼等の
目的も殆んど同一で、地位や方法の相違は單に偶然の事象に過ぎないことを、
卒直に認めなくてはならぬ。尤も此中の二人は、別に悪意は持たずに、穩
かに卒直に殺して終つた方がいかも知れぬ。世中には四足獸と同じく鎖に
もつながらず、口輪も穿れずに放つて置いては危険な人間は幾何でもある。と
云つて此等の見張に他の人の一生を無駄に費はせる譯にも行かぬ。併し社會
は彼等を殺す丈の勇氣もなく、而して彼等を見張る時には、迷信的賠償の儀
式とも云ふべき、苛責と屈辱とを彌が上加へ、新なる犯罪に對して一層立
派な資格を附けて放して遣るのが常だから、寧ろ自由にシイエラに置いて、
怒つたら射殺すも爲兼まじい顔をしてゐる親方の手に托されてゐるのは、強
ち悪いとは云へぬかも知れぬ。

主領は一同の真中に、石切場から取つて來た四角な切石の上に腰掛けてゐ
る。彼は大きい垂下つた鸚鵡の様な鼻と、光澤くしい黒髪、先の尖つた顎
髭、上向いた口髭、メフイスト式に可成殿めしく容體ぶつた、丈の高い強さ

うな男である。此殿めしく見えるのは、多分此處はヒカデイリ街よりは威
張つて歩くのに都合がよいのと、此男の何處かに感傷的な處があるからであ
らう。此感傷的な處は此男に一種の優雅さを與へ、此優雅さがあるがために氣
取つた處もさまで目觸とはならぬ。彼の目や口は決して悪徒の様ではない。
彼はよい聲と應答の妙を持つてゐる。而して彼は實際此仲間が一番強いかと
うかは疑問だが、少なくとも顔附はさう見える。彼は確に他の者よりは營養
もよく、衣物も立派で訓練も行届いてゐる。彼の英語を話すと云ふ事實は、
西班牙の土地ではあるが、必ずしも異とするに足らぬ。何故と云ふに彼等の
内、酒で身を亡ぼした拳闘師らしい男と、見誤ふ方なき一人の佛蘭西人との
他は、皆生粋の倫敦人か亞米利加人計だ。だから輕外套や、鍔廣帽子を着る
國柄でも、彼等は主に古びた外套や、毛の襟卷や、固い牛圓形の帽子や、汚
れた棒色の手袋を着けてゐて、主領の様な扮装をしてゐるものは極めて少な
い。主領は鉢巻に鷄の羽の著いた廣い鍔廣帽子、長靴の上まで垂れた寛な外
套を着て、此上ならず非英國式である。武裝してゐるものは一人もない。而
して手袋を穿めてゐない者は、皆手を衣囊の内に入れてゐる。夕方、外は非
常に寒いものとは、彼等の國民的信仰になつてゐるのだ——序ながら、今夜

は普通の人には言分のない程暖い晩である。
 醉漢の拳闘師の他は、仲間の中に彼は三十二三以上と見える者は唯一人しかおぬない。彼は赤い頬鬚、弱々しい目、借金に苦んでゐる小商人の様な心配面をした小作な男である。彼は仲間の中で只一人高帽を冠つてゐる。而して其は是迄度々よくするつもりでつけては、益々初より悪くする二十五錢の特許帽子艶附の、粘々しい光澤で夕日に光つてゐる。彼はセルロイドの襟と袖口を著け、天鵝絨の襟の附いたチエスタアフィールド式の褐色の外套は、まだそんなに酷くはなつてない。仲間の中では優れて重々しい男で、確に四十以上或は五十かも知れない。場所は主領の右手の一番端にゐる。其向側、主領の左手には眞赤な襟飾をした三人の男がゐる。其中一人は佛蘭西人、跡二人は英國人。其英國人中一人は議論好の、偉らがりの頑固者。他の一人は騒々しい悪戯者である。

主領は輕外套の裾を左の肩にふわりと投げかけながら、立上つて演説する。此時一同の喝采する様子では、彼は確に皆の氣に入りの辯士であるらしい。

主領 諸君、私は此會に一つの提議をしたい。吾々は此で三晩引續き「無政府主義

者と社會民主主義者とは何方が個人として尤も勇氣があるか」と云ふ問題を討議し、無政府主義と社會民主主義の立場を詳しく研究した。而して無政府主義の理由とする處は、此中の一人の同主義者に依つて、充分に説明された。尤も該主義者は同主義に就て何等知る處がない(笑)

無政府主義者 (立上つて) 議事進行の順序に異議がありません

主領(手厳しく) 否、いけない。君の此前の異議は三十分もかゝつた。其上無政府主義者は、順序や秩序には構はぬ筈だ

無政府主義者 (温順しく、丁寧に、而も執拗に。此は云ふ迄もなく例のセルロイドの襟と袖口を着けた、重々しい老人なのだ) 其は大變な誤です。私は誤つてゐる理由を……

主領 靜に、靜に

他の者共 (叫ぶ) 靜にしろ。靜にしろ。坐れ。おい、議長。黙れ(無政府主義は屏息する)

主領 今一方では此處に三人の社會民主主義者がゐる。此三人は大變に仲が悪い。而

して同主義に就て、三つの全く違つた、互に矛盾した意見を述べた。

赤い襟飾を着けた三人の男

第一の男 議長其はちがひます。相對で詳しく話しませう

第二の男 其は虚言だ。私は決してそんな事は云ひやしない。主領、其は酷いよ

第三の男 私に云はして下さい。其は全く虚言です。虚言です、虚言です、虚言です

人殺シシシ！

主領 静に、静に

他の者共 静にしろ。静にしろ。議長！ (社会民主党者等皆屏息する)

主領 で、吾々は此處では凡ての意見を認容する。併し結局此處にゐるものゝ多数は、無政府主義者でも、社会主義者でもなく、紳士にして基督教徒だ。

多数の者 (叫んで賛成する) ヒア、ヒア！ さうだ。其通り

騒々しい社会民主党者、(黙らされてゐるのが辛く)君は基督教徒かい。猶太人ぢやねえか。猶

猶太人だ

主領 (二度と口を利かさない様な潤滑な態度で) おい、私丈は凡ての規約の例外だよ。成程私は猶太人だ。而して一朝ジオニスト等が由縁あるパレストアインの地に、再び我が種族を集めんとして指揮者を要するやうな場合には、此メンドザは名乗り出て最先に駆けつける(同情ある喝采——ヒア、ヒアなど云ふ聲が起る) 併し私は迷信の奴隷ぢやない。私はあらゆる方式を咀嚼した、社会主義の方式すらも咀嚼したのだ。——而してある意味に於ては一度社会主義者となれば、何日迄も社会主義者だ

社会主義者 ヒア、ヒア

主領 併し普通の人間は——普通の人間許りでなく、普通の山賊でもだ。尤も此は普通の人間とは云へない奴だが(ヒア、ヒア)——云ふ迄もなく哲學者ぢやない。普通の人間には常識で澤山だ。のみならず仕事の上では、私にも常識で澤山だ。で、吾々がムア人共の西班牙で最も風景のよい處として撰んだ、此シイエラ、ネヴァダ

に來てゐるのは何のためか。其は經濟上の紛糾た問題を討議するためぢやあるまい。自動車捕へて一層公平なる富の分配を得んがためなのだらう

佛頂面をした社會民主主義者 其富は皆勤勞が生み出したんだ

主領 (丁寧) さうだ、皆勤勞が生み出したんだ。而して今其が富裕な遊惰漢共の手に渡つて、あの地中海の楽しい岸邊を穢してゐる、罪の魔窟で撒散されやうとしてゐるのだ。吾々は其を途中で奪ひ取つて、最初其を生み出し、且今尤も其を必要としてゐる階級——即ち勞働者の階級に返し廻らせやうとしてゐるのだ。吾々は其をば自己の生命、自由をも賭して、勇氣、忍耐、思慮、わけても禁欲の徳に依つて爲し遂げやうとするのだ。私は此で三日間霸王樹と兎の焙肉の他何も食はない

佛頂面の社會民主主義者 (執拗に) 俺等だつて食つたかい

主領 (憤つて) 私が自分の分より餘計に食つたか

佛頂面の社會民主主義者 (平氣で) さうさ、又食ふ譯があるものか

無政府主義者 食つたつて悪い事があるものか。要る者は取り、要らぬ者は出したらいゝんだ

いゝんだ

佛蘭西人 (無政府主義者を脅す様に、拳を擧げて) 此欺騙者奴!

主領 (荒立てぬ様に) 私は兩方共賛成だ

純粹の英國生れの盜賊共、ヒア、ヒア、主領旨いぞ

主領 私の云ふのはお互に仲間同志を紳士として取扱ひ、仕事にかゝつた時丈勇氣は他に優る様に勉めなければならぬと云ふのだ

騒々しい社會民主主義者 (嘲笑的に) やあ、シクスピア!

口笛が丘の上の山羊飼の服を着た男から起つて來る。彼は飛上つて氣の立つた様に、遙道の北方を指す。

山羊飼 自動車が來た! 自動車が來た! (丘を駆け降つて皆の處へ來る。皆は急いで一齊に立上る)

主領 (響渡る聲で) 武器を取れ! 銃を持つてゐるのは誰か

佛頂面の社會民主主義者 (銃を主領に渡して) はい

主領 針が道に播いてゐるか

騒々しい社會民主主義者 二オンス撒いてありませう

主領 よし (佛蘭西人に) デュヴァル私と一緒に来い。若し針で旨く行かなかつたら、輪を弾丸で射抜け (銃をデュヴァルに渡して一所に丘へ登る。主領は雙眼鏡を出す。他の者共は道の方へ急いで、やがて北の方に消えて終ふ)

主領 (丘の上で雙眼鏡を使ひながら) 二人切だ。資本家と運轉手、英國人らしいな

デュヴァル 英國人、あゝ、さうです。氣をつけなさいけません (銃をいぢくりながら)

發射たなきやならんでせう

主領 否、針が旨く刺さつた様だ。輪が潰れて車が止まつた

デュヴァル (他の者共に向つて叫ぶ) さあ、諸君達早くかゝつて行きたまへ

主領 (興奮してゐるのを叱つて) 沈著てゐないか。——奴等は驚いぢやゐない様だ。さ

あ、降りて迎へて遣らう

主領は火の後を通抜けて前の方へ來ながら丘を降りる。同時にタナアとストレイカアは自動車用の眼鏡をいけ、皮の上衣と帽子を被ながら、手下共に道から連れられて來る

タナア 此は君達の主領と云つてゐた人かい。英語が話せるかね

騒々しい社會民主主義者 話せるともさ。俺等英國人ともあらう者が西班牙人位の手下になつてゐると思つてゐるのかい

主領 (厳しく) 名乗を上げやう。私はシエラ團の主領メンドサです(ぐつと偉ら相にして)

私は金持の金品を奪つて生活てる山賊です

タナア (透さず) 僕は貧乏人の金品を奪つて生活てる紳士だ。握手しやう

英國生の社會民主主義者共 ヒア、ヒア! (皆笑つて上機嫌になる。タナアとメンドサは握手する。手下

共は元の席に坐る)

ストレイカア おや、此處は何處だ

タナア (紹介して) 此が僕の友人の運轉手

佛頂面の社會民主主義者 (猜る様に) いや、何方です。お友達か其とも運轉手か。其に依つて大變な相違なんだからね

メンドザ (説明して) お友達には贖價金を貰ふ事になつてゐるんです。専門の運轉手には其が要りません。のみならず彼方でさへ請けて呉れたら、主人の贖價金の賦合を上げる事になつてゐます

ストレイカア ハ、ン、又此道を來さす様にだな。いや、ゆつくり考へて置かうよ

デニヴァル (衝動的にストレイカアの方へ突進して行き) 君、眞實か (嬉し相に相手にすがり付いて兩頬に接吻する)

ストレイカア (胸を悪くして) これ、退きねえ。馬鹿するんぢやねえよ。お前は一體誰だ。

デニヴァル 社會民主主義者のデニヴァルだよ

ストレイカア なに、お前が社會民主主義者だと

無政府主義者 なに、其は議會の欺騙や群盲に自分を賣つたと云ふ事なんだ。妥協、其が此男の信仰なんだ

デニヴァル (向になつて) 君の云ふ事は分つてゐるぞつ。群盲だとか妥協だとか云つたな。

死だつてそんな事をするかい。此虚言吐の畜生……

ストレイカア これ、首領、何日迄こんな事を言はして置くんだ。此處は自由な山ぢやねえか。其とも社會黨の集會でもおつ始めてゐるのかい

多數の者 ヒア、ヒア。黙れ。止せ。座れ (などい云ふ。社會民主主義者や無政府主義者は皆後の方へ押退けられる。ストレイカアは得意氣に其を見終り、やがてメンドザの左側に座る。タナアは右側にゐる)

メンドザ 何か食度の物はありますか。兎の焙肉と霸王樹ですが……

タナア 難有う。飯は食べました

メンドザ (部下の者共に) 今日の仕事は此でお終だ。朝迄好きな様にしたらいだらう

手下共は幾つもの群になつて、のそく散つて終ふ。中には洞穴へ行く者もある。又は露天に坐つたり、横になつて眠る者もある。二三の者は骨牌の包を出して道の方へ行く。今はもう星月夜で、自働車のランプが骨牌勝負の燈火に使へるのを知つてゐるからだ。

ストレイカー (後から呼かけて) 車を悪戯しちや不可ねえよ。いゝかい

メンドザ 君大丈夫ですよ。初めて捕へた車で皆懲々してゐるから

ストレイカー (面白がつて) 如何したと云ふだね

メンドザ 乗つてゐた三人の奴等が誰も止方を知らないものだから、車がグラナダ迄

走つて行つて、交番の前で顛覆して終つたんで、其以來は誰も運轉手の來る迄は

觸らない事にしてゐます。此から悠然話しませうか

メナア 其は面白からう

メナア、メンドザ、ストレイカーの三人が火を圍んで芝生の上に座る。メンドザは二人に遠慮して團長の資格を棄て、切石の上に座るのが其に附屬の特權であるのに、只其に凭れかゝつた丈で客と同じ様に地面に座る。

メンドザ 懸引は何日も翌日に延すのが西班牙の習慣で、其に貴方は事務の時間が過てからお着きなすつた。併し、もしすぐ贖償の話を決めて置き度いと云ふ思召なら、私は其でも結構です

メナア 僕の方は明日でもいゝ。相當な額なら幾何でも拂へる位は持つてゐるから

メンドザ (客の隱立しないのにいたく感心して、恭々しく) 貴方は實に偉い方だ。私共へ來る客

は、何日も酷く貧乏な様に云ふに決まつてゐますが

メナア 馬鹿な。酷く貧乏な者が自働車など持つてるものか

メンドザ 私共も何日もさう云つて遣るんですよ

メナア 丁寧な待遇ひたまへ。必つと其丈の事をするから

ストレイカー 霸王樹や兎の焙肉は眞平御免だよ。白ばくれないでも、しやうと思つたら、もう少し御馳走の出來ん事はねえだらう

メンドザ 現金なら酒でも、仔牛でも、牛乳でも、乾酪でも麴包でも何でも出します

よ

ストレイカー (愛想よく) さう來なくつちやならねえ處だ

タナア 失敬だが君等此處にゐる者は皆社會黨かね

メンドザ (此屈辱的な誤解を斥けて) 否、否、否、そんな事はありません。私共は勿論現今の不公平な富の分配には近代的の考へを持つてゐます。さうしないと私共の立場がなくなりまますからねえ。併し三三人の自分よがりの他は、突飛な考へを持つてゐる者は一人もありません

タナア 僕は別に其を悪く云ふ積ぢやなかつたんだ。實際僕も一寸は社會主義に感染れてゐるんだからね

ストレイカー (氣のない様に) 金持は皆さうでさ

メンドザ さうですよ。成程其は私共に迄傳はつて來ました。社會主義は此世紀の流行なんです

ストレイカー 君達の仲間が加はる様ぢや、社會主義も少しは物になりかけて來たんだな

メンドザ さうですよ。何の運動でも其が哲學者や、正直者に限られてゐる間は決してほんとの政治上の力にはなれません。そんな人は數が極僅ですからねえ。運動は泥棒の間にでも擴れると云ふ様でなくつちや、兎ても政治上の多數は望まれませんね

タナア だつて君等でも普通の人間と大した相違はないだらう
メンドザ え、貴方には何も彼も構はずに云ひませう。泥棒と云ふ商買は變則で、變則な商買は二種の人間を引寄せます。つまり普通の市民生活に堪へない者と、其には勿體ない者とです。此處にゐるものは泡と滓です。滓は大層汚いが泡は立派な者です

ストレイカー 氣をつけな。滓が聞くと悪いぜ